

# 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.1

歴史編



## 一年戦争資料館

宇宙世紀 0079、人類史上最悪と  
呼称される「一年戦争」が勃発した…

# 運命の開戦!



## 電光石火

地球からもっとも遠い宇宙都市サイド3は、ジオン公国を名乗り、地球連邦に独立戦争を挑んで来た



## 宇宙都市の崩壊

熱核兵器やビーム砲の連発攻撃だけでなく、榴弾兵器、毒ガス兵器でコロニーは全滅

## 無差別攻撃

宇宙戦艦に受けるジオン軍の猛攻は、連邦寄りのコロニーに次々に襲いかかる



## コロニー落とし

連邦軍の攻撃も空しく巨大なコロニーは、地球に向け、重力の井戸を滑り落ちて行く



## 史上最大の爆弾

直径6.5キロ、長さ30数キロの宇宙都市はシオン軍MS隊により軌道をそれて落下する

## 到着

オーストラリア、シドニーを襲撃したコロニー。大陸すら変形する威力に、地球の天候は激変する



ガンダムが突然動き出す



史上初の、MS同士の戦闘はガンダムが勝利した。すべてはここから始まる

# V作戦の行方



連邦軍MS提督者テムは、ガンダムを積み込みにサイド7に到着する



MS運用の新造艦ホワイトベース



地球方面軍指令ガルマ・サビ戦死



息子死を聞き、使者の前で杖を落とすデギン・サビ。WBはジオン最大の敵となった

# オデッサの激戦



地球の鉱山地帯を占拠したジオン軍と、奪還を目指す連邦軍との天下分け目の戦いオデッサディが始まろうとしていた

WB追撃にジオンは新型MBの猛攻を繰り広げる



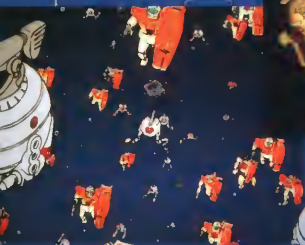
勝つ為には、兩機条約で禁止された水爆ミサイルすら使うと目すマ・クベ



レビル将軍は、一言も語らなかったという。ただ前進を示すための手を振っただけである。オデッサの作戦は連邦の勝利におわった

# 激動の宇宙に

初戦で失った艦艇の増産が終了した連邦軍は、制宙権を奪還すべく第一号作戦を発動した



工業力に勝る連邦は、ガンダムのデータを主としM5部隊の編成すら可能になっていた



ジオン防衛要塞ソロモンを、連邦軍はM5部隊を先陣に大部隊で包囲し陥落させた



最終決戦である。ソロモンを落とした連邦は、再び宇宙に上がったレビル将軍の指揮の下、ア・バオア・クーを抜き、ジオン本国へ進行する最終作戦を決定した

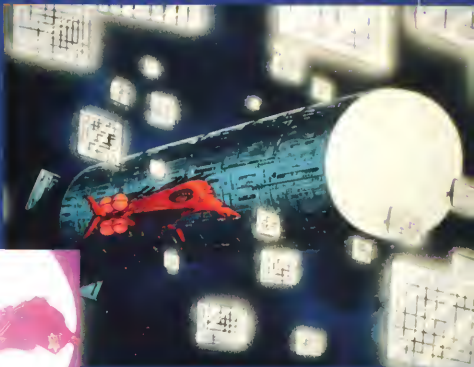
# 

デキンの和平申し込みは、レビルに伝わり、両者の会談が持たれる事になる…



徹底抗戦を望むギレンを残し、デギンは和平工作に出発した

デギンが、レビルが、そして連邦艦隊の大多数が暴風の光に飲み込まれて行く



しかし、ギレンはコロニーを改造した巨大レーザーを父に向ける

# 勝者なき結末



残る将兵に備を飛ばすギレン・ザビ。兵士の士気は高いが、戦力は残り少ない



激戦の中、全体の流れはさぞかわるうはすもなく両軍の兵士は必死の攻防を繰り返す

ザビ家の人間を滅ぼしたシャアは、勝敗の趨勢に関係なくひとり姿を消すのであった





MOBIL SUIT  
**機動戦士ガンダム**  
**宇宙世紀vol.1**

**歴史編**

GUNDAM

# テレビアニメとしての ガンダムを振り返る

※ガンダム20周年

1979年4月7日放映  
開始(東京では)なのだから、正確には19年少々であるが、気にしないように

※日X-78

兵器なのだから、形式番号が必要だろうとアニメックで考案した。シナリオ上ではガンダムX-78で愛称がガンダムとなっていたが割愛されている

## 歳月を越えた輝き！

機動戦士ガンダムの放映から早いもので、もう20年近い歳月が流れています。20年と一口に言いますが、放送当時14歳だった人が34歳になっているわけです。この本は、放映当時にガンダムに夢中になっていた人への回顧録と、新たにガンダムを見る人への案内書として企画しました。

ガンダムのキーワードのひとつに富野監督の『フィルムを見ればわかります』という言葉があったのを覚えている人も居ると思いますが、たしかにフィルムをみれば理解できるものの公式に説明されなかった事柄が多かったのがガンダムの特徴でした。

それだけにアニメ雑誌や同人誌が、こぞってオリジナルの解説を作ったのですが、記事の製作時期や、監督に確認した時間によって多少の食い違いがあります。

機動戦士ガンダムは、宇宙歴0079の後半を描いています。画面では説明されなかった内容が、後に紹介されていくという非常に

不思議な作品であった理由は、見ていた人の解釈は、全て正しいという製作姿勢にあるのかもしれません。それだけに謎解きの面白さが今も続いているのでしょう。だからこそガンダムは色褪せることなく輝いているのです。今では常識とされている、物語冒頭で地球に落下するコロニーが、ブリティッシュ作戦で落とされたものであるとか、ガンダムの形式ナンバーがRX-78であるという解説は、後から雑誌やムックで語られたものです。

中には編集者の思い込みが強かったものや、あきらかに間違った解釈もあったのですが、多くのガンダム特集やガンダム本で解説された記事は、当時の読者にとっては真実です。

それだけではなく。さらに、7年後の世界を描いた『機動戦士Zガンダム』や、その続編の『機動戦士ガンダムZZ』により、「実は一年戦争当時にこんな話があった」という設定も作られていきます。

近未来というのは、非常に予測がしにくいという面があります。たとえば、放送当時には家庭用テレビゲームというジャンルはなく、スペースインベーダーのヒットにより「ゲー



※アニメック16号

本邦初のガンダム解説書で、連載記事を編集したものながらバイブルとして愛用された

※超党派

ガンダム記事を製作した人々も、当時の会社になくなっていたりするの  
で、連絡の取れる人たちが協力し合っている。もちろん伝統的に多数のガンダムフリークの意見も取り入れられていたりする

ムセンター」という施設が各地に出来始めた頃なのです。車載電話すら珍しく、ましてや携帯電話をサラリーマンが使う場面はありません。ビデオデッキは高価な家電製品で本放送を録画したファンすら希少だったので。

一般的電子機器ですら20年間にこんなに変化しているのですから、予想される科学技術は、もっと極端な進歩を見せています。

機動戦士ガンダムでは、説明の付かなかった技術が、後にリアルに説明されていく例も多数あります。たとえば、二足歩行機であれば足の裏が二分割されていなければ直立できないというロボット工学の基本であるとか、宇宙空間のエンジンは、何か質量のあるものを噴射しなければ進まないという基本物理学です。そんな事は当時からあった技術ですが、リアル路線のガンダムはそれを吸収していかなければならない宿命がありました。こうして、作品とは別に歴史の重みが増していったのです。さらに、その後も続々と製作されるOVAやインサイドストーリーにより、宇宙世紀の激動期だった0079の年表は日々更新されていったのです。

その当時に生きていたはずの人や、製作されていたメカが登場した以上、フィルムに描かれていなくても、それは「有ったもの」と認識しなければなりません。別の物語であっても、やはり関連してくるのですから。

ガンダムの解釈は人それぞれ：とは言っても歴史や用語は統一してみたいのがガンダムファンの長年の夢でもありました。こうなったら超党派で、自分たちの作った設定にこだわらない全てが丸くおさまるような設定を製作する必要があります。現在サンライズでは、多くのガンダムを愛する人の協力で、オフィシャル資料を作成中です。

今後とも更新されていきますが、1998年現在の資料を中心に、かつての解釈との違いや変更点を解説してみる趣旨の本がこれです。放送当時、富野監督と話し合い、雑誌アニメックで読者に解説してきた内容は今も基本資料として生きています。ただ、同じ宇宙世紀を舞台としたガンダムストーリーが増えた今となつては矛盾も出ているのは事実です。放送当時の事も含めて、ガンダムを再認識してみるのが面白いのではないのでしょうか？

# 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol. 1

**歴史編**

一年戦争資料館  
3

序章●機動戦士ガンダムの輝き  
12

第一章●機動戦士ガンダムの世界  
15

第二章●ガンダム世界の基礎知識  
43

第三章●ピックアップ設定資料  
75

名場面セレクト  
107

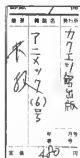
第四章●一年戦争激動の記録  
115

第五章●ホワイトベース完全記録  
163

# 第一章●機動戦士ガンダムの世界

# テレビアニメとしてのガンダム

—あれから20年—



※注文伝票

TVガイドを見て注文し  
てくれた伝票は多かった。  
ほんと、ラポートつての  
はマイナーらしい

## 放映当時のガンダム①

まずは当時の状況から説明しなくてはならないだろう。「機動戦士ガンダム」は、はつきりいって無名のアニメーションであった。

無敵鋼人ダイターン3の最終回で流された予告編で衝撃を受け「見たい!」と思ったのは、極一部のマニアだけだったのである。

後に聞くと、ガンダムに転んで人生を誤った多くの人々は、偶然にも一話を観ている場合が多い。大学生や社会人になった直後の生活の激変期に偶然にもガンダムを観てしまったわけで、それはそれでインパクトがあったものと思われる。

よほど恵まれた環境の人でない限りビデオに録画して、後で見直す等はできない時代である。あらゆる状況で真剣に見ていた一部の人間が熱狂したのは当然だったかもしれない。ちなみに、79年夏の時点で第一特集に機動戦士ガンダムを持って来たアニメ誌は他になかった。もともと、O・U・T、アニメージュ、アニメックくらいしか専門誌はなかったのだ

が、いや、この頃は朝日ソノラマのマンガ少年も貴重なアニメ情報源である。

視聴率もけつして明るいものではなかったし、反響らしい反響もなかったのである。

ただし、局地的にガンダムに燃えている人たちは、どこにでも居た。音楽カセットに音声を録音してテープ起こしをしている人や、毎回のスタッフリストを必死で書き留めている人の多さでは、今も語り継がれるカルトなアニメーション群である「海のトリトン」や「科学忍者隊ガッチャマン」「宇宙戦艦ヤマト」と同類の熱気があった。

6月9日放送の「ガルマ散る」を見て泣き崩れる女子高生ファンなどという図式は、それまでのアニメにないものである。(そういう見方はあまりしないものだが)

当日は期末試験中だったので、その後、四十九日にあたる7月24日に教会を借り切つて冥福を祈る集いをした団体すら存在した。

その夏のコミックマーケットでは、地域名を頭に付けた「〇〇ホワイトベース」という同人誌が数え切れないほど出版されている。横の連絡が強く、互いに連携していたから誌



※ガンダムフェスティバル  
ザンボット3の最終話、  
タイタース3の「スター  
の中のスター」、ガンダム  
の1話と2話という豪華  
な上映会であった。  
当日藤野監督の書いたと  
いう台本で、アムロ役の  
古谷徹(右)、ハヤト役の  
鈴木清信(中央)、シャア役  
の池田秀一(左)名氏によ  
る寸劇まであったのだ  
よ。

名に工夫したものであろう。

この頃だとガンサイトという同人誌がかな  
り本格的な内容であり、そのスタッフが後に  
伝説の「ガンダムセンチュリー」(みのり書房)  
の編集に携わっていたりもする。

今から考えると、信じられない話だが熱狂  
的ファンの求める物と、出版社の提供する物  
との需要と供給のバランスは取れていなかっ  
たようだ。それでも秋になると『知る人ぞ知  
るアニメ』として『機動戦士ガンダム』は認  
知されて行く。

週刊テレビガイドの読者コーナーで、『ガン  
ダム関係の本は何があるのか』という質問が  
出て、同編集部からアニメック6号が紹介さ  
れたりもしている。もともと、電話取材の行  
き違いで、この時には「隔月刊で出版のアニ  
メック」と答えたのだが「カクエツ館出版の  
アニメック」と誤植になっており、全国の本  
屋さんには、謎の「カクエツ館出版」へのパ  
ックナンバー注文が殺到したのであった。

79年8月27日には、名古屋テレビ主催で東  
京芝のABCホールで機動戦士ガンダムフェ  
スティバルが開催された。朝の5時から並ぶ

ファンで満員になったのを見て、その人気の  
高さと視聴率の低さのギャップに悩むテレビ  
関係者もいたのである。名古屋テレビは、ガ  
ンダムの催しを積極的にしてファン層を確実  
に増やしていた時期でもあった。

この後に各地で上映会が開かれたり、同人  
誌の草の根運動が爆発して、SF・アニメ・  
特撮ジャンルのファンが一挙にガンダムに流  
れるのだが、肝心の視聴率はほとんど変化す  
る事がなく、放送打ち切りが決定する。

視聴率を上げるには、やはり小中学生の層  
が必要なのだが、多いように見えてガンダム  
ファンの中核は高校生と大学生であった。

ただし、このガンダム支持を表明する人々  
の熱気は半端ではなかった。プロの編集者顔  
負けの掘り下げた企画や記事が同人誌に次々  
に発表され、ファンがファンに向かって情報  
発信をしていくという今までになかったネッ  
トワークが構築されていくのである。

ひとつの文章に共感した人間が、自分も新  
しい文章を書くという状況がネズミ算式に増  
えていき、その余波は放映終了後も続いたか  
らこそ劇場版ガンダムが生まれたのである。

## 放映当時のガンダム®

※ブレンパワード

初のスクランブル放送アニメ。私はこの番組を見るためにWOWOWに加入した。

毎週水曜の夜7時半に放映されるので、帰宅してビデオを再生するまではとっても不安(笑)

富野監督の新作として押さえておきたい番組だ

『機動戦士ガンダム』第一話の放映は、関東ではテレビ朝日系列で昭和54年4月7日であった。新番組としての宣伝は、ほとんどなかったと言ってもよいだろう。

平成10年放映中のブレンパワードの方がよほど宣伝量が多いのである。WOWOWでスクランブル放送なのだから、宣伝しないと誰も気が付かないという事情を差し引いてもガンダムには前宣伝がほとんどなかったのだ。

となると、中核になるファンは、まだ世間に認知されていなかったアニメファンだったのではないだろうか？

たしか初期のガンダムファンは、宇宙戦艦ヤマト時代からの人が多かったように記憶している。まだマスコミがアニメファンの潜在的なパワーに注目する以前とも言えよう。

1クール放映後からは、口コミで面白さを知った人が増加したようにも感じている。

ガンダムの設定は、かなり一般SF常識なのだが(当時としても)それらを知らない人が

増え、解説記事のある同人誌に人気が出て来るのである。

もともと設定の多さという点では、ガンダムは半端ではなかった。富野監督が次々に出すアイデアは、現場でも消化しきれない物もあったようである。

雑誌アニメックでは、矛盾点の整合をかなり鼻根の引き倒し的にやった感がある。

それでも初代ガンダムにおいては、なんとか辻褄を合わせられたのだが：

当時はミノフスキー粒子というキーワードを讀者に説明しなければ、ガンダムの物語そのものが成立しなかったのである。

電磁波を遮蔽し、あらゆる電波誘導兵器が使えない環境を生み出す架空の物質であるミノフスキー粒子があるからこそ、第二次世界大戦前期のごとく、敵味方がテレビフレームの中で対峙できるというドラマの根幹を理解していないガンダムファンが多かったというのも不思議である。

もともと、ミサイルがなぜ敵に当たるのかという基本原理を知らない人に、ミノフスキー粒子下ではなぜミサイルが使えないかを説

※ミノフスキー粒子

詳細は、第二巻のガンダム世界の基礎知識参照





※ドタイプとフ  
設定書の合成には思えない  
力作(笑)だ。  
他社がこの設定書をサン  
ライズに請求しても存在  
しなくて、騒ぎになった  
事もある

明するのはなかなか難しいものがある。

それだけに人間ドラマやメカの魅力が大きかったのかもしれない。設定なんぞは知らなくとも楽しめる作品だと言いつける人もいたくらいだから間違いないのだろう。

それでもガンダムの設定は魅力的であった。荒唐無稽と言われるテレビアニメの中で、これだけリアルな設定を生かす物語が誕生したのを大喜びした人は多かったのだから。

ちなみに、設定書をそのまま使うのではなく必要な図版を合成して挿絵のように用いるというアニメック方式は、苦肉の策でもあった。ガンダムの作画設定資料の枚数は、膨大な量である。基本設定書だけでも通常のアニメの倍程あり、それ以外にも各話設定書が存在する。これがキャラクター・メカ・美術と別れているのだから少ないページ数ではとても紹介しきれないのだ。

そこで美術設定の場面にキャラとメカを配置して、なんとなくその話数の挿絵らしきものを作ったのだからいたしたものである。

てな事を書くとき副編集長だったUが激怒するかもしれない。今でこそ図版の指定

は簡素化されているが、当時は原図と同時にレイアウト見本を印刷所に送付しなければならなかった。

それにはどうするかと言うと、トレースコピーというプロ機器を使うわけである。今でもデザイン関係では必需品であるが、電話ボックス程度の暗幕を張った箱にランプとレンズとトレース台がついた物と思ってもらえばよいだろう。下の段に原図を入れ、適性倍率のレンズに交換し、両側についたハンドルをガラガラ回しながら、焦点と倍率を決めるのである。夏場などはランプの熱さも加わり蒸し風呂状態なので、半日作業するとゲッソリ瘦せるというしろものであった。

彼は毎日のように設定書の倍率を決め、エンピツでその輪郭をトレースするという作業を繰り返していたのである。他誌では、遅んだ設定書をそのまま掲載していたのでこの編集方式は読者に好評であった。

今にして思えば、この当時の一番重要な資料はフィルムそのものである。ビデオが普及していないので雑誌のカラーページでしか追確認ができなかった時代だからだ。

## 放映当時のガンダム③

「機動戦士ガンダム」には基本設定があったようで無い部分が少なからずある。

後に何度か同じ状況が出るのだが、固有名詞の欠落などが好例である。「南米の連邦軍本部」を暫く繰り返し、ある日突然「ジャブロー」という固有名詞が出てきたりするのだ。

富野監督作品のパターンとして、カメラが突然日常生活に入っていく作品が多い。ガンダムの場合は状況設定があまりにも異質なので、戦争中である状況を説明するナレーションが冒頭に入るが、それでもカメラは突然サイド7の日常生活に入っていく。

物語は、突然戦争に巻き込まれた少年少女が生き延びる為に戦わざるをえない苛酷な状況を追っていくのだから、それ以前の事は言葉でしか語られていない。

2話でホワイトベースに向かって来る2機のザクを識別後に緊張した会話が流れる。

「で、でも！ブライトさん、このスピードでせまれるザクなんてありません」

「1機のザクは通常の3倍のスピードで接近します！」

「シ、シヤアだ。あ、あつ赤い彗星だ」

「はっ？ 艦長！ 何か、……ええ、赤い彗星のシヤア!?」

「ルウム戦役で5隻の戦艦がシヤアひとりの為に撃破された！ に、逃げろ……!」

意味はフィルムを見れば確かに分かるでしょう。自分たちに接近するザクのうちの1機は重傷を負っているとはいえ、歴戦のパオロ艦長ですら恐怖する強敵なのだ。

省略された台詞回しと、緊迫感のある演出ですっかり自分も乗組員の緊張を体験している富野マジックの心地良さ。

しかし、ちょっと興奮が冷めてくると謎の嵐なのである。ルウム戦役って何？ どうやって5隻の戦艦を沈めたの？ 宇宙空間を進むのはバーニアの推力が基本なのに、なんで3倍の速度になるの？

勿論、一番最初の取材で聞いた頃には「ジオンの奇襲での戦闘なんです。第一次が一週間戦争というコロニー落とし、第二次がルウム戦役という俗称なんですけどね」という答



※ガンダムセンチュリー  
コロニー落としの詳細は  
この本で世間に認知され  
た。放送から2年後に発  
売されたのだが、ビジュ  
アル構成の内容はファン  
を唖らせた

えもあつたのである。だが、基本設定とスト  
ーリーボードは企画段階のガンボイからの変  
更途中で完全なものではなかったのだ。

事実コロニー落としにしても、視聴者のほ  
とんどは複数が落とされたと思像していた頃  
なのである。スタジオぬえが中心になって編  
集されたガンダムセンチュリーが発行される  
まで、緒戦で落下したコロニーはひとつだけ  
だったとは多くの人が知らなかったのだ。

(企画段階では、約40個のコロニーを3日に渡  
って落下させた事になっている)

物語の中盤でのインタビュウでは「一週間  
戦争もルウム戦役も単なる枕詞です」と変わ  
ったくらいなので、フィルム製作と設定がほ  
ぼ同時進行だったのかも知れない。

今回この本の製作にあたり、古い記録を読  
み直してみたのだが、なにしろ20年から前の  
物で最後は自分の記憶が頼りという始末。

それでも、色々思い出した事を繋げて行く  
と「情報のタイムラグ」という原因にたどり  
着いた。フィルムをリアルタイムで見えて、そ  
の疑問を現場で聞くという一見すると間違ひ  
のない取材をしているようにでいて、聞いた人

の情報取得時制を確認していないのだ。

たとえば初期設定ガンボイが強く頭に残っ  
ているスタッフは、その設定で説明してくれ  
るわけだし、シナリオに詳しい人はその説明  
をしてくれる。どうしても完成したフィルム  
とは微妙な差が生じるのである。

なにしろ放映後に聞くというのは、作業に  
よっては数ヶ月も前の話になるのだから、ど  
うしても現在進行形の知識を中心にした解説  
になってしまうのはいたしかたない。

新しい設定が出て、物語を進行する上で  
必要になったものか、過去に考えられていた  
ものかの判断がつかないものも多かったのだ。  
最近のアニメ番組のように、放映前に裏設  
定やラストの話までが視聴者に伝わるわけは  
なかったのだ。富野監督の頭の中にだけ有り  
フィルムに定着するまでは、スタッフすら知  
らない情報は山のようにあつたわけだ。

事前に知らないからこそ視聴者は、毎回真  
剣に観る事になる。先の見えない閉塞感と同  
時に今真剣に観ないと理解できない焦燥感に  
捕らわれて。こうして考えと設定解説は追  
体験のおまけでしかなかったのかもしれない。

## ホワイトベース状態

「機動戦士ガンダム」を語る人は多い。それこそ切り口はいくらでもあるのだから。

では、アニメックはなぜあんなに支持されたのだろう。今読み返してみると同人誌よりは装丁がまし程度の本なのである。作った本人が言うのだからこれほど確かな事はない。

しかし、不思議な事に1979年の自分の事が確実に蘇って来る本だ。真剣だったし、当時の自分としては最大限の仕事をしているのがわかる。案外これが秘密かもしれない。

他にガンダムを特集した本がなかったからだけでは、説明の付かない一種の熱気が紙面に溢れているのだ。

ホワイトベース状態という言葉が、当時の編集部では日常茶飯事であった。今でこそ出版がメインのラポートであるが、当時の出版部門は新設されたばかりの「おまけ」部門であった。もっと極端に言うならお客様への情報還元セクションだったのである。

もともとの出版をしていた会社が本を作る

のではないから、何から何までが初体験。ようするに、自分の出来る事からやらなければ生き延びられないという、WBのクルーと同じ状況に置かれていたのである。

得意じゃないからとか、経験がないなどとは言っていられる状況ではなかった。毎日が戦場の編集部から送り出される情報だけに、妙なりアリティがあったのかもしれない。

一話でのアムロの台詞「今度、ザクを爆発させたらサイド7の空気がなくなっちゃう」などは、「もう一日締め切りが延びたら、アニメックの発売がなくなっちゃう」に等しいリアルなものであった。オイオイ(笑)

(それでも発売が遅れて、多くの読者に何日も本屋さん通いをさせてしまった。実に申し訳ない。あらためて謝らせていただきます。地方の読者は、まだ配本数の少ない本を求め特急の停まる街の本屋に通わせてしまいました。あの当時のご支援、忘れておりません。ありがとうございます。感情面ではすっかり1979年に戻ってお礼申し上げます)

考えてみると、あの当時ガンダムを観ていた人達は、みんな孤独なアムロだったのかも



※アニメック6号  
本格的にガンダムを特集した本邦初のアニメ誌



しないのだ。いやアムロでなくても、先の見えない状況で、今を頑張るしかないというホワイトベースの仲間の誰かに感情移入ができていた人たちのだろう。

大人が解説するテレビアニメは、自分たちの言葉とは違うと感じる人たちが増えた頃である。ミステリー解説を主体においた月刊O UTの創刊2号で、同人誌ライターとそこからセミプロの仕事を開始したばかりの人間が集まって「宇宙戦艦ヤマト特集」をしたら、大人気で完売だったという経験は、ほんの2年前という時期であった。

それから考えれば、アニメックの編集者と読者はまったく同等の視線でガンダムを見ていた事になる。実際に最年長の編集長ですら大学生という、平均年齢が異常に若い編集部だったのである。

アニメックの編集方針に共感した読者の原稿を積極的に採用した事もあり、読者でありながら「自分の作った本」という意識を持つ人も多数存在し、今では再現のしようもない奇跡的な連帯感が生まれていたのも事実である。そういう現象が起きたのは、やはり原体

験として「機動戦士ガンダム」を同時に観ていたからという共通認識があったからなのではないだろうか。

フィルムの完成度という点では一世代前の作品である。今でもビデオを見返すと不思議な体験をする。(当然機種はβである)

現実にもモニターに写っている映像と自分が見ている映像が違うのだ。今の自分は、よくこの画面で感動したものだとか冷静なのだが、昔の、手に汗握って見ていた自分は当時の感情を再現しながら見ているのである。

それも最初のうちだけで、数話も見るとすっかりその気になってしまい締め切りも忘れて徹夜でビデオを回す事になってしまうのだ。待ち望んでいたLDが発売されるが、かつてのファンは、これでタイムトリップができる事、請け合いである。人間の脳は不思議な働きをする。見えないバーニアを吹かすガンダムや、ストーリーはTVのままで、劇場の映像が甦ったりするのだから……。

この本を読んで、ガンダムが放映されていた頃の自分が思い出せる人がいるなら、望外の幸せである。

## 宇宙の戦士とガンダム

ハイラインの「宇宙の戦士」がガンダムの企画段階にあったという話は、今では周知の事実である。

まあたしかにそうなのだが、ストーリー的には何の関係もない。というよりロボットのようない兵器を使うにあたっては、補給とメンテナンスがかかせないというSF小説のリアルさが生かされているというべきだろう。

バワードスーツという装甲服を着た惑星降下兵の物語が「宇宙の戦士」であり、1959年にアメリカで発表された当時には好戦小説であると有識者に叩かれたそう。

日本発表当時にも戦意高揚を目的にした小説ではないのかという論争も起きた作品である。それはそうだが、朝鮮戦争の結果に憤ったハイラインが、共産主義国家との戦いをイメージして『祖国の為に命を捧げよ』というメッセージを託した小説なのだから、ガンダムの物語とは骨子がまったく違う。

なお、この作品は本年のゴールデンウィークに「スターシップ・トルーパー」として映画公開されたが、新聞の広告に原作ロバート・A・ハイラインとなければ「宇宙の戦士」だとは気がつかないスチール写真であった。

いささか裏話になるが、「宇宙の戦士」が企画段階で研究されていたのは事実である。

この当時の富野監督の表現に従うならば矢立部長(父)の趣向に大変合った物語であった。戦争は嫌いだけれど、戦車が好きという人だったので、矢立部長がからんだ企画にはほぼ間違いなく戦車が登場する。

もっとも矢立部長が一番研究していたのはSFとは何かという事であった。SFをよく知らない人間がSFっぽいものを作っても何かが足りない。ロボットが出ただけでSFアクションと名乗るのではなく、企画段階からSFを研究しようというわけである。

この方針は、成功した。なぜならば、SFファンの中からガンダムファンが名乗りを上げ始めたのだから。

モビルスーツが動くのか?という疑問が出る前に、リアルな宇宙描写とそこに生活する人が描かれていれば、このモビルスーツはな

※ 矢立部長

矢立 肇は、サンライズ企画室の文芸部のペンネームであるのは、周知の事実である。が、どうしても戦車の大好きな人の影響であると思う。

※SF大会

毎年夏に行われるファン  
主体のコンベンション。  
数々の伝説の発祥地

※モービルスーツ

発言者は、映画評論家の  
「Oさん」である(笑)  
映画の意図はちゃんと理  
解してくれていたんです  
が、基本発音が違うのは  
困るよね。番組出演中の  
富野監督はうろたえる事  
なく、作品テーマを語る  
のであった

ぜ動くのだろうと考えるようになるものだ。

スペースコロニーは、いつてしまえば巨大な宇宙ステーションである。回転する遠心力で疑似重力を発生させているのだから、円周の内面では地球と同じように行動できても、中心軸に近い港は無重力である。このごく当たり前の事がちゃんと描かれただけで、SF知識のある人にとっては続く描写は全てリアルに感じられるのだ。

今こそメディアミックスで小説もコミックも映像も同列に語れるが、ガンダム放映当時のアニメは、小説より低い評価をSF界から受けていた。SF大会でアニメの話をして、あまり嫌がられなくなった程度の頃である。今は、当時熱狂したガンダム世代が中核になったので、SF大会での話はアニメが中心になった感すらある。

そういう意味では、ガンダムがSF小説から「SFとは何か」を学んだというのは間違ではないだろう。

つまり、ガンダムは「宇宙の戦士」を換骨奪胎したような作品ではないのである。

モービルスーツという名前の付けられたリア

ルなロボット、それがガンダムという認識は今も昔も変わりはないのである。

以後、色々な作品に登場するロボットは、いかにもリアルそうな名前を付けられるのがモービルスーツほどには定着しなかった。

もともとモービルスーツという名称は、継続作品の多さと、プラモデルの販売量がかなり貢献しているのは間違いないのだが。

余談ではあるが、後に劇場版の宣伝番組で某評論家が「モービルスーツ」と発言したのには、いささかショックだった。

映画になったところで、やはり一般人にまでは認知されていなかったのかと悔しがるファンは多かった。

しかし、ガンダムファンはこの悔しさをハガキを書く情熱につき込んだのだからたいしたものだ。ベスト10番組の上位に食い込むためには半端な数ではだめだ。ただし圏外から赤丸急上昇するくらいは書けるのではないか。

こうしてガンダムファンの面々は、ハガキを書きまくる、驚異的な枚数を投函する日々を繰り返した。これは、劇場版3部作終了まで、かなり効果的な組織票となったのである。

## 「コロニー」の基本言語をめぐって

「ガンダム」の準備企画は「ガンボイ」である。もともと「ガンボイ」という宇宙物の企画があり、「ガンボイ」になった頃にはほとんど完成されていた。

どちらかというと、ガンボイを整理して一部名称変更をしたものがガンダムというくらい完成された企画だったのである。

これが後に混乱の元となったのだから不思議なものである。ガンダムワールドでは漢字を使わない方針であったが、カタカナに直り切らない設定書やシナリオが回るのだから、現場だけでなく、編集サイドでも混乱をする。どちらかというと統一表記にしたいUCは今でも説明しないと通用しないのに、こういう、はみ出したような設定だけはいつまでも一人歩きをするから困ったものである。

UCはユニバーサル・センチュリーで、宇宙世紀の正式な表記なのだが、年表等でUC表記にしていると質問が来るのが現状だ。

UC0079と書けば一年戦争の時代とい

うのは誰でも納得してくれるのだが。ちなみに現在のUC元年はサンライズオフィシャル資料では「居住可能なコロニーが完成し、宇宙移民が開始された年」となっている。

これはもともとの設定でもそうだったのだが、キャラクターに思い入れのあるファンが「今から何年後？」という質問を繰り返すものだから「あなたの想像した年です」的な回答があったりして、「スプートニク打ち上げ」やら「アポロ11号の月面着陸」やら、「2001年」等の諸説が乱れた時期があるせいかもしれない。

昔から10年前後の近未来を想像した作品は多いが、実際にその年になってみると思ったより文明は進歩していないものである。その癖どうでもいいような物は劇的な進歩をしているから未来予想は難しい。

特に宇宙開発においては、放映から20年も経って、スペースシャトルに日本人が乗り込めた程度の進歩しかないのだから。

UC0079は宇宙移民が開始され79年も経過した時代である。順調に行けば、三世代の世代交替が繰り返された未来。宇宙に住む



※基本用語

鉄腕アトムがアストロボーイとしてアメリカに輸出された際の吹き替えが秀逸だ。

移民の国アメリカらしくギャラクター別に流りがあり、天馬博士は当然ドイツ語だったらしい。

だったらガンダムって作品は『共通言語』で製作された物で、我々はその日本語吹き替え版を見ていたと考えてみたら、かなり物事が解決するのでは(笑)

うーん、それにしてもジオン語ってどんなんだ?

演説好きのギレンには詠りはないものな……

のがごく普通の時代という概念になる。

そういう時代であれば、出身地の意味はかなり薄まり、何らかの共通言語を使う統一された世界になっているだろうと予測したのがガンダムワールドだ。

その世界なら漢字は残っていても、通常表記には使われないだろうと考えるべきなのが、名前に漢字が入ってる設定書の方が秘密めいた裏設定のように見えるから積極的に使われたようである。

ハヤト・コバヤシなどは、その典型かもしれない。ハヤト・小林という表記はごく普通に使われていたし、『ガンボイ』時代の設定書では『隼人・小林』なのだ。

名前を記号的な意味で捉えないと、ガンダムは少し見え方が違って来る。やはり漢字が出るイメージが変わるものである。

時代の変化という意味では主人公のアムロの語感に激変している。

「この名前だと沖縄方面の出身ですよ」と質問する人間すら珍しかった放映当時と比べ、今ならこのあいだ出産した人気歌手のお陰で『安室』という漢字が浮かぶだろう。

1話のシナリオでは、アムロ・麓、テム・麓と表記されていたりするのだ。このテムにしても一話のエンディングテロップは詠りがあるようなのだが、私は誤記として処理して見なかった事にしている。

やはり、ガンダムの主人公が『安室麓』では宇宙時代という気がしないではないか。やはりアムロ・レイがビッター来る。

この漢字問題を最後まで引きずってしまったのがミライである。当初『ミライ・八洲』は、知る人ぞ知るという表記ではあったが、困った事に途中企画の『エイトランド・エイランド』というメモが残されていた事もありどこのお嬢様が混乱した時期があるのだ。

セイカのぬりえでも『ミライ・エイランド』さんは、ホワイトベースの艦長さん」という恐ろしい記述があった時代である。

やっとミライ・ヤシマとして統一された頃にゴッパ提督がフィアンセ問題で『ヤシマ家』の問題を蒸し返すものだから視聴者の脳裏に『八洲家』という漢字が浮かんだのだ。そういう余計な知識を与えたアニメ雑誌が悪い……はい、すいません(笑)。



＊デギン似のガンドレー

## ザビ家の系図は謎なのじゃー

ガンダムワールドの謎として今も残るのはザビ家三男であろう。いや、これは暗殺説を支持し、詳細を解説したアニメックにも責任はあるのだが。

なにしろ当時公式発表されたザビ家の系図には三男は登場しないのだ。もちろんフィルムの中でも何ひとつ触れられてはいない。

ガルマが末弟で三男ならば何ひとつ問題ないのだが、彼の記載は四男だった。

（ザビ家末弟とか、弟という表現しかフィルムに出ないのだから、三男という言葉をまったく無視する方法もあったのだが）

これは、ひとつの仮説なのだが、準備企画の「ガンボイ」（ガンタムの放送前に用意されていたタイトルのひとつ）では、ジオン側にデギン公王似のガンドレーという男性と、ギレン総帥似のゲルベルという男性が居たのである。ラフスケッチも残されている。

ギレンやドズルは別人として描かれているので、他のキャラクターにもあるような名前

の変更ではない。

設定を整理統合していく過程で、長男がギレン、次男がドズル、長女がキシリア、末子（子）がガルマという設定になり、ガンドレーとゲルベルはストーリーに関係ないので整理されてしまったのではないだろうか？

（近年は、ドズル三男が公式設定となりつつあるようだ。そんな事言われてもなあ…）

完成した系図に、年齢や次男というメモを記載をしている時に、前の設定にあった記載が残り「三男」が飛んでしまうケアレスマスなのではないだろうか。それでいくと年齢的にも矛盾する記述もあったりするのだが…

ガンタムの設定原案では、次女ミハル・ザビ（17歳）という名前だけは残っていたりするのだからこの混乱は十分に考えられる。

普通であれば、画面に現れた人物だけで解説すればいいのだが、文章資料として配布された物を参考にするのでこういう事が起きたようである。

昭和54年10月8日の富野監督はこう答えている。（アニメック8号インタビュー）

「ザビ家の三男が抜けていますが戦死でもし



※ギレン似のゲルベル

※サスロ・ザビ

おーい、何の資料もアニメックには残されていないぞ(笑)どこから出た名前なんだろう…謎

たのでしょうか？

富野 これもガンダムの物語にぜんぜん表れていないのですが、ザビ家がジオン・ズム・ダイクン一派を掃討した仕返しに、ダイクン派の何者かに暗殺されたのだろう、ということになっています。テレビでは、わかりませんが…(笑)

フィルムを見てもわからない代表のような話である。その後の雑談で「三男暗殺の時に、ドズルがケガをしたんでしょかねえ」と質問して、「その考えも面白いけど、ドズルって現場の将兵に人気があるから、戦場で負傷した説も捨てにくいよ」なんて釘もさされています。うーん困った。

ドズルのガルマ溺愛の説明としては、過去に弟を守り切れない思いがあるからというのは非常に納得してもらったのだが…

それならば、末っ子を可愛がる父としてのデギンが、ガルマの訃報に杖を落とすほど衝撃を受けるのも説明がつくところである。

当時の富野語録としては

「どうして、アニメックはストーリーに関係しない、枝葉のことにそんなに熱心なの？」

という名文句も残されている。(笑)

…で、以後のアニメックでは、爆破テロによる暗殺で三男死亡、同行していたドズルは全身に破片を浴びるが、奇跡的な体力で無事という解説にしてみました。

たしかに、それぞれの編集者が思い込みで設定を補完していくと全体の整合性がなくなってしまうのは免れませんね。

ここでも謎は残る。当時のアニメックに関係していた人間に、「サスロ・ザビ」という名前はどこから出て来たんだろうと尋ねると「公式資料で貰ったものですけど」という回答ばかりが返ってきた。放映中にそのような資料を貰った覚えはないのだが、今ではどの本にもサスロ・ザビの名前が残っている。

ザビ家三男サスロ・ザビ…誠に不思議な謎の人物といわざるを得ない。たしかにストーリー上は必要なくなったり、割愛されたキャラクターには枚挙のいとまもない。

たとえば、ホワイトベースクルーの中では、ガンダムになった時点で消えたキャラクターとして「八丈 志麻」がいるが、ラフスケッチのみで設定メモは残されていないのだ。

## ビデオのない頃のガンダム

放送当時の「機動戦士ガンダム」は、あまり注目されていた作品ではない。ターゲットとした年齢層と、作品内容の高さが合わなかったからである。

それでも、「無敵超人ザンボット3」以降のリアルロボットファンは「ダイターン3」最終回のガンダム予告編で放映を楽しみにしていたのである。

不思議にリアルタイムで見ている人間が多いのがガンダムの特徴だ。普通は学生や社会人が上曜の夕方に家にいないもんだらうに、どうしていたのだろうか。

かくいうアニメック編集部は、編集部を新宿御苑に設立した直後でありテレビはなかったのだ。それまでは某所で共同作業をしていたので人のテレビを見ていたのだ。土曜日の午後3時になって、今日は第一話だと思い出すくらい忙しい時期でもあったのだが……。

しかたがないので、正副編集長二人が近所の電気屋へ出掛け、二人で3千円しか持つて

いないのでそれを頭金にして月賦でテレビを買って来たという信じられないエピソードもあるのだ。なんて貧乏なんだろ。

編集長が得意の工作で、クリーニング用の洋服ハンガーをアンテナに改造。有り合わせの平行ワイヤーを接続して受信成功したのが5時5分前という綱渡りであった。

ときたま、「いや、本放送は見てなくて」という人もいるのだが、土曜の夕方5時の本放送を見続けた人にはドラマが多い。

学生にしろ、社会人にしろこの時間の番組を見続けるというのは至難の技である。

たしかにビデオはある所にはあったのだが、アニメ製作会社にすらβ1とβ2の切り替えが出来る（フォーマットだと1時間録画）のが新形で、チューナーはまだチャネル式のものだったのだ。それすらない場合もあったのだが……。

5話「大気圏突入」に至っては、打ち合わせ先の和光プロダクション（吠えろブンブンの番組宣伝に関係してだったと記憶する）でβのテープを渡して、会議中に放送された物を社長室のビデオで録画してもらい、後からまんが画師（江古田にあった伝説のショップ）

※まんが画師

アニメプロデューサーや企画関係者が、喫茶店の領収書があまりにも多いので、それならいっそ自分たちの店を持つかと作った喫茶店。

昼はマンガ喫茶、夜は製作関係者のミーティングルームとなる予定だったが、予想通りマニアの集まりとなり3年で潰れた。ここで引っ掛かってプロになった学生数知れずという魔窟である（笑）



に持って行って深夜に再生するという綱渡り  
すらしたものである。

これとて、ビデオがある会社を前提にした  
行動で、それが不可能ならば打ち合わせ日を  
ずらしていたかもしれない。というわけで、  
機動戦士ガンダムはこの1話を除き、全てリ  
アルタイムで見ているのだから我ながら凄  
いものだと関心する。

余談ながら、編集部にはビデオが入ったのは  
9月になってからで、めでたくも最初の録画  
は9月8日放送の『マチルダ救出作戦』から  
であった。ようするに、本放送の録画は23話  
からしかなく、後で再放送のものをしっか  
り録画するわけである。

だから、この年に出ているアニメックの記  
事は全て記憶とメモが頼りという状態なの  
だが、これが幸いだったのではないかと今は考  
えている。

一話一話を真剣に見て、予告編で胸躍らす  
という一般読者とまったく同じ感性で記事を  
構成したからこそ、あれだけの共感を呼べた  
のではないかと思うのだ。

ビデオチェックなら簡単に発見できる作画

の遊びであっても、一度見ただけでは見逃す  
場合が多い。それを細部まで発見できる人が  
多いのだから恐れ入る。

逆に、その情報をもとに放映済みカットの  
セルを撮影して雑誌掲載したこともあるくら  
い、読者の意見が反映していた本作りであっ  
た。隔月発行なのと、情報先取りをしないを  
原則にしていたからできた作業でもある。

今なら、放映作品の解説が二カ月後に書店  
に並んでも相手にされないだろうから時代の  
生んだ奇跡というべきなのかもしれない。

評論と感想文の境は何か？ いつも思う事  
なのだが、自分の言葉で他人に共感させる事  
ができるなら、それは全て評論なのではない  
だろうか。全国から送られて来るガンダムの  
感想文が、日を追って鋭くなり出したのは、  
やはり秋になってからである。

アムロの行動と、周囲のキャラクターの会  
話からニュータイプ概念の気が着き始めた  
読者が増えて行った。テレビ放映以外に、何  
の予備情報もない視聴者が、何かの勘の良さ  
をアムロに感じとっていったのだから、富野  
監督の製作意図は正しかったのである。

## 劇場への道1

放送が終了してもガンダムの人気は継続していた。ガンダムの後番組は、ガラリと趣向を変え年齢層を低くした『無敵ロボ トライダーG7』だったのでガンダムファンの行き場がなかった事にもよる。

ガンダムファンが次に熱狂したのは『伝説巨人イデオン』であったのだが、ガンダムの余韻は消えるどころか、イデオンにより再過熱されて行ったのである。

ガンダムの特集記事は増える一方であった。アニメック本誌のバックナンバーを読み返してみると、昭和56年3月号で「さらばガンダム特集」をし、富野監督に「君の質問は答えにくいからやだよ。もう、顔を見なくて済むと思うとホッとします。本当の話」という暖かいお言葉をいただいてインタビューを終了しているにもかかわらず、その後も記事が増えていくのだからたいしたものだ。

拡散と浸透の時代というべきなのだろうか。視聴者は少ないにもかかわらず、熱狂的なフ

アンのみで構成されていたのがガンダムの強みだった。放送が打ち切られた事による幻のストーリー、幻のMSが口コミだけで広がっていく。それどころかニュータイプ論は放送終了後の方が激論になっていったのである。

ビデオの普及率が80年代に入り急激に上昇するが、80年当時ではまだ少ない。

ここで活躍したのがサンライズ。当時は日本サンライズが放映中の年末から発行を開始した『機動戦士ガンダム・記録全集』である。1巻は、今見ても驚く、なんとカラーページのほとんどが、第一話のフィルムストーリーであった。まさか43巻セットになるのではないかという憶測も流れたが、さすがに2巻の途中から編集チームがバトンタッチして12話まで収録してはあるのが……。

製作会社が出版物を作るといえるのは冒険だった時代に、このような本が出た意義は大きいだろう。全5巻の中に43話の全てと、設定資料、それにスタッフの声が収録された貴重な資料である。企画設定であるとか、ラフ原画を掲載するのは、今でこそ珍しくないのだが当時は画期的であったし、製作会社の強み



でマル秘資料が惜し気もなく載っていた。

一冊2700円と高価な本であったが、この本に掲載された資料がますますガンダム熱を煽ったのは間違いない。たとえば割愛されたストーリーリの中登場する「ガッシャの山越えハンマー」等は、活字で見ただけでも好奇心が揺すぶられるセンスオブワンダーではないか。後にプラモデルで登場する下地はこの頃には出来ていたのである。

ガンブラ騒動が起きるのは、もう少し後になるのだが、放送終了後に発売されたガンダムの統一スケールプラモデルは画期的な物であった。放送中は、クローバーがメインスポンサーであった事から期間中は発売できなかったらしいのだが、なんでもかんでもゼンマイで走る玩具よりも、バンダイの1/144スケールのリアルなMSはガンダム層に支持されたのである。

プラモデルを作らない人にはわかりにくいかもしれないが、1/144というのは国際スケールのひとつで、鉄道模型等もこの縮尺である。テレビ画面のひとつまを再現するジオラマ作成には最適なサイズといえよう。

さらに驚くべき変化があった。というよりは、これが全ての原因というべき内容かもしれない。ガンダムの本放送を観て熱狂した人は大変アクティブである。1人の人間が10人から100人に「ガンダムはええぞー」と布教し、放映後の方がファンが増えていた。

放送終了の翌月、昭和56年2月16日から再放送が始まったのだ。製作局の名古屋テレビだけでなく放映ネットであったテレビ朝日系列にも再放送の嘆願が多数寄せられていたのがきっかけとはいえ、視聴率3パーセントから5パーセントだった作品の再放送がこれだけ早く行われるのは珍しい事である。

これが驚くかなれ初回から2桁の高視聴率だったのだから、口コミで増えた視聴者がどれほど多かったか想像がつくだろう。

月一金の帯で2ヶ月放送された再放送は、発売されたばかりのプラモデルとリンクして子供たちの中にも静かに浸透していったのである。ガンダムがリアル路線をめざして作られた作品であった事が、プラモデルが発売されて始めて商業ベースとして発掘されたのである。ターニングポイントだったのだ。

## 劇場公開決定

そんな中、翌年の春に松竹系で劇場版ガンダムが公開される衝撃のニュースが流れた。

裏事情はよくわからないが、切れ者の映画宣伝プロデューサーがリークしたのではないかと想像しているのだが(笑)。

アニメ雑誌ではなく10月2日の日刊スポーツが「ガンダム映画化決定」をスクープしたのである。この作戦は考えてみると凄い。

アニメ雑誌が増えている時期ではあるが、専門誌で『映画化』スクープが流れても話題性は少ない。アニメ雑誌の発売日である10日を外し、外部から映画情報がオーブンになった事で、ガンダム熱は一気に盛り上がる。

10月9日築地の東劇ビル「エスカルゴ」にて急遽公式会見がもたれたのである。

機動戦士ガンダム製作発表記者会見の熱気は大変なものであった。松竹、サンライズの錚々たるメンバーが勢揃いしたのだ。

初の劇場用作品にかけるサンライズ側の熱意と意気込みは取材側に十分に伝わるもので

あった。

それでも取材陣は、時間と予算を考えれば新作を作る余裕はなくテレビ版の再編集だろうと予想していたのだが、富野監督の

「総集編のダイジェスト版にはしたくありません。43本の話を二時間半にまとめることは不可能な話で、一本の映画としてひとつの話の流れを持った作品に仕上げたいと思っています」

という決意表明に驚いたものである。

アニメ雑誌の編集者は、富野言語を直感的に翻訳するものである。少なくとも私は、この言葉を次のように翻訳した。

機動戦士ガンダム映画版は、最初から何部作かに決定している。パート1は、完成度の高い前半をリメイクするが、続編では未完成だった部分や安彦さんが倒れた部分を全面的に作り直す。もし、余裕があるのなら完全新作すらやってみよう。……と。

ファンの反応も同じようなものであった。製作途中で作画監督の安彦さんが倒れ、残るスタッフがそれぞれWBクルーのように死に物狂いで放映スケジュールに間に合わせた後



※10月9日の記者会見  
富野監督の映画にかける  
意気込みは会場は沸いた



## 第一章●機動戦士ガンダムの世界



※劇場1のアフレコにて  
さすがは劇場公開という  
事で、収録風景以外にも  
多数のスナップをとる時  
間が確保されていた。  
劇場での決意表明をする  
アムロ役の古谷徹氏

半部分の作画は、想像力を駆使しても物語に  
なりえない絵もあったのである。もし映画第  
一作が成功すれば、望んでいたガンダムが観  
られるのだと狂喜乱舞した。

こうしてガンダムは、あの低視聴率から考  
えられないメジャー作品へと変貌していくの  
である。だが、この時点ではまだファンの手  
の中にガンダムはあった。

70年代後半から、新作旧作入り乱れた劇場  
用アニメブームが巻き起こっており、過去の  
ヤマトブームと同じように「銀河鉄道999」  
が79年の劇場興行収益第1位だったのだ。

しかし、アニメーション作品を始めて扱う  
松竹にはそのノウハウがなく、ましてやサン  
ライズにとって劇場作品はこれが最初であっ  
た。つまり、一般的な劇場アニメのように、  
派手な宣伝で集客する事はできないのである。  
公式記者会見から暫くしての12月17日、劇  
場公開を知らせる広告が新聞に掲載された。  
「青春の熱い魂に出会える―この瞬間に未来  
は、始まった。」

ここに富野監督の言う、日陰の俗悪番組の  
代表のようにいわれていたロボットアニメが

日の目を見た瞬間であった。

話は少しばかり潮る。ガンダム劇場宣伝の  
影の功労者の話だ。

アニメ新世紀宣言を一過性のお祭り騒ぎと  
して年表に残したくないからこそ、やはりこ  
の話は残しておきたい。

イデオン劇場版でのファン主体の宣伝活動  
は多くの記録があるので知っている人は多い  
と思うが、実はそのパターンを確立したのは、  
ガンダム劇場版をどうするか手探りで模索し  
ていたからこそできたのである。

野辺宣伝プロデューサー、サンライズ映画  
宣伝の始祖である。この人がファンの熱意を  
形にしなければ劇場公開は心もとなかったの  
だ。ガンダムのキーワードとしてニュータイ  
プがあるが、これを表層だけで理解してい  
てもガンダムの本質に迫りつくことはできない。  
敏腕プロデューサーであった野辺氏は、こ  
れを「大人には理解できないもの」と認識す  
る事からガンダムの宣伝活動を始めている。  
そう、この人は「宣伝ありき」ではなく、  
「ファンありき」からスタートする為に実際  
に多くのファンから話を聞き出したのである。

## 劇場への道

もともと、アニメ雑誌を編集している人間は、劇場映画の宣伝担当をあまり信用していない時代だった。今のようにアニメが好きで担当になった人がいない時期なのである。

映画の興行成績が優先で、内容に注意を払う人なんていやしなかったのである。

ちなみに、当時の松竹の偉いさんは、ガンダムを称して「愛とロマンのSF超大作です」と記者会見で発言していたのですぞ(笑)

「ガンダムが何故面白いのか教えて下さい」

野辺氏の第一声に驚いたアニメ編集者は多い。随分色々な人に会ったが、ガンダムの面白さを説明してくれと発言した大人は、初めてである。さらに野辺氏は、通り一遍の説明をした人間は相手にしなかった。後知恵の発言はことごとく無視したのである。

「アムロの置かれている立場がまるで自分のようで、他人とは思えないんですよ」

身を持ち出して真剣に語る者の話だけを聞き、自分の中で何かを作っていくタイプの人

であった。さらに次に出会った以前話した内容を消化吸収しているのである。

「では、筋金入りのガンダムファンだという人の話も聞きたいので会わせて下さい」

野辺氏は、こうしてファンの青少年の話まで聞いて回るのだった。自分の居場所の見つからない青少年が、その姿をガンダムのキャラクターに投影しているという、ガンダム人気の本質を形ではなく生の声で把握した野辺氏の行動は早かった。東京近郊のほとんど全てのファンクラブの代表と会ったのではないだろうか。ここから各ファンクラブが別個で動いていた草の根運動がひとつにまとまって行くのである。アニメ雑誌の影響力は、読者に限定されるという法則のもとに、ラジオ・テレビのリクエスト番組に組織票が送り込まれていった。

若い者は、自分の意見を真剣に聞いてくれる人間に共感する。ただ聞いているだけでなく、語彙不足で遠回りの発言をしている時に「つまり、あなたが言いたいのは、こういう事なんですわ」と相槌を打たれたらどうなるだろう。この信頼感は、てんでんばらばらに



やっぱり凄いです。

そのシンボルと言えるのが、このザクとガンダムザクちゃん。当時不可能とされていたモノアイが左右に動く。アマチュア時代の品田冬樹氏が製作したとんでもない作品。ガンダムは、プラモデル研究の第一人者伊藤秀明氏の学生時代の作品だ。この頃のファンってのは、

※トミノコ版

活動していたファンのムーブメントを結束させるのに絶対に必要なものであった。ファンの意志をひとつにまとめれば力になる。

これが発揮されるのはアニメ新世紀宣言なのだが、ガンダムはまだマイナーだった。

「老舗の松竹で公開するアニメなのだから、宇宙戦艦ヤマトのように人気が出るに違いないから扱うだけは扱っておくか」

そういうぞんざいさが目立つ記事が、劇場公開が発表されたあたりから目立って増えていくのだった。ちよつと抜粋してみよう。

雑誌のカラー版を切り抜いて、大ウソの説明をつける新聞がファンの失笑を買ったのもこの時期である。絵でもこれだから、ガンダム用語になると造語のオンパレードである。ジオン公国を、「ジオン公園」「ジオン公団」「ジオン公軍」と表記するのはあたり前で、主人公アムロを、「アムレ」「アロム」「アトム」「アモロ」なんてものもあった。

コアファイターだと「コアフィルター」や「コアヘイター」とわけがわからなくなってしまうのだ。もつとも誤植にかけては、本家のアニメックだって負けてはいなかったの

だが……。 (自慢にはなりませんねー)

劇場Iの安彦さんのボスター、ガンダムの上半身シルエットの前にヘルメットを抱えたアムロが立つ絵に「モビルスーツのガンダムをかぶりジオン軍に立ち向かうアムロ少年」なんてキャプションもあり抱腹絶倒したファンは多い。(高2コースの3月号)

間違いはないのだが、なんだかなあという表現の代表格は「宇宙時代の。ペルばら」を思わせる登場人物の華麗な服装などが、若い世代の関心を集めそう。(朝日新聞)

書いている人が若くないのがわかって面白いのだが、ようするにアニメが理解できる大人の記事はほとんどなかったのである。

あれから20年経ち、あの頃のガンダム世代が今や、あらゆる職場の中枢に進出しているのは頼もしい限り。富野監督の新作「アレンパワード」などWOWOWのスクランブル放送であるにもかかわらず、認知度が高く週刊テレビ誌等ではツボを押さえた解説ばかりなのだから関心する。

やはり20年の歳月は伊達ではないと痛感することしきりである。

## アニメ新世紀宣言

野辺宣伝プロデューサーが、協力を求めたファンの真価が発揮されたのは、昭和56年2月22日の『アニメ新世紀宣言』である。

ガンダム5000人キャンペーンと銘打った大イベントの開催である。裏舞台の全てを見ていた者として、これはファンの純粋なパワーが結集したものと今も信じている。

新宿東口広場に集結したファンの数は、公称2万人にもなっていた。(各ファンクラブの集計では、実数1万2000人だったのだが、この資料は新聞各社は持っていない)

ファンロードが名付けた「富野アニメのコスプレをするファン」の俗称トミノコ族は、約100組が参加して華を添える。100人ではない！ 100組だ。中にはジオン軍、連邦軍合わせて24名チームさえいたのである。

### 【02・22アニメ新世紀宣言】

私たちは、私たちの時代のアニメをはじめて手にする。「機動戦士ガンダム」は、受け手

と送り手を超えて生み出されたニュータイプアニメである。

この作品は、人とメカニズムの融合する未来世界を皮膚感覚で訴えかける。しかし戦いという不条理の闇の中でキャラクター達はただ悩み苦しめ合いながら呼吸しているだけである。そこでは、愛や真実ははるか遠くに見えない。それでも彼らはやがてほのかなニュータイプへの光明に辿りつくが、現実の私たちにはその気配すらない。なぜなら、アムロのニュータイプはアムロだけのものだから。これは生きるということの問いかけのドラマだ。もし私たちがこの問いを受けとめようとすると、深い期待と決意をもって、自ら自己の精神世界(ニュータイプ)を求める他ないだろう。

今、未来に向けて誓い合おう。

私たちは、アニメによって拓かれる私たちの時代と、アニメ新世紀の幕開けをここに宣言する。

アニメ新世紀0001年2月22日

シヤアとラアの力強い宣言は、万雷の拍





※新世紀宣言のスナップ  
雪が降るかもしれない2  
月の寒空である。ラファ  
は、素肌にボツカイトを  
2枚貼っただけで全身に  
鳥肌を立てて宣言開始を  
待つ。この根性は凄い

手によってファンから支持された。あたり前である。原稿は多数のファンの意見によって推敲された、彼らの考えを代表するものであった。日本中のラファとシヤアから選ばれた二人は、現在はアニメ界で活躍する有名人になっている、彼らは本気でこの原稿を読んだのだ。東口アルタ前に1万数千人が集まると、どうなるかわかるだろうか。立錐の余地もないラッシュアワーの国電並の状況である。

無償で駆けつけたボランティアの協力があれば、ロープ張りすらおぼつかないのである。プロの警備員と、アルバイトの整理員だけではどうにもならなかったろう。

それでも、一時的な危機状況は一度あったのである。ロープに沿い整然と並ぶ先着ファンの後ろから、次々に事前告知でイベントを知ったファンが集まってくる。人波の増加が共鳴現象を起こすと、ロープが大きく揺れる。10メートル間隔でロープを支えているFCの人間が、渾身の力で踏ん張ってもこれは支え切れるものではない。もう一度波が起きると将棋倒しの可能性もあった。

その時、富野監督がマイクを握った。

「ここで事故や怪我があつたらどうします。世間の大人たちは、所詮はアニメファンのイベント、それみたことかと判断します」

まさに鶴の一声である。ロープにかかる圧力がサツと引いて行く。流れに身をまかせていた人間が、自分の判断で立ち止まったのだ。新世紀宣言は事故ひとつなく成功した。

最後に、開催前にFC代表達に語った野辺宣伝プロデューサーの言葉を記しておきたい。

「アニメ新世紀宣言において、ファンにガンダムを知らせる必要はもうないはずです。ガンダムを知らない人にも、これを知ってもらう。そのために、ファンの力が必要なのです。力を貸して下さい。そして、みんなの力が集まってこそ、アニメ新世紀宣言なのです」

ガンダムファンにはこの言葉の真摯さが伝わっていた。人の意見なんざ聞きやあしなない硬派FCまでもが参加していたのである。

「中身の無いイベントに人を集めるために、今まで応援してくれたファンを使うのか」といささか立腹しつつ、迷われていた富野監督が最後に納得したのは、協力を申し出たファンたちが真剣だったからかもしれない。

## 私的ニュータイプ論

ニュータイプに一番早く言及し、ニュータイプ論だけで、特集を組んだ本人が言うのもなんだが、ニュータイプはもう月の剣ですね。

今読み返すと、多くのニュータイプ論は、自分の漠然とした未来展望。閉塞した環境からの脱出を決意する言葉が多いのですから。

放送終了後の脚本、演出の方々の意見に多かった「もっと早くニュータイプの概念を説明しておいてもらえれば、やりようがあったのに」という意見は、もつともなうでいて違うのではないかと考えています。

「ほら、これがニュータイプです」

こうやってニュータイプは説明されるものだったのだろうか？ どうも違う。ニュータイプとは、若さを表す記号だったのかもしれない。人は変革して行くものだと言明されたら、なんとなく納得するかもしれない。だがそれよりも、若さの可能性が「ニュータイプ」ではなかったのかと今は思っています。

富野アニメで育った世代があらゆる方面で

活躍している様子が見えています。あの私たちは、「機動戦士ガンダム」を見て、自分の中にある何かの可能性を信じる事ができるようになった人たちではないのでしょうか。

たしかに、ガンダムファンと語っているときに「あつ、この人たちは違う」と感じた事が何度もありました。人間としての能力がまるつきり違うように感じるので。

放映の年の7月にソニーからウォークマンが発売されました。それに飛びついたのは若い世代です。大人は小型とはいえ、録音できないテープレコーダーには興味を示さなかったのですから。一度借りて使おうと、なんて便利な機械なんだろうと思うし、中途半端なオーディオ機器はいらなくなります。

ちなみに、この当時のCDは実験段階で、オーディオファンはレコードを聴いていたのですからね。一人の青年が説明してくれた言葉は今でも忘れられません。

「僕らは生まれた時から、家にカラーテレビがありました。テレビの音って結局はFM音声なんですから、子供の時から綺麗な音を聴いて育っているんですよ」





ああ成る程と納得ですね。ほんの数年の差でありながら、ラジオで育ち東京オリビック前後から白黒テレビが家庭に入って来た世代とは、音に対する認識が違います。

そういえば、テレビ画面を覗いて、まるでビデオのスロー再生をしているように動画がみわけられる青年とか、一度読んだ本の内容を頭の中にインデックスしている青年とか、画面で見た衣装は、そのまま型紙にできてしまう女性とか……なんにしろガンダムファンは頭が良い人が多かったなあと思います。

だって話をしている楽しかったものね(笑)自分の意見と主張は持っているけど、他人の意見もちゃんと聴く。コミュニケーションがしっかりした人が多かった。

うん、たしかこの時代ではコミュニケーションが取れるのが「マニア」で、自分の殻に閉じこもっているのが「オタク」という歴然とした区別がありましたね。

だからニュータイプという言葉、超能力でも何でもなく、新しい環境で自分の出来る事を精一杯している若者の事だったのではないのでしょうか？

ニュータイプを語らなくても機動戦士ガンダムは楽しめる。でも、ニュータイプは知っていた方がいいだろうという妙な結論だ。

生活環境が変われば、人間は変わるものである。ましてや、地球で生まれたとはいえず少の頃からコロニー生活をしていたアムロは地球の重力に縛りつけられている我々とは違うのである。

(この本では、アムロの実家についてテレビ版を採用しています。公式資料では、アメリカの太平洋側となっていますが、それは劇場版が基本です。ランバ・ラルと戦う前に「再会、母よ」が入るので、アメリカとなるわけです。まあ、実家であつて生家がどこかは別の話になりますし、地球で生まれて暫くは地球で生活していたという事実が変わらないでしょう)

どちらにしても、機動戦士ガンダム放映から20年。あの頃のファンは大人になり、それでもちゃんと青年だった時の感性を継続しているようです。「今時の若い者は」というおきまりの台詞は言うものの、それでも若い世代の意見を聞くとうる大人として。やっぱりガンダム世代は少し違いますね。

## ガンダムと原発

放送寸前の1979年3月28日米国ペンシルバニア州のスリーマイル島原発で冷却剤喪失事件があったのは有名な話だ。

事故直後、緊急炉心冷却装置がただちに作動したのだが、人的過失により冷却装置が遮断され、その結果として炉心が破壊されて原子炉建物内部は高濃度の核分裂生成物が充満し一部が外に漏れたものである。

この結果、原発周辺の住民感情が悪化し、その後アメリカでは新しい原子炉を建設したり運転する事がきわめて困難になったのである。いかに安全装置があっても人間のミスにより大惨事が起きる可能性を示唆した恐ろしい事故であった。

スリーマイル島事件は、原子炉事故として大々的に報道されたので原子炉爆発は怖いという先入観が我々にはあった。

そこでガンダムの第一話である。ザクが核融合炉を使っているとは知らない視聴者は、コロニーの中でガンダムが原子炉を破壊した

事に恐れおののいたものである。

まったくの偶然なのであるが、コロニーの中で原子炉が爆発するという恐怖心は、今よりも強かったように思う。

核融合炉は安全とはいえ、やはり原子炉なのだから放射性物質の四散はなくとも、かなりのエネルギーが解放されそうである。

余談であるが、機動戦士ガンダムZZ放映中には、人類史上最悪の事故と称されるチェルノブイリの原子炉爆発事故が起きている。

1986年4月26日に発生したこの原子炉爆発事故は、当初の報道では死者5万人説まで飛び出すセンセーショナルなものであった。

ソ連のキエフ(現在のウクライナ)の北方に位置するチェルノブイリでの事故は、スリーマイル島事故の50倍もの高濃度放射性物質をふくんだ雲が西方向にひろがり、北欧一帯までが汚染される事件であった。

西側諸国の原子炉とはちがって、チェルノブイリの原子炉には収納建物がなく、放射性物質が原子炉の場所から拡散したのであるがこの大惨事の原因も、操作員の人為的なミスであったのだから、困ったものである。





## 第二章●ガンダム世界の基礎知識

# 押さえておきたい テクノロジー

## —ガンダムワールドの超科学!—



### 信じる者は救われる

機動戦士ガンダムがリアルアニメとして評価されるのは、ひとえに大嘘を通す為のディテールにこだわっているからだ。

最近のアニメは、理屈をこねくり回し設定が完成したら、後は惰性という作品が多い。

ガンダムはまずドラマありきで、そのドラマを演出するのに必要な背景を設定していくという王道に基づいて製作されているのだ。

設定による頭でっかち現象がなかったとは言わないが、詳細に凝っていきけるのも基本となる設定が、はつきりしていたからである。

冒頭の名ナレーションひとつをとっても、それは理解できるだろう。

「人類が、増えすぎた人口を宇宙に移民させるようになって、すでに半世紀が過ぎていた」これぞ、センスオブワンダー！ 宇宙移民には幾つもの方法があるが、どれなんだろうと視聴者は想像する。画面には巨大なコロニーの内面が映し出され、オニールの提唱した鳥3号タイプが使われているのが確認される。

宇宙に興味のない人は、こんなものなのかとしか考えないが、SFを求めていた人にとってはまさしく本物。遠い未来には実現するだろう新天地として認識されるのである。

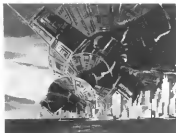
月や火星に移住するというのは、ナンセンス。資材や鉱物を調達するならいざしらず、人間が永住するには、1Gに限りなく近い重力環境が必要なのである。SFファンの常識では(スペースオペラの常識は別にして)地球重力に近いものがなければ、子供は生まれないと刻みこまれていくのだから！

だとすれば、人類が永久移住する方法は現実的には二種類の選択しかない。

地球環境に近い惑星移住か、地球圏にコロニーを建造するかである。

しかし、惑星移住となると何らかの「宇宙航法」が必要になる。ジャンプでもワープでもいいが、オーバーテクノロジーが不可欠となる遠距離移動である。先遣隊がコールドスリープで出掛けるにしろ、近未来の話ではなくなるのである。

その点、地球圏のコロニー建造は、その気になりさえすれば、手の届かない技術ではな



い。昭和30年代の小学生は、大人になれば宇宙ステーションのひとつやふたつは完成していると思われていたものである。

当時の知識から想像される宇宙ステーションは、自転車のタイヤを巨大にした物だ。それが回転する事で、タイヤの接地面の内側に遠心重力が働き、まあ立って歩ける程度の重力が発生する。スポーク状の連絡通路を通じて、シャトルの発着口である無重力のポートに行き来できるというしろものである。

住み心地はあまり良くないだろう。やや重力のある宇宙船に乗っているようなものなのだから……これが巨人になったものが島2号。

大型宇宙ステーションという感があり、どうしても閉鎖空間のイメージが住人に残る。

小説版でシャアが使うスイートウォーターやF91でブツォコンツエルンが最初に手に入る旧式コロニーがこれである。

島3号は、現代科学で想像できる究極のコロニーである。何よりもコストパフォーマンスが良い。基本資材は、月や小惑星から調達するのだから運搬の手数が少ない。地球からコロニー機分の資材を化学燃料ロケットで

打ち上げようとすればそれだけで、人類は滅亡する。その点、月や小惑星からならカタパルトで打ち出すだけで任意の位置に物資が運べるのである。太陽エネルギーを使うなら、加工も安上がりだし、地上よりも簡単に精度の良い加工ができるだろう。

しかし、そこまでの科学力があるのなら、接近戦闘はありえない。ほとんどテレビゲーム感覚で、敵の姿を直視する事なく決着するだろう。テレビアニメとしてはこれでは困る。その矛盾を解き放ったのが、ミノフスキー粒子という架空の素粒子だ。

人類が宇宙移民をしている科学力を持ち、なおかつ接近戦闘がありうる世界。それがガンダムワールドだ。

モビルスーツは、話の中核である。だからといって「近未来、人類はモビルスーツと呼ばれるロボットで戦うようになっていた」という安易な設定ではないのである。

モビルスーツが登場する必然性を持った物語がガンダムなのだ。というわけで、知っている人は再確認、知らない人は読めば便利というテクノロジー解説を始めよう。

## 地球圏について

### 【衛星軌道】

放送衛星が身近になった現在では静止衛星の意味は簡単に理解してもらえらるだろう。人工衛星というのは地球の周囲を秒速約7・79 kmで飛翔する物体である。物体が人工衛星になるのに必要な最低速度という意味で、「第一宇宙速度」と表すこともある。当然地球の周回軌道を回っているわけだから陸地から見れば動いて見える。しかし、赤道上空で地球の自転方向に周回させれば地球が止まって見える。その軌道を持つ人工衛星が静止衛星である。

我々は地球を中心にして物を考えるので、ちよつと混乱する内容になるが、我慢して読んでもらいたい。

太陽も動いているが、これは無視して太陽を起点として物を考えてみよう。地球は、自ら自転しながら太陽の周囲を公転している。その地球の衛星である月もまた、自転しながら地球の周囲を公転している。もつともその

周期がほとんど一致しているので、常に同じ面を地球に向けているわけである。

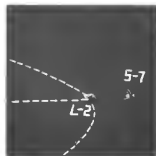
### ラグランジェ・ポイント

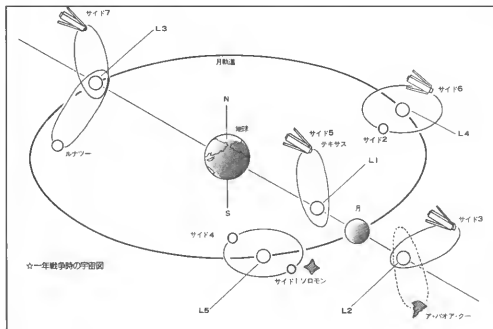
物理学や専門学部にいかなければ習わない事であるから、結論だけを書く、月の軌道上にある重力安定点の名称である。

宇宙の一点に物を静止させて置くというのは大変難しい。常に化学燃料を噴射して位置を制御していたのではコストの面で不経済である。であるならば、相対的に静止して見える軌道に乗せるならば、安定する。

静止衛星とて、赤道上空の一定軌道を回っているから安定しているのである。残念ながら、地球の大きさから同一軌道にある衛星は3度ずつの間隔をあげなければ互いに干渉してしまう。つまり、赤道上空には120個までの静止衛星しか打ち上げる事ができないのだ。つまり、数多くある地球の周回軌道の中でも静止衛星は限定されている。

ラグランジェ・ポイントは、点というよりは一定の重力場なので、位置合わせさえしっかりしていれば巨大なシリンドラーの群れを定着させる事が可能な空間である。





地球と月の重力と複雑な軌道の動きで一定の位置に停止しているにはかなりのエネルギーを必要としますが、地球と月の引力が釣り合った場所ならば、ほとんど姿勢制御をしなくても定位置に止まれる。

コロニーのシリンドラーそのものが毎分半回転するジャイロ効果があるし、画面的には単体として描かれるコロニーも本来は、逆方向に回転するコロニー2機を一組として機械的な接続がなされ安定している。

(実は長年の疑問？ 並列して逆回転するコロニーはかなりの距離を置いて設置されているそう。チェーンでリンクするとしたらどういう映像になるのだろう。)

ラグランジェ・ポイントが安定軌道とはいえ太陽や他の天体の重力場の影響を少しずつ受けているので、コロニー公社による全体管理は必要不可欠であろう。

ガンダムワールドでは、重力の安定しているラグランジェ・ポイントとして地球と月の周辺に5ヵ所存在している、L1とL5と呼ばれる場所がコロニーが設置されている。もともとの鳥3号計画と同じである。



特にL5は重力安定範囲が広く、月からの資材搬入が簡単という利点があり、コロニー建設の第一候補とされているのだ。

### 【地球圏】

ガンダムの世界で使われる地球圏という言葉は、地球から月までの軌道上の範囲を指している。今の科学力でスペースシャトルが行動できる範囲と考えればよいのだ。

地球の引力圏を抜けるのが大変なだけで、それ以外の場所での行き来は少ないエネルギーで済むのが特徴だ。

基本的には同じ軌道に点在するコロニー間の移動は、コンテナを射出するだけでも可能である。これは資材を移動したのとまったく同じ手順で行われる。

では圏外は何処をさすのだろうか？ それは火星と木星の中間にある小惑星帯と、木星である。そこまでは人類の手が伸びているからだ。

小惑星は、貴重な鉱物資源の宝庫であるから調査の結果、使える物は地球圏に移動させて来る場合もある。連邦軍のルナツーや、ジオンのソロモンが好例であろう。

木星は主にヘリウム3の採取である。核融合炉の燃料として必要不可欠なヘリウム3は地球圏で採取される量が限られるので、木星までの長距離飛行をするしかないのである。

### 【スペースコロニー計画】

G・K・オニールが1969年に提唱している「宇宙植民島計画」とも呼ばれるものである。

まず島1号という大型宇宙ステーションを建造し宇宙基地にするのだ。島1号は、SF映画でおなじみの車輪のリング部分だけのような形状をしている。それだけ大きな物を一度に作る必要はない。ある程度のチューブ状態のユニットを接続して円にすればいいのである。1Gは無理でも、遠心力による疑似重力があるだけで長期生活が可能になるから、宇宙技術者の生活基盤が確保されるのだ。

島1号がラグランジュポイントに建造されたら、そこを工事現場の宿舎にして月面のマストライバーから資材を打ち出せばよい。

月面にも、鉱物資源確保の基地が必要になるがもともと1/6重力があるので、体操場のような施設を作り健康管理に気を使えば、



島1号以上の長期居住が可能である。

こうして、多量の資材を使う島2号が建設されるのだ。島2号は恒久生活が可能な巨大なコロニーである。富野監督の小説版に登場するスイート・ウォーターは、直径が小さいので圧迫感がある点を巧みに描いてある。

その欠点を除けば、島2号で一生を過ごすのも可能である。神経ストレス緩和には、緑の植物を増やし、壁面の曲面が見えないように工夫するしかないだろう。

そして、最終段階として島3号が建設されるわけである。初期の水と空気と植物こそ外部から持つてこなくてはならないが、適性人口であれば一部のレアメタルや医薬品を除き閉鎖空間で自給自足が可能となるのだ。

地平線が湾曲して見える事や、上空全域から光線が注ぐ環境を除けば、地球上とそんなに変わらない生活が宇宙でもできるようになるわけだ。現代の都市生活者よりは健康的な環境が保証されている。

最大の問題であるエネルギー問題は、コロニーでは解決する。太陽光線の採光は任意に行えるし、コロニー周辺の太陽光線はそのま

ま太陽発電に使えるのだ。宇宙では24時間太陽が見えるので、基本エネルギーは太陽を使った熱と発電でまかなえるのである。

建築資材の調達だけでなく月面開発を任意に行えば、この計画は採算が取れるはずなのだが、まだ基礎実験というのが現状である。

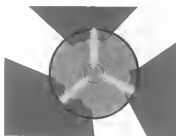
ただしガンダムが放映されていた頃の技術でも建造可能な計画である。

### 【コロニー】

オニール計画よりも、ガンダムのコロニーは細部まで描写されている。富野さんの異世界描写の妙はコロニーでも発揮されているのだ。そのあたりを説明してみよう。

ガンダムの世界は、オニールの島3号と基本的に同じタイプのコロニーが数百基宇宙に浮かび、人類の90パーセントが宇宙で生活するようになった近未来の話である。

この世界のコロニーは直径6・5 km、長さ30 km（最近では40 kmという設定だが、放映当時はこうだった。間をとって30 kmを越えるか）の巨大なシリンドラーであり、内陸は円周で6分割されている。陸地と、河と呼ばれるガラス面で構成され、陸地の対面に来るガラス面



からはミラーで太陽光線が取り入れられている。シリンダーは2分で1回転しており、その遠心力によって、コロニー内壁には地球とほぼ同じ重力が発生しているのだ。気圧は1気圧に調整され、地球と変化はない。

2分一周というと実にゆっくりした回転に思えるが、なにしろ構造物としては巨大である。ミラーの先端の速度は軽くマッハを越えているのだ。それだけに宇宙空間で生成された特殊素材が必要不可欠な構造物になる。

地球と極端に違うのは、気圧差だけである。地球に対比すると、通常の地表から中心部にある港までは3キロもあるのだが、富士山の八合目に登ったように空気が薄くなる事はない。シリンダー内部の気圧はどこでも一定である。ただし、シリンダーの回転によるコリオリの力と、太陽熱で熱せられた空気対流により一定方向の風が吹くと計算されている。

コロニー全体の湿度管理はされており、そのコロニー独自の気象差はあるようだ。飽和水蒸気は、地表から千メートル前後に薄い雲を形成する。微小水滴の雲が上空にあるお陰で空は霧がかかったように見え、対岸の

景色はおぼろげにしか見えない。

## 〔気象管理〕

どの程度まで正確かはわからないが、分刻みは無理としても時間単位の制御は可能。自然の生態系を維持する必要があるから、定期的な降雨を発生させている。

ただしコロニー内部では、生産緑地というものはない。趣味の畑や果樹園はあるにしろ公園的な扱いである。もちろん大規模な空気管理もあるのだが、都市計画に基づいた緑地があり酸素の供給を行っている。

なお天気雨のような降り方になるのはコロニーの構造上しかたがないのかもしれない。降雨時の外気温が低ければ雪にする事も可能であるが、イベント的な要素が強い。

雨は再現できても雷雨はありえない。コロニー内で人工雷雨の実験をすれば、電子機器に相当な被害がでるからで、多くのコロニー住民は雷という物を知らずに一生を過ごす事になるのだ。

コロニー付帯設備として大規模な水耕農園的なブロックがあり、農作物はそこで大量栽培されるようになっている。





観光コロニー「デキサス」があったくらいであるから、特殊用途を持つコロニーもサイド毎にあると見るのが正しいだろう。

蛇足ながら、昼夜をミラーの開閉によって行くと記述したところ、あの巨大なミラーが閉じるものと思った人がいたようなので、補足しておく。

(モビルスーツのAMBAC運動を信じているのなら、コロニーがミラーを閉じると、回転数が増えるのは理解できますね？夜になると身体が重くなるのは嫌でしょう)

もちろん軍事的に、一部コロニーでは外敵から身を守る実験として可動ミラーを採用してシールドにしたという話もあるのだが、基本的にはミラーは固定式である。

幾つもの小ミラーがコロニーの大ミラーに取り付けられている。四面になる地表に万遍なく太陽光線を取り入れるには、それぞれがコンピュータ制御された適性角度を持つようになっているのだ。

それだけに、コロニーでは影があいまいである。太陽光線のように平行する光ではないので明るいにもかかわらず、うす曇りの日の

ような影が出来るのだ。

ミラーの照射角度により朝、夕は演出できるが地球のように鮮やかな朝焼け夕焼けは自然にはできない。放射線の防護フィルターを使い演出するのは可能である。

### 【コロニーの防衛】

宇宙空間に浮かぶ、半面はガラスのシリンドラーであるコロニーはいたって脆弱な面もある。

壁面を挟んで絶対零度の真空の宇宙なのでから数々の防御機構もそなえられている。

一般に恐れられている空気漏れはそれ程心配しなくても良い。なにしろコロニーは巨大な建造物だ。ガラスが数十メートル四方破壊されても、気圧が10パーセント低下するのに数カ月かかる計算になるそうだ。

そんな大きな破損なら、数時間以内に応急修理がなされる。ガラスとはいっても一枚ではない。拳銃弾くらいでは貫通しない特殊複合ガラスが何層にも組み合わせられ、宇宙からの放射線も防ぐように作られているのだ。

コロニーにはバンアレン帯もオゾン層もないので、有害宇宙線の対策にはかなり神経を

使っているのだ。

隕石の衝突は、何万分の一の確率とはいえ防ぐ事は難しい。大気圏がないので、塵ですら燃え尽きる事なくコロニーを貫通する。

何層にもなった外壁とその中間に注入された防護剤によって捕らえるしかないのだ。

ある程度レーダーで捕らえられる大ききの隕石であれば、迎撃用のヒーム砲やミサイルも装備されている。

無防備なようにでいて、隕石を引き付ける重力がないだけ月面基地よりも安全なのだ。

## 【コロニーの生活】

地平線が湾曲している以外はまったく地球と同じ生活が可能である。電力は太陽エネルギーで賄っているからガスや炭火は、趣味の領域である。食料にしてもそれぞれのコロニーに付属する農業ブロックで自給自足が行われている。

農業ブロックでの気象コントロールと、バイオ技術がいまって驚異的な生産量になるらしい。牧畜専門のコロニーが動物性蛋白質を供給しているらしいが、生産効率としてはやや疑わしい部分もある。

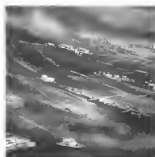
ガンダムワールドでは、普通の食事シーンが思ったよりも少ない。貴族階級の豪華な食事か、兵員用の携帯食が多いからこのあたりはまだ謎に包まれているようだ。

コロニーの人口密度はかなり高いが、都市計画が完全に行われて土地利用率が良いので、見た目はゆったりしている。

コロニー内で地球と異なるのは速度制限と高度制限だ。重力は遠心力なので上空3千メートルで0になる。両端にある山に登ると重力は減少し、中心部分の港では無重力になるのだ。もしコロニーで航空機を使うと、高度の変化が急激な重力変化になり手動での操作は危険である。

コロニー内壁の回転速度は時速約600kmになる。それは外の一点から観察した速度であり住んでいる人間には感知できない。

たとえばの話として回転方向の道を高速で走ればどうなるだろう。回転方向と同じ向きならば遠心力によりどんどん重くなり、反対方向ならば軽くなってしまふのだ。直線方向では同じ事で、直線がいいがカーブを曲がる時にはコリオリの力が働いてハンドルを取ら



れてしまおう。

そういう事で、人間が操作に違和感を覚えない程度の速度は回転速度の一刻未満となる。

幸いにもコロニー内部の手動操縦交通機関は、電動エレカーなので時速50キロに設定しておけば、問題ないことになる。

コロニーの生活は、地球とほぼ同じと考えてもかまわないのだ。半世紀に渡り人類が生活していることからそれが証明されている。それどころか、生態系に必要な動植物は持ち込まれても有害バクテリアや害虫は徹底的に排除されているので、快適と言えるだろう。

逆にコロニーならではの快適さも捨て難いと考える新世代もいる。たとえば、地球では作りようのない施設である。

シリランダーの両端、つまり港口の斜面は重力がその高度によって変化する。地表では1Gに近くても、港周辺は無重力帯である。

比重の違う物質を攪拌するような実験施設は港に近い建物で行えばいいのだ。また医療施設も斜面に建造すれば何かと便利である。

心臓病の手術であれば、重力の低い病院で行い身体への負担を極力減らしておいて、回復

するに従い、低層階に移送すればいいのだ。

足の骨折等のリハビリにもこの種の施設は有効である。ある程度回復してからのリハビリも程度によって重力を調整できるのだ。

斜面の施設にはホテル等もある。月面都市で暮らす人間は、身体が1/6重力に適應してしまっている。そういうゲストを招くのなら重力の少ない、こういう施設が適当だ。

(ガンダム全てのシリーズで描かれていないが、月面恒久基地で生まれ育った人間は、地球で生活するのは無理ではないだろうか。短時間の滞在でも大変だろうし、地球引力圏をロケットで脱出する時の加速度に耐えられるのだろうか？若いうちなら平気なのかも)

船乗りになって、ほとんどの時間を無重力で暮らす人達であっても、母港のあるコロニーに戻り1Gがかかってもどうという事はない。航行中とて基礎トレーニングを繰り返しているはずなのだから。それでもあまりにも長期の無重力生活をしていたのなら、こういった施設は大変有効であろう。

### 〔行政〕

コロニーはシリランダー一基を1パンチと呼



び、基本的に約40パンチで1サイドとなる。

連邦政府は、移民開始の頃から各サイドをひとつの行政単位にして自治権を持たせていた。コロニーによって、少しずつ行政が異なり、住民の性格も違ってきていたようだ。

それでも各コロニーの地球連邦の植民地的な立場は同じで、地球に住む連邦の特権階級に反感を持っているのは共通した住民感情であった。

科学技術の進歩によりコロニー内では自給自足ができるといっても、地球に依存している資源もあり、治安維持の名目で各サイドに駐留している強大な連邦軍の前に、民主的な発言を封じられており、コロニー住民の不満は高まっていたのである。

戦争が始まってからの状況では、月面都市は（月の裏側にあるグラナダはジオン基地）中立を保っている。これは主義思想とは関係なく、今後も宇宙で暮らすには月が重要な資源補給施設だからである。

同じ意味で、両軍のヘリウム船団にも不可侵条約が成立している。これが途切れれば地球の原子炉は全て停止してしまうからだ。

サイド7は辺境の建設途上のサイドを装った連邦軍の秘密施設扱いだし、未完成のコロニーが一基しかないので問題外であろう。

サイド6のランク政権は非常に外交手腕に長けており、連邦とジオンを巧みに利用して中立を宣言している。

それ以外のコロニーは全滅している。中には、戦略的な価値がまったくないので無視されたコロニーも幾つかはあるようだ。

## 【サイド6】

地球から見ても最も遠いサイド3は、軍事力強化のために、人口制限をしていない。人口増加対策としては、通常のコロニーを改造した物も含め、全てのコロニーが密閉タイプとなっているのが特徴である。密閉コロニーの場合は陸地面積が倍になるので、単純に他のコロニーの倍の人口が養えるのである。

ミラーで太陽光線を取り入れる方式と比べれば効率は落ちるが、周辺に浮かべた太陽電池板からマイクロウェーブでコロニーに送電し、人工太陽を輝かせているのだ。

また一部コロニーでは、大型核融合炉を使い直接人工太陽を輝かせている。この分野に

かけては、連邦よりも一歩進んでいるのだ。

密閉コロニーでは、ガラス部分がないので敵の攻撃に強いという利点もあったのだろうが、ジオン本国が戦場になるのは想定していなかったようだ。

マイクロウェーブ送電は、地球でも枯渇するエネルギー対策として使われており、静止衛星軌道に浮かぶ太陽電池プラントから多量の電力を地表に供給していたが、開戦時の電撃攻撃でほとんどが破壊されている。

### 「コロニー」の人口

オニールの島3号では、コロニー一基に1000万人収容という計画である。

ガンダムの世界では、コロニー人口はもつと多いようである。コロニー落としてオーストラリアを中心に地球で2億人が命を無くしているが、総人口の半数を失うには、1サイドあたり10億人は居住していなければならぬのだ。

初戦での一週間戦争で全滅したサイド1・2・4、ルウム戦役で失われたサイド5これだけで合計40億強が戦死した扱いである。

コロニー一基あたりの人口算定であるが、

高層住宅にはしないで、公園・森林に5パーセントくらい使った土地有効利用をして住宅を作れば3000万人収容可能ではないかと思える。コロニーの陸地面積の1/4もあれば山の手線内の面積に匹敵するのである。

3000万人のコロニーが約40あれば12億人。完成したサイドが6つ、そのうちのサイド3は人口が倍と考えれば、コロニーに住む全人口は72億人に達するのである。

地球居住者が20億人、月面と宇宙開発者が10億人、その他（どこだ？）8億人で人類の総人口は110億人いたという仮説の基に話を進めていこう。

それにしてもオニール博士の計算した3倍の人口密度はつらくないだろうかという懸念がコロニーの全長を延ばしているのではないだろうか。まあ増え過ぎといえは増え過ぎであるのは事実だ。

一年戦争に三分の理があるとするなら、ジオン公国の暴挙により55億人もの罪亡き人が虐殺されたにもかかわらず、人類減亡が半世紀ばかり先送りされた事にあるのかもしれない。

# 【開戦寸前の地球圏人口】

これはオフィシャル資料ではなく、長年のアニメック説であるので、間違いがあるかもしれない。フィルムから判断できる要素と、放送当時の定説に従うと推定できる人口分布である。

サイド1	1バンチ2500万人	10億人
サイド2	1バンチ2500万人	10億人
サイド3	1バンチ5000万人	20億人
サイド4	1バンチ2500万人	10億人
サイド5	1バンチ2500万人	20億人
(サイド5は、安定領域で歴史も永いので80バンチあったのではないかとという推定)		
サイド6	1バンチ2500万人	10億人
月面都市	複数の恒久都市	8億人
宇宙生活者	技術・産業従事者	2億人
地球生活者		20億人
地球圏合計人口		110億人

1バンチ3000万人住めるとしても、人口増加の余裕を見て2500万人と考え、こんな数字にしてみたのだが、どうだろう。

地球生活者の20億人にしても、連邦が把握している人数であって実数にはかなり誤差があると思われる。

開戦時110億の人類が、終戦後には52億人しか生き残らなかったのである。

## 【コロニーの生活環境】

コロニー内部は気圧、温度、湿度が管理されている。人間の生体リズムに合わせて、適度な変化はあるものの、レジャー施設でもないかぎり極寒、極熱の地はない。当然ながら港での検疫はかなり厳しく、病気や害虫の侵入もない。一度も地球に行ったこともないコロニーの住民にとって、憧れの地も実際に住むとなれば、けっこう苦勞の多い場所になるだろう。

地球へ侵攻したジオン兵が、故郷に帰りたいと愚痴る「こんな虫のいない清潔なジオンの本国へよ」という台詞は実感がこもっていた。究極の地球再生計画は何かといえど治水や植林事業、動植物の管理者を除き、全ての人類が宇宙に上がる事なのだが、一部の特権階級がそれを許さず、地球は聖地というよりは憧れの場所になっているようだ。



## 【コロニーの空気】

オニールが宇宙都市計画をした頃には、コロニーの内部空気は人工であった。その頃のアメリカ宇宙船の使用した減圧純粋酸素の予定であったのだ。これならコロニーにかかる圧力は減るから構造も簡単にできる。

最先端科学が案外脆いのは、そういう点なのかもしれない。アメリカの純粋酸素を減圧した状態で使う宇宙船は、配線のショートが原因で一瞬にして乗員を焼き殺してしまった。逆に時代遅れとされていたソ連の宇宙船は、飛行士がキャビンでマッチを擦り、その燃焼反動でマッチが飛ぶという遊びまでしていたのである。自然の生活に近い環境という意味ではソ連の方が勝っていたのである。

純粋酸素にフロンを混ぜた人工空気という計画もあったのだが、長年の生活でどんな影響が出るかわからないという判断から、ガンダムのコロニーでは、地球の空気に限りなく近い物を使っている。

酸素・窒素の比率は地球の空気と同じだが、コロニー内部に使っている鉱物残土の成分で、アルゴン・ネオン等の微量の気体成分は異なる

っているのが普通だ。水蒸気はやや多めに設定されているが、設定温度を適温にして不快指数は低くしてある。

なぜ水蒸気が多いかというのを発生させる必要があるからだ。コロニー内部は快晴という事はない、かといって曇天でもなく、適度に雲がある晴天を基本としている。

内部の人間に刺激を与えるのと、動植物の育成を考慮して定期的に雨も降らせているのは説明した通りである。

コロニーでは、あまり激しくない程度に季節も設定されている。コロニーの四季が地球の北半球に同調されている場合が多いのは北半球からの移住者が多いからである。

コロニー内部の気流は、日光の反射量と時間で決定されるので、突風が吹く事はないが適度な風は流れており、住民はその変化を熟知している。

また、決められた時間に降雨があるので住民には天気予定表が発表される。急の雨で洗濯物（この時代にあるかな？）を濡らすとか異常乾燥で公園の観葉植物が枯れるような事態はコロニーでは皆無なのである。

## 【コロニーの管理省】

最後に人々の大地であるコロニーを維持する組織「コロニー管理省」について解説しておこう。

基本的には連邦の組織ではあるが、宇宙においては絶対的な立場にある機構なのである。一年戦争前には半官半民の性格を持ち、コロニーの補修と管理を受け持つ技術者集団であった。マンシヨンの管理人とは桁違いの責任ある仕事で、コロニー構造材の疵ひとつ見逃せば、万単位の人命が危険に陥るのだからその道のエキスパート揃いである。

彼らの存在は、宇宙に置いては絶対の立場にあった。自分が常に呼吸する空気の調整を行う人間を大切に思わないスペースノイドは存在しない。

連邦イコールお役所仕事を連想する人がいるかもしれないが、現場の技術者は宇宙開発のエンジニア集団で、コロニー建設の時から組織である。上層部は、それなりの役人だが、現場に携わるエンジニアは、宇宙に住む人々にとって、神にも等しい存在なのである。水と空気はタダと考える地球に住む人々には

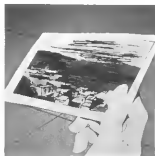
想像できないくらいに権威ある仕事なのだ。スペースノイドは、自分の住む人工の大地がいかに脆いものかは身にしみている。お役所仕事ではどんな事故がおきるかわからないし、営利企業では安全性に問題が生じる。そこで、初期コロニー建設で活躍した技術者を中核に結成されたのがこの管理組織なのだ。

構成員も、住民の命を預かっている誇りがあるだけに真剣に仕事を遂行している。一瞬の遅れがコロニー崩壊につながる仕事だけに彼らの迅速な行動は最優先で保護されている。コロニー管理省は、戦時中であっても（人類皆殺しを考えない限り）絶対に攻撃を受けない団体なのだ。

スペースノイドの生活習慣において、彼らよりも上位の人間は存在しないと考えるもよいだろう。月面基地や小惑星鉱山が戦時であっても攻撃されなかったのと同じように、宇宙で生活する限り、絶対に必要な組織なのである。

なおサイド3においては、コロニー管理省は国営組織として運営されているが、仕事の内容等はまったく同じである。





### ミノフスキー物理学

#### 『ミノフスキー粒子』

ガンダム世界のもっとも大切なキーワードがミノフスキー粒子である。設定的にはミノフスキー粒子なしに話が進められない。

誘導兵器の発達した未来で、巨大なロボットが白兵戦をするための方便である。今なら湾岸戦争での中継をテレビで見たイメージが多くの人にあるので説明し易い。

ニンテンドー・ウォーとも呼ばれた湾岸戦争では、モニターの目標物にサークルを合わせるだけで全ての攻撃が完了してしまった。肉弾戦には程遠い、テレビゲームの中の戦争である。これでは敵味方が接近戦をするという第二次大戦時のような映像にはならない。

そこで登場したのがミノフスキー粒子だ。ミノフスキー粒子がある程度散布された空間では、あらゆる電波兵器が使用不能に陥るのである。その為に戦場では、第二次大戦と何ら変わらない原始的な有視界戦闘が中心になっていくのだ。

敵味方のロボット同士が同じ画面で殴りあいをするという、テレビアニメの宿命をもっともらしい理由で説明したのがミノフスキー粒子といえよう。とはいえ、放映開始時には『ミノフスキー粒子の濃度が濃くて……』などという台詞に注意していたのはごく一部のマニアだけであつた。

その後のガンダムブームの中で、ガンダム世界と超科学を説明する『ミノフスキー物理学』が誕生する。このミノフスキー物理学は、かなり高度な展開をするのだが、ガンダム世界に必要な部分のみを説明しておこう。

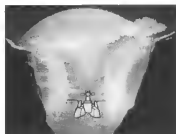
#### 『ミノフスキー粒子の初期設定』

ミノフスキー粒子は、両軍で使われる、最重要電子兵器である。白ロシア系ジオン人、T・Y・ミノフスキーによって開発された、強力な帯電機能をもつ微粒子である。

(語源としては、こういう設定を富野監督が好きでというトミノスキー説が最有力だ)

数種のミノフスキー粒子を散布することによって、広領域に電波の反射、吸収作用を行わせる。

モビルスーツによる機動作戦の一環として、



ルウム戦役における地球と月系間の戦闘に使用され現在に至る。三日戦争、ルウム戦役に於ける核兵器の大量使用は、衛星軌道を中心とする宇宙空間に多量のプラズマを放出せしめた。このプラズマとミノフスキー効果の複合作用によって、長距離の無線、レーダーの使用は不可能となったわけである。現在、長距離通信は、レーザー通信を使用するのが普通になっている。むろん、10キロ余りのごく短距離の通信（テレビ映像も）可能であるが、第二次大戦初期の無線状況に近く、使用は思うにまかせない。

（機動戦士ガンダム企画設定書より）

### 【ミノフスキー物理学の発展】

ミノフスキー粒子の散布による電波障害。そのために誘導兵器が無効となり、接近戦主体のモビルスーツの登場という大切なキーワードであったミノフスキー粒子は、ガンダム世界をリアルにする設定の説明に活用されていく。つまり、ガンダムに搭載できる核融合炉とはどんなものなのか？ 空気抵抗の多いホワイトベースが（いかに外壁冷却機能があるとはいえ）大気圏突入が可能なのはなぜ

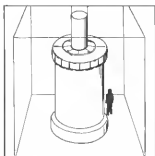
か？ ホワイトベースが超低空を超低速飛行できるのはどうして？ あろう事かブースターもなしに低G加速により地表から衛星軌道に行けたのはなぜ？ といった疑問をすべて解消したのがミノフスキー物理学なのである。ガンダムの設定はこの巨大な嘘をつき通しリアルになったのだった。

### 【核融合炉】

すべてはここから始まったといっても良い。木星帰りのシャリア・ブルの登場により、ガンダム世界では「木星で採取されたヘリウム3」を燃料とする核融合炉が実用化されている事が判明している。核分裂よりも効率が良く、安全な核融合炉だが、実用になる物を製造したのはT・Y・ミノフスキーが最初である。

核融合時のプラズマを維持できる炉心は機械的には存在しない。超伝導磁場によるフィールド固定も周辺機器の巨大化により実用にはほど遠かった。ミノフスキーが独自の素粒子論により、今までの物理学では否定される粒子を発見するまでは……

しかし、全世界の科学者は自分たちが実験



すら失敗している小型核融合炉を無名の若者が作りあげた事を快く思わなかった。ましてや、ミノフスキー粒子などは空想の産物であると結論づけ、ミノフスキーは学会を追放される。ジオニズムを進めるサイド3において、実権を握ろうとするデギン・ザビは失意のミノフスキーをジオン共和国に招き、バックアップを約束する。資源の不足するサイド3は、陸地面積を倍に使える密閉コロニーの開発を進めていた。ミノフスキーの理論が正しければ、核融合炉を動力にした人工太陽が輝くからである。

密閉コロニーにおける人工太陽開発を成功させたミノフスキーはザビ家の保護のもと、寝食を忘れて研究に没頭した。そして新理論による核融合炉が完成したのだ。ヘリウム3の核融合に伴い発生するミノフスキー粒子を、核融合制御にフィードバックさせるので、小型で安定した画期的な高出力核融合炉であった。もっとも、このあたりの設定は放映よりも後に作りあげられて行った感がある。

### 「ミノフスキー粒子の利用」

サイド3に創立された「ミノフスキー物理

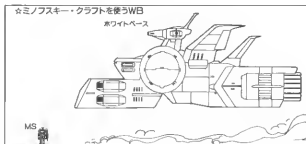
学会」では核融合炉のパーツであるミノフスキー粒子発生装置に改良を加え、純粋にミノフスキー粒子を研究した。その結果、この粒子は周囲のフィールドによって特性が異なる事が判明した。つまり、ミノフスキー粒子は静止質量はゼロの正か負に帯電した素粒子で、立方格子状に整列して与えられた磁場によりフィールドを形成する事が判明したのだ。

分子構造モデルは常に立方格子状に描かれるが、地形によっては雲海のように漂うのも確認された。

宇宙空間では等距離に高速拡散していくので分布濃度と拡散時間から、いつごろ散布されたのが割り出す技術も開発されていく。

### 「電波妨害素子」

ミノフスキー粒子を放出すると距離の二乗に比例した速度で拡散する。一定の濃度で散布を続けると、発生機の周囲には濃いミノフスキー帯が発生し、半径数十キロは通信不可能となる。ただし発生源から百キロを過ぎるとミノフスキー粒子が高速で拡散するためにその影響は減る。また真空中でも空気中でもその拡散速度に差はない。戦闘濃度で散布す



ると、光は100パーセント通す（歪み・蜚気楼なし）が赤外線はかなりカットされ、赤色もやや見にくい場合があると報告されている。特筆すべき点は、電磁波の99パーセントを遮蔽することだろう。放射線すらも通さないの、戦術活用も研究された。

### 「ミノフスキー粒子下での通信」

ミノフスキー粒子が散布されていると、電波が通らないだけでなく電子回路にも悪影響を及ぼす。光学レンズであるならば捉えられ、映像であってもCCDカメラでは映像を結ばないなどの事例が報告されている。

そこで使われるのがレーザー通信である。鏡で光線を反射されるのと基本原理は同じであり、直線上にある目標物に焦点を当てレーザーの電波により通信を送る。焦点を結んだ場所以外では傍受は不可能である。中継ステーションがあれば、直線位置にない相手とも交信可能。

また特殊な方式であるが、ミノフスキー通信も広範囲通信には使われる。

ミノフスキーフィールドそのものを振動させて特定の信号を送る方式である。映像や音

声という高速通信には不適當で、事前に打ち合わせておいた簡単なコードを送るものである。潜水艦の長々波通信程度の内容送付であるが「〇〇に進路を取れ」くらいの通信には活用されていた。ジオンではこれを一歩進め脳波パターンをミノフスキーフィールドに乗せサイコミュとして兵器利用を試みている。

### 「ミノフスキー粒子に注意」

拡散速度の速いミノフスキー粒子は、長期間に渡って影響を残す事はない。戦闘区域でもないのにミノフスキー粒子が濃ければ、何らかの作戦が行われていると判断できる。敵のいない所にミノフスキー粒子がないのだから、ミノフスキー粒子を散布する事で存在が暴露される場合があるのだ。

一年戦争後には、ミノフスキー粒子の拡散しているパターンを逆探知する事により、敵のだいたい位置を割り出すミノフスキーレーダーが開発されるようになる。

### 「ミノフスキー・クラフト」

WBが超低空を低速飛行できる秘密がこれ。ホバーでは燃料の消費が多いがミノフスキー・クラフトを応用すれば、原子力が動く限り



飛行可能だ。艦体下部のミノフスキー粒子発生装置から散布されたミノフスキー粒子に電荷をかけると、通常の立方格子状の原子モデルに特殊な力場が生まれる。これがIフィールドと呼ばれる物で、艦体と反発する力が生じて、艦体は浮上する。誤解しないでもらいたいのは、艦隊と地面の間のIフィールドがクッションになって浮くのではない。

散布したミノフスキー粒子が形成するIフィールドの上にそれに反発する状態で艦体が浮かんでいるのである。WBはエンジン出力に異常がなければ、ミノフスキー粒子を散布しながらIフィールドを形成し、成層圏まで飛んで行けるのである。化学燃料によって第一宇宙速度を出さなければ大気圏脱出ができない他の宇宙船とは根本的な飛行原理が違う事に注目して欲しい。

Iフィールドは人体は勿論、MSにも影響を与えないが、散布したミノフスキー粒子の拡散速度が早いので全てがIフィールドになるわけではない。Iフィールドに変化しきらないミノフスキー粒子の影響で、電波状態は若干悪くなる。平和な時にミノフスキー・ク

ラフトを使って飛行すれば、その周囲の電波障害は甚大で、周辺の住民から苦情が続出する軍用技術である。(富野さんは、電波障害を起こす船がお好きなようである)

### ミノフスキー・エフェクト

WBのような空気抵抗を無視した船が、大気圏突入をすれば外壁冷却能力だけでは解決しない問題が起きる。高速の空気乱流によって、いかに船体が頑丈でも空中分解はまぬがれないからだ。そこで開発されたのが、Iフィールドで船体を包むバリアである。艦首から放出されるミノフスキー粒子が船体を包む電離した空気の塊を保持するので、摩擦熱が発生しても、空気抵抗は激減し、船体の異常振動も発生しないのである。つまり船の形状に左右されず、プラズマ状態のバリアが船体を包むのである。

### ミノフスキー粒子の実用化

小型核融合炉から、移動可能な超小型核融合炉へ発展させながら、ジオンの軍部は戦闘兵器の開発を進めた。ミノフスキー粒子の戦術散佈を行い誘導兵器が使えない状態でいかに戦えるかを研究したので。その結果、格闘



戦への移行を目的とするMS開発とメガ粒子砲を搭載できる戦艦の開発に焦点が絞られた。

これらは相互に関係しているのも、国力に乏しいジオン公国でも実現は早かった。多少大型ではあるが、戦艦に搭載したミノフスキー核融合炉は高出力を生み出し、今までのビーム兵器の常識をはるかに越えた出力のメガ粒子砲を発射できるようになったのだ。

MS用の超小型核融合炉も完成し、戦術兵器としての性能を満足させる、ザクMSの量産も始まったのだ。なおMS開発については別項を参照の事。

### 【メガ粒子砲】

ビーム兵器はレーザーで実用化され、荷電粒子兵器へと発展した。光の束を発射するレーザーよりも、エネルギー密度の高いイオン粒子を放出するビーム兵器である。原子炉の出力が上がれば、ビーム砲の出力も上昇する。

さらにメガ粒子砲はミノフスキー粒子を縮退させプラズマ状態にして発射するので非常に効率が良く破壊力も大きいのである。

荷電粒子砲であるメガ粒子砲は、粒子を高エネルギーで加速し射出するので、レーザー

のように光速にはならない。物理学的に光よりも遅いだけであって、限りなく光速に近い速度であるから、発射されてからの回避は無理という事になる。

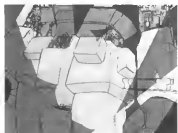
ビーム兵器の欠点としては、磁場偏向に弱いという難点がある。地球で使用する場合には、磁極による誤差を自動修正しなくてはならない。また大気があればビームの先端のエネルギーは空気をプラズマ化するのに費やされ、効率はやや低下する。

最大の難関は、雲であろう。雲海の中では水蒸気分子を破壊するのにエネルギーロスが出るからである。

### 【ジェネレーター】

発電機のこと。現代の原子力発電は効率が悪い。極論をいうなら核分裂の熱を使った蒸気発電と同じなのだ。石炭を燃やしているのか、核分裂の熱を使っているかの差でしかないのである。

ガンダムの物語で使われている核融合炉は、ほぼ完全に電力に転換できるジェネレーターが付属しており、MSは各部のパルスモーターを動力にして駆動されている。



たとえば、ガンダムの初期設定6万5千馬力というのは、バーニアを含むモーターの総出力であって発電量ではない。発電量はその数倍あるからこそ戦艦並のビームライフルを発射できるのである。

(最新オフィシャルデータによればガンダムのジェネレーター出力は1380kW・スラスター推力は55500kgとなっている。普通の電熱器だつて1・3kWだから電熱器1000台分のパワーと書くともちゃ弱そうである。まあ、スベックなんてそんなもの)

1話でアムロが「エネルギーゲインが5倍もある!」と驚いたのはガンダム内部に必要な最低限度の5倍の電力が蓄積されていたからだ。発電機の出力だけでガンダムを動かすと格闘技しか使えないと考えるのが妥当である。逆に起動したガンダムが行動しなければ、発電量のほとんどを蓄積できる。

電力を多量に消耗するビームライフルを連続発射すると、蓄積された電力は消耗し、安全装置が働いてそれ以上は発射できなくなる。しかし、その間にバズーカなどで戦っていれば余分な電力が蓄積されるので、再びライ

フルを使えるのだ。

ガンダムが一番危険な状態だったのはアッザム・リーターに攻撃された時である。外壁冷却能力に全ての電力を使い果たし、ガンダムは動くこともできなかったのである。そういう緊急事態なので、アラームだけでなくコンピュタメッセージも流れたのであろう。

### 「エネルギーCAP」

ガンダムの腰にはエネルギーバックが幾つも付いている。放映当時には、エネルギーバックと説明していたもので、アニメックでは、超伝導コンデンサー的な解説を採用していた。これを電氣的なものではなく物理的に解釈するようにしたのがエネルギーCAPである。すなわちミノフスキー粒子を縮退させメガ粒子になる寸前で保持蓄積する装置の総称である。

後にはカートリッジにして、ビーム兵器を原子炉に接続しなくても使用できる説明に使われていくようになる技術だ。

ガンダムでは、エネルギーCAPにジェネレーターからの電力を加える事でメガ粒子を発生させ戦艦並のビーム砲を連射している。

## 宇宙工学の両軍の差

### 【教育型コンピューター】

え、学習型じゃないのか？ と放送当時は思ったのだが、たしかに人間に教育してくれる部分もあるのでこれで正しいのだろう。

MS開発には10年の遅れを取る連邦である。戦闘判断に優れ、Gに強い戦闘機パイロットをMS乗りにも再訓練をしている余裕がないのでRX計画の最初から新設計のコンピューターが装備されていた。

MSの行動パターンを蓄積し更新できる優れたプログラムである。重力下で試験歩行させ、そのデータをコピーすれば新規の機体ですら歩行は最初から可能になる。

優れたパイロットが慣熟させた機体ならば、あらゆるデータの蓄積により自動運転すら可能である。ジャブローで建造されたGMにはサイド7以来の蓄積されたアムロの戦闘パターンが移植されたので、ソロモン初陣にもかかわらず歴戦のザクと同等の行動が出来た。コンピューター分野では連邦が進んでいた

と判断したい。MS的には性能が高くてでも学徒動員をしなければならない後半のジオンは操縦練度が低くなっていた。

### 【ルナチタニウム】

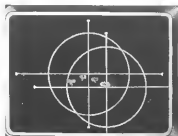
ガンダムに使われた新合金。コロニー建設用に多くの小惑星が地球圏に移送されたが、その中のひとつユノーは月軌道に定着した時点でルナツと呼称された。開戦の9年前にサイド7建設資材用として現在の軌道に移されたのだが、実質は連邦軍の宇宙基地である。連邦軍MSとして開発されたガンダムの装甲は、ルナツで開発された特殊合金による複合素材である。ガンダムはルナチタニウムによる三重ハニカム構造の装甲を装備されているので、軽量かつ丈夫な機体を誇る。

ルナチタニウムは、チタン的一种でルナツの鉱床から採取される。素材の性質もさることながら、無重力の真空状態でなければ製造できない新時代の宇宙合金で、この分野は連邦の独占状態であった。

ザクマシンガンでは破壊されないガンダムの装甲も、一度被弾すれば傷ついているので交換しなければならない。何でも跳ね返す超







合金ではないのだ。外部装甲はユニット単位で簡単に交換できる設計がなされているが、それだけに補給パーツも大量に必要だ。

一年戦争終了後、ルナチタニウムの精製技術はジオンの技術者に伝わり改良される。ガンダムシリーズの装甲に使われた来歴により改良型は『ガンダリウム合金』と呼ばれた。溯ってガンダムに使われたルナチタニウムはガンダリウム $\alpha$ と呼ばれ、 $\beta$ 、 $\gamma$ と改良されていく。

無重力での精密加工技術はジオンも優れたものがあつたがルナチタニウムは保有していない。ジオンのザクは、大戦初期の熱核兵器使用を考慮して、放射線遮蔽に優れる装甲であつたが重量的にも肥大していた。それ故にバルカン砲程度では大破しない強さを誇っていた。

### 【光学機器】

宇宙空間には大気がない。一番大気の影響を受ける場所でもコロニーの端から端を観測する30km強なので、ジオンの光学機器はそれを基本にしている。

また真空の宇宙では、空気を通したにじみ

がなく光の当たった場所はくっきり見えるという特徴があつた。わかりやすく書くと遠近感があまりないのである。

ザクのモノアイは、通常レンズや赤外線レンズを切り換えるだけで優秀な測定が可能なので視差による遠近感の把握は必要なかった。一方連邦は、地球でも使用可能な光学機器を用いている。ガンダムの照準性能が良いのはそこに由来しているのだ。メインカメラだけの射撃では、ザクに劣るかもしれないが、パイロットがガンダムの両目を通した標準では超精密射撃が可能となっていた。

### 【主砲】

当初連邦の核融合炉は出力が弱かつたがミノフスキー核融合炉の技術を手に入れたからは、性能が向上している。それによりメガ粒子砲の射程距離はジオンよりも長くなった。

もともと連邦のビーム兵器は雲の中では効率が落ちるのを考慮して設計されているので塵やガスの漂う戦場でもあまり威力は落ちない。通常の艦隊戦では連邦が有利なのだ。

WBの主砲は火薬式であるが、旧式というわけではない。誘導兵器が使えない状態では

「直線に飛ぶミサイルよりも、高速実体弾が有利なので装備されているのだ。火薬式の弾丸は、一度発射されると迎撃は不能である。」

### 【ソーラ・システム】

連邦軍のソロモン攻略の切り札である。原理的には非常に簡単で、屋根の上に取り付けられた「太陽熱利用の湯沸かし」システムと何ら違いはない。太陽光線を凹面鏡で反射し、焦点を熱するだけのものだ。

ただし連邦軍が使ったシステムは、折り畳まれた小型ミラーを数百万枚も宇宙空間に展開し、反射角度を誘導して全体を巨大な凹面鏡にしてソロモンに焦点を合わせたもの。

ソロモン第6ゲートは数十秒の照射で岩盤もろともに消滅した。一度展開すれば、太陽光線を反射するだけなので無限に使えるが、鏡自体はアルミ蒸着されたバネルなので簡単に破損する。

### 【コロニーレーザー砲】

ソーラレイ・システムと呼ばれる巨大なレーザー砲で典型的な民生技術の軍事応用である。密閉型コロニーと太陽電池パネルがあれば、比較的容易に製造できる。ただし、コロ

ニー一基の全人口を短期間に強制疎開させるのが可能な軍事政権でなければ実行できない。サイド3の3パンチコロニー「マハル」の住民を強制疎開させ、コロニー内部にアルミニウム・コーティングを施し巨大な鏡の筒にしたもので、内部の気体も80パーセントのヘリウム・15パーセントの窒素・5パーセントの二酸化炭素に置換した気体レーザー原理による巨大レーザーである。

周辺の太陽電池パネルをかき集め、人工太陽装置を改造した電界発生装置により励起させた直径6キロに及ぶ巨大レーザーである。

試験用の一度しか使えない偏光ミラーや集光レンズをもたない構造でありながら、その威力は絶大で、ゲル・ドルバ照準で3秒間照射された悪魔の光は、連邦の1/3の艦艇とデギン・ザビを葬ったのである。

### 【航空機】

ジオンにとっては一番不利な分野である。

コロニー内では本格的な飛行実験ができないからだ。固定翼の実用データのないジオンだからこそ、推力を異常に高くした燃料効率の悪い機体を設計したのだろう。ドップなどは





その代表例である。

しかし空気力学を無視した推力に頼る航空機は小回りが利くという利点も発生していた。また推力が必要以上にあったおかげで、MSを乗せても飛行できるドタイプYSという名機も生み出している。

航空機は地球だけで使われるものであるから連邦の方がノウハウが多く優秀だったと思われる。プロペラ機は連邦しか保有していないのが良い例である。

ただ宇宙戦闘という事になると、連邦には大艦巨砲主義が発達しており、宇宙空母という発想がなかった。艦載機等には存在しない。(トリアエーズ戦闘機が画面上では使われなかった。艦載機ではなく極地戦闘機として判断しているのですが……)

その点MSの空母としてムサイを設計したジオンはルウム戦役の艦隊戦で華々しい戦果をあげていた。

### 【熱核兵器】

両軍が保有しているが、連邦軍には使う余裕すらなかった。一週間戦争やルウム戦役では、戦術核弾頭を装備したザクがコロニーや

連邦戦艦を大量に破壊した記録が残っている。

南極条約締結後はどちらも核兵器を使用していない。オアッサ作戦でマ・クベが発射した一発の水爆ミサイルだけが、例外中の例外だが、ガンダムの活躍により不発に終わる。

両軍ともに地球を汚染するのは避けたいのである。

### 【宇宙服】

両軍の性能差はほとんどない。大きな違いはランドムーバーだろう。連邦が四方向のバーニアのベクトル合成で進行方向を決定するのに対して、ジオンはバーニアの向きを直接可変するようになっている。

機械的な安定度では連邦が、燃料効率を考えればジオンの方が優れているといえよう。

宇宙世紀になり、宇宙空間での作業が日常茶飯事になった事から進化したのだろう。

パイロット用のノーマルスーツは、動き易さを重点に設計されているので、排出された二酸化炭素を触媒で酸素に還元するクローズドタイプで補機はついていない。それでも軽微な破損を考慮して予備酸素が10分程度内蔵されている。皮膚呼吸の確保に必要な特殊繊維

維で作られたアンダーウェアを着用しないとノーマルスーツ本来の性能が出ないので注意が必要。

### 〔潜水艦〕

一年戦争の七不思議のひとつといわれているのが、ジオンの潜水艦だ。コロニーでしか実験できないジオンが、どうしてあんなに性能の良い潜水艦を建造できたのだろうかという疑問が放映中には囁かれていた。

サンライズオフィシャル資料によれば、ジオンの地球降下作戦によりほぼ無傷で制圧された北米キャリフォルニア基地の潜水艦ドックを利用して建造されたもので、連邦の潜水艦を基本にジオンの技術が導入されたものであった。水中用MAグラブロ等は連邦の潜水艦技術を使い地球で開発したものである。

キシリアの設立した戦略海洋諜報部隊の活躍により制海権はジオンのものとなっていた。

### 〔鉱物資源〕

月面や小惑星でしか産出されない鉱物があるとはいえ、希少金属のほとんどは地球の鉱山が頼りである。化石燃料と希少金属類を保有しないジオン公国にとって、制圧後の地球

の鉱山は宝の山であった。

宇宙産業にとって希少金属は必要不可欠なもので、あらゆる機械、機器の心臓部を連邦に押さえられていけばジオンは滅亡するしかなかったのである。

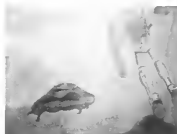
### 〔木星船団〕

天然に存在するヘリウムは、決して多くはない。ましてや普通のヘリウムの原子核が陽子2個、中性子2個なのに対し、中性子が1個しかないヘリウム3は、 $0.015$ パーセントしかない超希少元素である。

重水素とヘリウム3の核融合反応は他の組み合わせと比べ中性子がほとんど発生しないために移動用原子炉としては最適になる。

核融合炉を離れた場所に設置するならともかく、人体に致命傷を及ぼす中性子を遮蔽するだけでもかなりの重量が必要になる。戦艦やモビルスーツに搭載するに融合炉にはヘリウム3が不可欠なのである。

木星に船団を飛ばし、ヘリウム3を採取するしか人類に残された方法がない。その為に木星船団に対しては、双方が不可侵としていた。木星行路としては、火星・木星間の小惑





星が利用できる場合も多いが孤独な旅となる。普通の神経では任務遂行できないくらい苛酷な任務である。

なお、小惑星開発は木星船団についての激務と言えるだろう。コロニー建設用の資材を全て月で調達するわけにはいかず、適当な小惑星を地球圏に移送する公共事業も盛んであった。連邦がルナツーを宇宙基地にしたように、ジオンはソロモンやア・バオア・クーを要塞化していた。このうち、まだ要塞として改造途中の小惑星が、後のアクシズである。

### 【画面に出ないテクノロジー】

スペースシャトルをこ存じの人は多いが、この初飛行がいつ成功したかを覚えている人は少ないのではないだろうか？

昭和56年（1981）4月12日なのだ。フロリダのケネディ宇宙センター（当時）39A発射台より打ち上げられたスペースシャトル一号機「コロンビア」は、ジョン・ヤングとロバート・クリッペンとの二人の飛行士の手で宇宙時代の新たな期待を乗せ宇宙に飛び立ち、地球を36・5周した後には大気圏に突入しエドワーズ空軍基地に着陸した。飛行時間は54時

間20分52秒であった。

これは、ガガーリンがボストーク宇宙船による人類史上初めて地球を一周した日からちょうど20年目であり、機動戦士ガンダム放映の2年後、劇場公開の年であった。

（スペースシャトルに詳しい人には訳がある。このムックシリーズ、ラポートDXの第一号は昭和56年8月に発売した『THE SPACE SHUTTLE』なのだ。NASAから公開可能な全ての資料を提供してもらい本邦初のスペースシャトル完全解説ムックとして発行したのである。太っ腹のNASAは当時はまだ重要機密であった耐熱タイルの現物まで貸してくれたのだ。）

とつくに絶版になった本をいまだに宣伝する気はないのだが、NASAから借りたシャトル関係の資料には宇宙開発の展望がかなり混ざっていた。今となっては実現は不可能であろうが、その話を少ししてみよう。

### 【太陽発電】

なんと、遅くとも2005年には太陽発電衛星の幾つかが完成しているだろうという予測になっていた。実際問題としてシャトルか



THE SPACE SHUTTLE  
NASA SHUTTLE-CHALLENGER

らアルミ素材の骨組みを展開し、太陽パネルを貼るだけだからオービターのペイロードだけでなく十分である。あの貨物室は30トンのペイロードがあるので、実験施設よりは実用的な発電衛星を宇宙で展開できるのだ。

太陽発電衛星は地球から3〜4万キロの衛星軌道を周回するのだから無重力空間での構造物には強度は必要としない。

もともとこの年に募集され、80年代後半にはオービターに乗り組み宇宙活動を行うであろうと予測されていた日本人ミッションスベシャリストが宇宙に出たのは最近の話である。宇宙開発予算の削減や、シャトルの爆発事故による遅れを考慮しても、宇宙開発速度はかなり低調になっていると見るべきだろう。

オニールの宇宙植民計画の抜粋も添付されていたが、ガンダム放映当時に翻訳されていたものと大差がなく、参考にはならなかった。四半世紀では実現は難しいがと記載されていたのが現実的でもあった。

シャトルの実用として、合金生成（無重力空間で作るウィスカー合金）や血栓の予防薬であるウロキナーゼの分離、または太陽発電

所の建設という部分が詳細に記載されていた。発電といえば、スペースシャトルの電力システムを少し説明しておこう。水素と酸素の化学反応により必要電力を取り出す燃料電池システムはなかなか大容量である。

32のサブ電極がひとつのセルにまとめられ、このメインセルが3組あるのが燃料電池である。酸素と水素はそれぞれのタンクに入っている。

燃料電池パワープラントの発電能力であるが、常時14キロワット、最大24キロワットの電力消費に耐えうる。

燃料電池は直流電力であるから発電時は、27・5〜32・5Vで発電し、インバーターにより必要電圧に転換している。

さらに5千時間の使用に耐える驚異的な寿命の酸素電池（触媒は水酸化カリウム）も搭載されており、両方の電池システムを使う事によりオービターは太陽電池を使わなくても全てのシステムを稼働できるのである。

ミッション用エネルギー毎時1530キロワット、サバイバル用エネルギー毎時264キロワットというのがオービターの公式発電



スベックである。

### 【無重力病】

無重力状態で健康を保つためには、適切な食事と睡眠以外に、抵抗力をつけるための運動が不可欠である。かつての宇宙飛行士たちは、運動要素を抜かしていたために、骨を構成するカルシウムが減少し、筋力や循環器系統の能力低下が著しかった。

それまでの医学データを検証した結果、NASAが開発したのがトレッドミルという過負荷運動器具である。深夜の通販番組で登場する室内トレーニング機器のほとんどはトレッドミルの原理を応用している。

ローラー上のテフロン加工されたアルミシートの上を歩くだけの装置であるが、無重力状態でも筋肉に負荷がかかるように、器具付属のベルトをウエストに固定して、仮想路面に足が一定の力で押し付けられるようになっている。腕にも同じようなベルトが取り付けられ地上の歩行運動と同じように腕の運動にもなるのだ。

スペースシャトルでは、一週間から二週間以内のミッションであれば1日15分。30日以

内のミッションであれば一日30分の使用を義務づけている。骨や筋肉が弱るのをかなり防ぐ効果が報告されている。

長期間の無重力環境が人間にどれだけの影響力を与えるかわかっていない部分が多いができる限り地上と同じ重力が必要と考えられているのは事実である。

それとは別に、シャトル以前から宇宙飛行士は一種の乗り物酔いに悩まされている。

生活環境が、アポロ宇宙船よりも向上したスペースシャトルでも、地上ではまず酔いも飛行機酔いもしない宇宙飛行士の3割強が、めまい、吐き気、冷や汗、頭痛、眠気、生あくびという症状に悩まされている。

無重力による影響だけではなく、船体の回転で起こるコリオリの力により三半規管が追従できないからではないかという仮説もあるが現段階では詳しい事はわかっていない。

ただ純粹に遠心力による疑似重力の円筒実験によれば、人間工学的に毎分1回転以上の速度ではコリオリの力により不快感を覚える人間がほとんどという結果が出ている。

鳥3号タイプのコロニーは2分で一回転す



るから、疑似重力でもほとんど人間には影響を与えないと想像できる。

コロニーの記述について、『地球とほぼ同じ重力が得られる』と書いてあるのは苦肉の策ともいえる。コロニーの外殻、つまり地面の厚みにもよるが、机上計算によれば最大でも0・92Gくらいで地球よりは10パーセントくらい軽くなってしまうからだ。

もう少し回転を早くすると（115秒に一回転）1Gになるのだが同期速度の調整が難しいのかもしれない。

あるいは、直径6・5キロは内径で、コロニーの外径がもう少し大きいとか。昔から悩むところなのだが、オニール氏が何を考えていたのかわからないのでそのままにしてある。（描写的にも地球と大差なかったのも、ほぼ1Gということでもかまわないだろう）

コロニーが回転による遠心力で疑似重力を発生させている理屈を納得していても、地球上では存在しない現象があるので混乱している人は多いようだ。

たとえばコロニー外壁速度であらう。コロニーの外壁は、時速600キロ強の速度で移

動しており、外壁に張り付くと、外に飛ばされる力が働くのだ。

つまりコロニー外壁にスックと立つMSという絵の場合には頭の上にバーニアを吹くか、足の裏に強力な磁力でも発生させていると無理なのである。地上に置き換えると、コモリが岩肌にくら下がっている状態だ。

コロニー外壁のメンテナンスは、ぶら下がった状態であり、専用のゴンドラや作業ボットを使わなければならない。外壁から一度離れば、宇宙空間に1G速度で放り出されるのである。これは宇宙作業としてはかなり速い速度となる。

逆にコロニーの回転を利用した交通機関はエネルギーを使う必要なく行える。地表から地下に降り、姿勢制御バーニアのみついたカプセルに乗り込み、適切な方向に向いた時に切り離せば、同じサイドの他のパンチへ移動するのは容易である。

なお1話で爆破口に吸い込まれたテム・レイだが、遠心力の1Gと吹き出す空気の勢いが合成されていたから秒速300メートルくらいで飛んでいったものと想像されている。



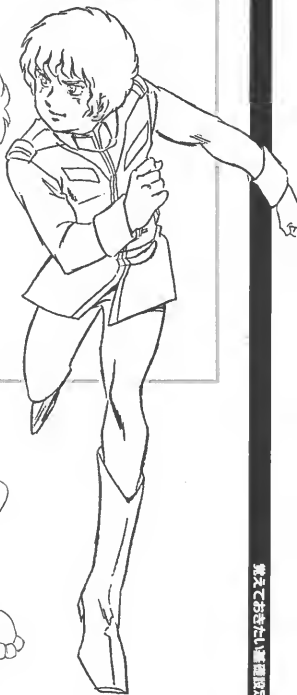
## 第三章●ピックアップ設定資料

# 覚えておきたい 基礎設定



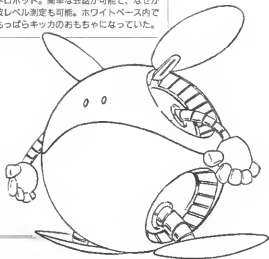
## アムロ・レイ

サイドアに住む機械じじりの好きな内向的な少年。偶然手に入れたマニュアルをもとにガンダムを操縦。以後、現地徴用兵としてガンダムのメインパイロットとして活躍。ジオン公国軍のシャアやランバ・ラルとの戦闘を通じ、戦いの厳しさを知り、ニュータイプへと覚醒していく。ララァ・スンとの出会いと死別が、心に大きなトラウマを残すこととなる。



## ハロ

アムロがフラウにプレゼントした、手製のペットロボット。簡単な会話が可能で、なぜか脳波レベル測定も可能。ホワイトベース内ではもっぱらキッカのおもちゃになっていた。



## フライト・ノア

士官候補生としてWBに乗り込んでいたが、正統の軍人が次々と倒れる中、やむなく素人だらけの艦の指揮官となる。地球において少尉に任官後、ジャブローで中尉に任官する。ア・バオア・クー戦では、アムロの助けて、沈む艦より生存者全員を無事退艦させた。



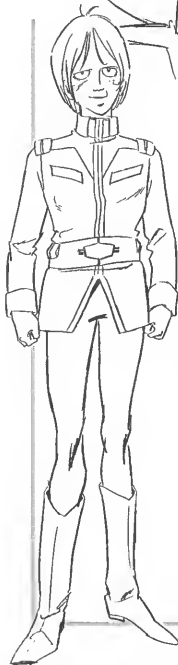
## ミライ・ヤシマ

地球連邦政府元高官の令嬢。父親の死後に移住したサイド7で戦場に巻き込まれ、WBに逃げ込む。スペースグライダーのライセンスをもっていたため、WBの操縦を任される。フライトを支える副長兼W日のお母さんの存在。許嫁・カムランがいたが、彼女の心はフライトへと傾きつつあった。



## セイラ・マス

本名アルテイシア・ソム・ダイクン。ジオニズムを唱えた父・ジオン・ズム・ダイクンの死後、ザビ家の台頭に危機を感じた父の側近ジンパ・ラルの導きで兄キャスバルと共にサイド3を脱出。地球に逃れ、マス家の養女となる。看護学生としてサイド7に住んでいたが、ジオン軍の襲撃によりWBに逃げ込み、以後通称を担当。後にGファイターのパイロットとなる。



## カイ・シデン

サイド7に住む技術者の息子で、大型特殊車両の免許を保有していることから、ガンキャノンのパイロットとして戦うことになる。始めの頃はアウトロー的な行動が目立ったが、徐々に打ち解けてきた。ジオンの女スパイ・ミハルとの交流から、自分なりの使命感に目覚める。





## ハヤト・コバヤシ

サイドアでアムロの向かいに住んでいたが、WBに逃げ込み、クルーとなった。WBではガンタンクに搭乗。アムロに対して密かに反抗心を燃やしていたが、及ばない自分に苛立ちを感じていた。そんな自分を気づかうフラウ・ボウに惹かれていく。特技は柔道。



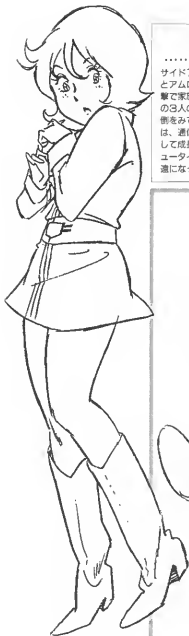
## リュウ・ホセイ

WBの正規のクルーの数少ない生き残り。パイロット候補生だったが、実戦経験は皆無に等しかった。ブライトと反対におおらかな性格であり、戦闘面ではリーダーとしてみんなのまとめ役だった。ハヤトと共にガンタンクに搭乗するが、ラル隊との戦いで特攻をかけ戦死。彼の死により、クルーの結束が一層固まることとなる。二階級特進で中尉となる。



## フラウ・ボウ

サイドアでアムロの近所に住んでいて、何かとアムロの世話を焼いていた。ジオン軍の襲撃で家族を失い、WBに避難した。同じ境遇の3人の子供達を、お姉さん代わりとして面倒をみている。セイラがパイロットに転向後は、通信担当。アムロが、戦士として、男として成長していくのを好ましく思う反面、ニュータイプへと覚醒していくことで自分と疎遠になっていく寂しさも感じていた。



## カツ&レッツ&キッカ

サイドア難民の3人の子供達。フラウ・ボウを導いて、WBに居ついてしまった。カツは年下の面倒みが良い。レッツはやんちゃ坊主。キッカは元気な女の子。三人ともニュータイプの素質があり、特にアムロがア・バオア・クーから脱出出来たのは彼らの力によるところが大きい。

### 第三 アップ設定資料

#### マチルダ・アジャン

連邦軍中尉。ミデア輸送部隊・マチルダ隊の指揮官。レビル將軍の直命でW日の補給と修理を行う。個人的にもW日の実力を評価。特にアムロの素質にはかなり目をかけていた。修理したW日を黒い三連星の攻撃から守るために出撃し戦死。ウツィ大尉は婚約者。

#### レビル將軍

連邦軍大尉。ルウム戦役では黒い三連星に捕らわれたが、奇跡の生還をし『ジオンに兵なし』の演説を行ったことは有名。早くよりW日の実力を見放していた。後にデギン公王との和平交渉の直前、ソーラレイの攻撃で戦死。

#### スレッガー・ロウ

リュウの補充要員としてジャブローで配属されたパイロット。独特の洒落っ気のある口調の飄々とした一面と、粗野ではあるが熟練の正規兵らしさを持つ。ミライから好意を寄せられていたが、素直に応えぬままビッグ・ザムとの死闘に出撃し命を落とす。

#### ミハル

ミハル・ラトキエ。戦争で両親が死亡した後、幼い兄弟を抱え、生きるためにやむを得ずスパイとなる。ベルファスト基地に寄港したW日の情報を得るために潜入。大西洋上で攻撃を受けるW日で必死に戦う子供達の姿を見て、カイと出撃し大西洋に散っていく。

## テム・レイ

連邦軍の技術大尉でアムロの父。生まれつきの技術屋で家庭を顧みることのない堅物。V作戦に参加し完了寸前というところでシャアの部隊に奇襲をかけられ、行方不明となる。のちにサイド6でアムロと再会するが、その脳は酸素欠乏症に冒されていた。その姿にアムロは絶望する。



## カマリア・レイ

アムロの母親。宇宙に馴染めないため、一人地球で暮らしていた。避難民キャンプでボランティアをしていた時、訪ねてきたアムロと再会する。しかしそれは、互いの生き方の違いを思い知らされるだけのものではあった。



## オスカ

WBのオペレーター。訓練生として乗り込んでいたが、サイド6で正規のオペレーター達が全員死亡してしまったため、任に着いた。主に索敵担当。



## ジョブ・ジョン

WBの予備パイロット。主にガンタンクやガンベリーのサブパイロットにつく。器用なのか甲板士官やメカニックの手伝いなどもやる。

## マーカ

ホワイトベースのオペレーター。オスカと共に任に着いた。状況報告だけでなく、アドバースを述べる時もある。

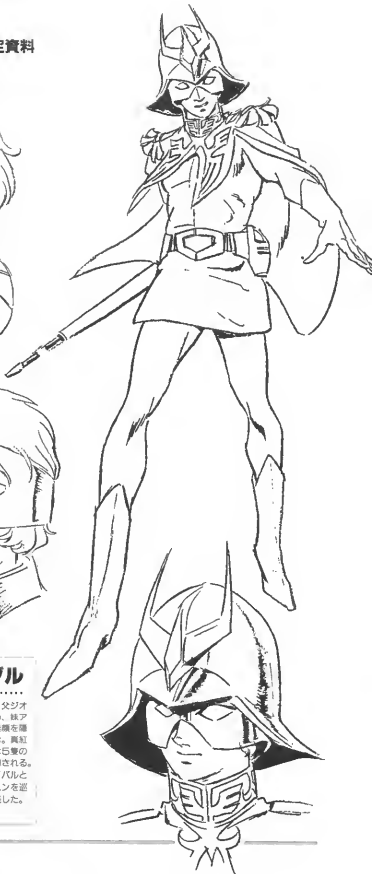


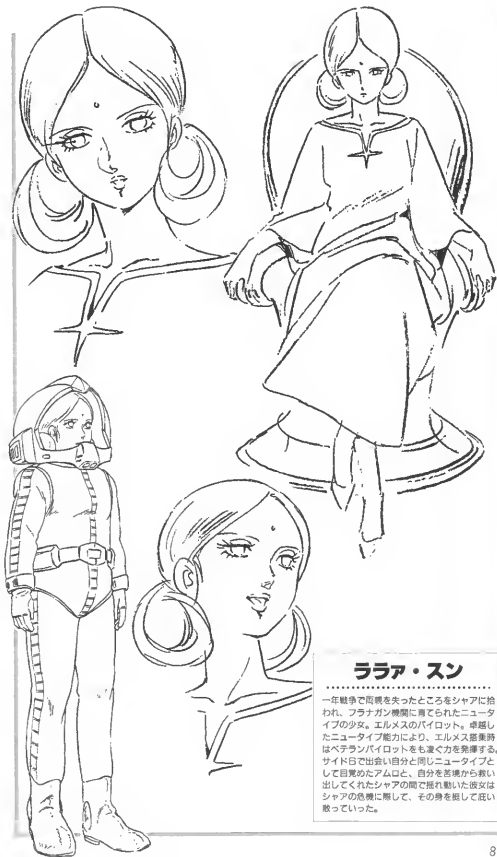




## シャア・アズナブル

本名はキャスバル・レム・ダイクン。父ジオン・ズム・ダイクンが暗殺されたため、妹アルテイシアと共に地球に逃れるが、乗機を隠し、名前を変えザビ家打倒をもちろむ。真紅のザクを駆り、ルウム戦役においては白髪の連邦艦を撃沈。ジオンの赤い彗星と聞かれる。ガンダムのパイロット、アムロをライバルとして認識し興味をもつが、ラファ・スンを巡っての関係は、彼の心にも深い傷を残した。ア・バオア・クー戦後、行方不明。





## ラリア・スン

一年戦争で両親を失ったところをシャアに拾われ、フラナガン機関に育てられたニュータイプの少女。エルメスのパイロット。卓越したニュータイプ能力により、エルメス搭乗時はベテランパイロットをも凌ぐ力を発揮する。サイド6で出会った自分と同じニュータイプとして目覚めたアムロと、自分を苦境から救い出してくれたシャアの間で揺れ動いた彼女はシャアの危機に際して、その身を挺して庇い散っていった。

### 第三章●ピックアップ設定資料

#### ギレン・ザビ

デギン公王の長男で、ジオン軍総帥。ジオン中心の世界を作るという、一種の過民思想の持ち主。連邦との和平交渉を行おうとした父デギンを、連邦のレビル将軍と共にソーラ・レイをもって射った。しかし、ア・バオア・クーにてキシリアによ射殺される。

#### キシリア・ザビ

ザビ家の長女。ジオン軍少将。ガルマの直接の上司でもある。ドズルが難免したシャアを拾うなど合理主義者であり、フラナガン機関を支援したりする先見の明もある。体面を重んじる軍人よりは政治家に近いタイプ。父デギン謀殺の容疑で実兄・ギレンを殺害。自らもシャアによって狙撃され死亡。

#### ドズル・ザビ

ザビ家の次男(?)。ジオンの戦略拠点であるソロモンに駐留していたジオン軍中將。顔中傷だらけの巨漢。ギレンやキシリアと違い、常に兵運を気遣う慈愛な武人タイプで、多くの部下に慕われている。ソロモン戦で妻子・部下を避難させた後、たった一人ビッグ・ザムで出撃し死亡。

#### 妻ゼナと娘のミネバ

## イセリナ

元ニューヨーク市長の娘。ジオンを継ぐ父の反対を押し切り、ガルマと恋仲になる。ガルマがWBに倒されたことと知ると、仇を討つためにガウに乗り込むが、アムロに銃を突きつけたところで命尽きた。



## ガルマ・サビ

ザビ家の末弟。ジオン軍地球方面軍司令。シャアとは士官学校の同期生で主席を争った仲。若くして要職についたことを「影の七光」と思われることを嫌い、自ら前線に戦って実力を示そうとするが、戦場でイセリナとラブロマンスを繰り広げるなど、お坊ちゃんの甘さが見え隠れすることは否めない。シャアの裏切りにも死の寸前まで気づかず、ガウでW日に特攻、戦死。天性のカリスマがあり、ジオンの国民にも人気があったことから、その葬儀もギレンによって戦意高揚のためのイベントにされてしまった。



覚えておきたい事情設定

## デギン・サビ

ジオン公国国王。ジオン・ダイクンの側近の一人であったが、彼を暗殺。その死後王制を敷き一独裁を行なう。国民を軍国主義に導き、地球連邦に独立戦争を挑む。実務は子供達に任せていたが、ガルマの死後、この戦争の意義を失い、ソロモン陥落後、連邦との和平交渉に向かうが、ギレンによって殺される。



## ランバ・ラル

ガルマの仇討ち部隊の隊長。ゲリラ戦のスペシャリスト。ジオン・ダイクンの側近であったジンバ・ラルの息子であり、幼少の頃のセイラと面識がある。どんな逆境にも負けず、ひたすら任務遂行の方法を模索する軍人。部下からの人望も厚い。W日に白兵戦を挑み負傷、軍人の生き様を見せんと自決する。

## クラウレ・ハモン

ランバ・ラルの愛人。正式な軍属ではないが、優秀な軍人であり兵運の人望も厚い。ランバ・ラルが出撃した際の後方支援の指揮をとる。ラルの死後、自ら残存兵力でW日へ特攻をかけるが、リュウの捨て身の攻撃で爆死。

## マ・クベ

キシリアの部下。連邦軍のオデッサ作戦で撤退するまでは、地球上の鉱物資源の採掘が任務。狡猾な男で様々な裏を用いて戦うがガンダムに敗れる。古美術の収集が趣味。

## 黒い三連星

キシリア配下の歴戦のMSパイロット。マッシュ・オルテガ・ガイアの3人からなるチーム。新型MSドムの機動力を生かしたジェット・ストリーム・アタックという三位一体攻撃を得意とした。ルウム戦役にてレビル將軍を捕虜にしたのもこのトリオであった。

## シャリア・フル

木星船団の長。ブラウ・プロのパイロット。潜在的なニュータイプ能力を見込まれ、ギレンからキシリアのもとへ派遣された。ブラウ・プロでガンダムに挑むが破れる。

## ドレン

シャアの副官。後に大尉に昇格しキャメル艦隊の司令となる。シャアのザビ家に対する企みを知っているが協力していたフシがある。シャアの要請で、宇宙に出たW日の頭を抑えるべく艦隊戦を仕掛けるが、逆にガンダムの威力の前に艦隊は全滅する。



## コンスコン

ドズルが派遣したチベ艦隊の司令官。シャアの存在を面白く思っておらず、シャアの無能さを証明すべく、圧倒的戦力をもってWBに強襲をかける。しかし、ガンダムの活躍によって艦隊を全滅へと追い込まれてしまい、自らの無能ぶりを嘆いてしまった。

## ガテム

補給艦バブアの艦長。WBを追うシャアの補給に駆けつける。艦を沈められ、旧ザクでガンダムに挑むが破れる。

## フラナガン・ブーン

潜水艦・ユーコンの艦長。ベルデ諸島漁業組合員に化けてWBに潜入したこともある。部下達の敵討ちのため、MAグラブロで出撃。ガンダムのビームサーベルに貫かれ、戦死。



## クランプ

ランバ・ラルと共に派遣されたラルの副官。ラルと同じく根っからの軍人。WBに突入する際にブリッジに爆薬を仕掛けようとして、密通しにキッカと遭遇、艦艇に子供が乗船している事実に見当る。開いたハッチから突入しようとして、マシンガンの反撃を受け、戦死。

## カムラン

サイド6の検察官。親同士が決めた、ミライの婚約者。サイド6に入港したWBを訪れた際にミライと再会。だが、彼の愛し方はミライが望んでいたものではなかった。それでもミライの無事を願い、ジオン軍のコンスコン隊に対するWBの旗となることを申し出、チャーター機でサイド6の領海端まで随伴した。



## ウッディ

ジャブローの宇宙船整備担当士官。マチルダ中尉の婚約者。入港したWBのオーバーホールと宇宙用機体の責任者。WBを守るためにホバークラフト・ファンファンで出撃し、シャアのズゴックに挑んだが、コクピットごと潰され、散った。



## ワッケイン少佐

ルナツー方面軍司令官。軍機優先の融通のきかない軍人であった。機密違反で監禁したブライトたちWBクルーに危機を救われ、さらに息を引き取る寸前のバオロ艦長の願いによりWBをジャブローに向かわせる。

## バオロ

WBの初代艦長。サイド7においてシャアのムサイと交戦し、重傷を負う。サイド7の避難民や不慣れた少年兵を気遣いつつWBを導いていくが、ルナツー脱出の際、死亡。

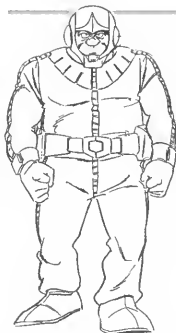
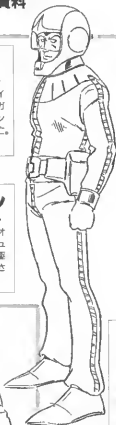


## ジーン

デニムと共にサイド7に潜入したザクのパイロット。新兵であったジーンは功を焦ってガンダムを破壊しようとするが、起動したガンダムのビームサーベルでザクを両断され死亡。ガンダムの初戦果となる。

## ジオン・スミ・ダイクン

ジオニズム論を唱え、サイド3においてジオン共和国として地球連邦に独立を宣言。ニュータイプという存在について取り上げた先駆者的存在。デギン・ザビの陰謀により暗殺された。シャアとセイラの父。



## デニム

シャア指揮下の古参兵でザクパイロット。物語の冒頭にジーンと共にサイド7に潜入し、連邦軍のV作戦を発見する。巧を焦ったジーンの暴走を抑えきれず、史上初のMS同士の戦闘によって死亡。アムロがガンダムに乗るきっかけを作った人物。

## ウラガン中尉

マ・クベ付きの士官で、ランバ・ラルとの連絡係などを務めた。テキサスコロニーでの対WB戦で戦死。





## ガンダム

機体名称：ガンダム(GUNDAM)

形式番号：RX-78

開発基地：地球連邦軍・サイド7

スペック：頭頂高/18.0m 本体重量/43.4t ジェネレーター出力/1390kW  
スラスター推力/55500kg 装甲材質/超合金ヘルナ・チタニウム

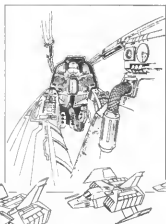
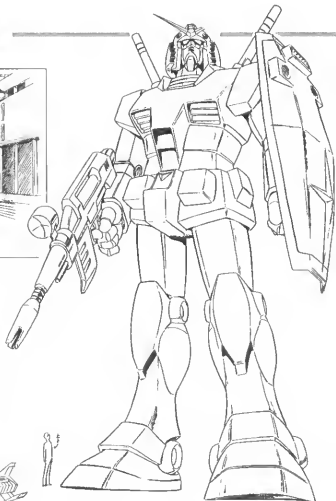
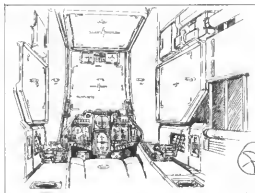
武装：固定/頭部バルカン×2

ビームサーベル(ビームジャベリン(TV))×2

耐熱フィールド(映画) 耐熱フィルム(TV)

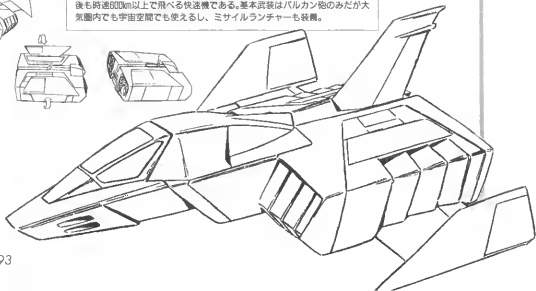
手持 専用ビームライフル ハイパーバズーカ ガンダムシールド  
ガンダムハンマー(TV) ハイパーハンマー(TV)  
スーパーナバーム

### 第三章●ピックアップ設定資料



#### コア・ファイター

ガンダムタイプの操縦中核を脱出力バセルとして変形可能な設計にしたところ、超小型核融合炉を搭載した多目的戦闘機として完成した。コアチェンジ後も時速800km以上で飛べる快速機である。基本武装はバルカン砲のみだが大気圏内でも宇宙空間でも使えるし、ミサイルランチャーも装備。



## ガンキャノン

機体名称：ガンキャノン(GUNCANNON)

形式番号：RX-77

開発基地：地球連邦軍・サイド7

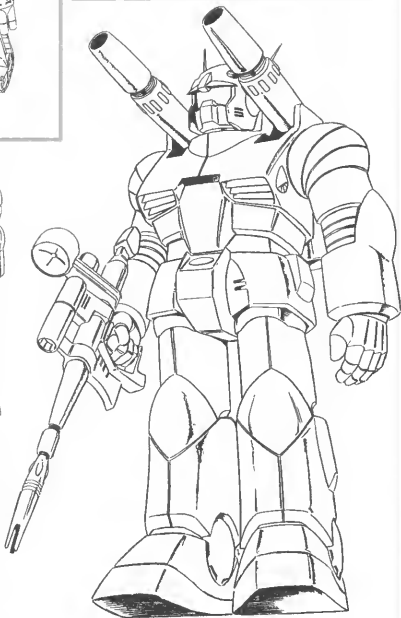
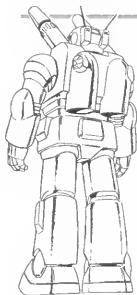
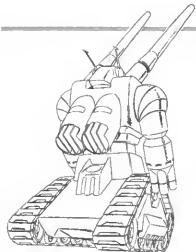
スペック：全長/17.5m 本体重量/51.0t ジェネレーター出力/1380kW

スラスター推力/51800ks 装甲材質/超合金アルナ・チタニウム

武装：固定/額部バルカン×2 肩部キャノン砲×2

スプレミサイルランチャー×2(未登場)

手持/専用ビームライフル 手榴弾(映画)



### 第三章●ピックアップ設定資料

#### ガンタンク

機体名称：ガンタンク (GUNTANK)

形式番号：RX-75

開発基地：地球連邦軍・サイド7

スペック：頭頂高/15.0m 本体重量/56.0t ジェネレーター出力/678kW  
スラスター推力/88000kg 装甲材質 超鋼合金ルナ・チタニウム

武装：固定/胸部120mmキャノン砲×2 腕部ポップミサイル4連装×2  
手持/なし

#### ジム

機体名称：ジム (GM)

形式番号：RGM-79

開発基地：地球連邦軍・ジャブロー

スペック：頭頂高/18.0m 本体重量/41.2t ジェネレーター出力/1250kW  
スラスター推力/55500kg 装甲材質/チタン系合金

武装：固定/腕部バルカン×2 ビームサーベル

手持/ビームスプレーガン ガンダムシールド

ガンダム用ビームライフル(TV) ハイパーバズーカ

#### ボール

機体名称：ボール (BALL)

形式番号：RB-79

開発基地：地球連邦軍・ルナツー

スペック：頭頂高/12.8m 本体重量/17.2t ジェネレーター出力/400kW

武装：固定/キャノン砲

手持/なし

## ザク

機体名称: ザク(ZAKU II)

形式番号: MS-06

開発基地: ジオン公国軍・ズムシディ

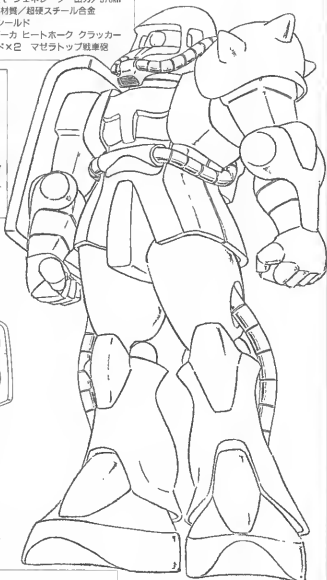
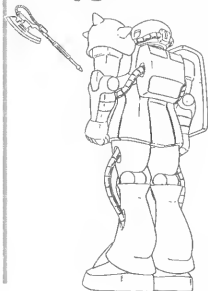
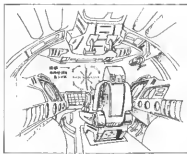
スペック: 頭頂高/17.5m 本体重量/56.2t ジェネレーター出力/976kW

スラスター推力/43300kg 装甲材質/超硬スチール合金

武装: 固定/スパイクアーマー ザクシールド

手持/ザクマシンガン ザクバズーカ ヒートホーク クラッカー

脚部3連装ミサイルポッド×2 マゼラトップ戦車砲



## グフ

機体名称: グフ(GOUF)

形式番号: MS-07

開発基地: ジオン公国軍・カリフォルニアベース

スペック: 頭頂高/18.2m 本体重量/58.5t ジェネレーター出力/1034kW

スラスター推力/40700kg 装甲材質/超硬スチール合金

武装: 固定/ヒートロッド 5連装フィンガーバルカン

スパイクアーマー×2

手持/専用シールド ヒート剣 ザクマシンガン(TV)

ヒートホーク(TV) ジャイアントバズ(映画)



### 第三章●ピックアップ設定資料

#### 旧ザク

機体名称：旧型ザク(ZAKU 1)

形式番号：MS-05B

開発基地：ジオン公国軍・ズムシディー

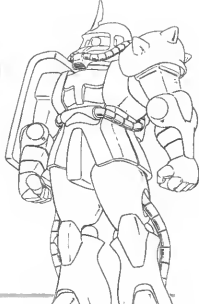
スペック：頭頂高/17.5m 本体重量/65.5t ジェネレーター出力/899kW

スラスター推力/40700kg 装甲材質/超硬スチール合金

武装：固定/なし

手持/ザクマシンガン(映画) ザクバズーカ(未登場)

ヒートホーク(未登場)



#### シャアザク

機体名称：シャア専用ザク(CHAR'S ZAKU)

形式番号：MS-06S

開発基地：ジオン公国軍・ア

スペック：頭頂高/17.5m 装甲材質/超硬スチール合金

武装：固定/スパイクアーマー ザクシールド

手持/ザクマシンガン ザクバズーカ ヒートホーク

#### ドム

機体名称：ドム(DOM)

形式番号：MS-09

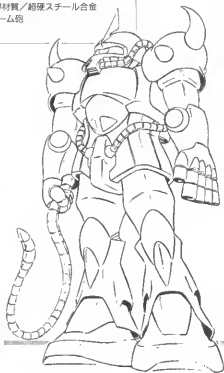
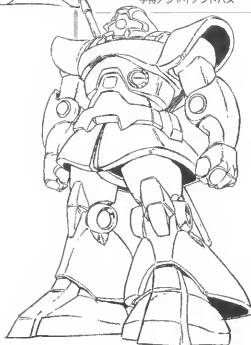
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース

スペック：頭頂高/18.6m 本体重量/82.6t ジェネレーター出力/1269kW

スラスター推力/58200kg 装甲材質/超硬スチール合金

武装：固定/ヒートサーベル 拡散ビーム砲

手持/ジャイアントバズ



## ゲルググ

機体名称: シャア専用ゲルググ(CHAR'S GELGOOG)

形式番号: MS-14S

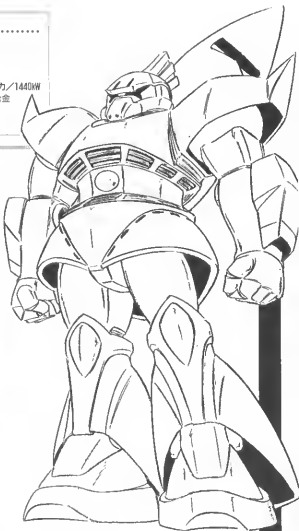
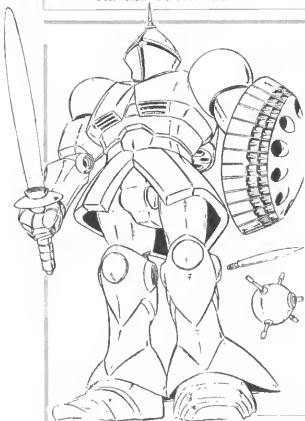
開発基地: ジオン公国軍・グラナダ

スペック: 頭頂高/19.2m 本体重量/42.1t ジェネレーター出力/1440kW

スラスター推力/81500kg 装甲材質/超硬スチール合金

武装: 固定/ビームナギナタ

手持/専用ビームライフル 専用シールド



## キャン

機体名称: キャン(GANN)

形式番号: MS-15

開発基地: ジオン公国軍・グラナダ

スペック: 頭頂高/19.9m 本体重量/52.7t ジェネレーター出力/1390kW

スラスター推力/58200kg 装甲材質/超硬スチール合金

武装: 固定/なし

手持/専用ビームサーベル 専用シールド ニードルミサイル  
ハイドポンプ

## ジオング

機体名称: ジオング(Z IONG)

形式番号: MSN-02

開発基地: ジオン公国軍・ア・バオア・クー

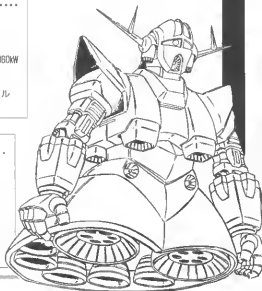
スペック: 頭頂高/17.3m 本体重量/151.2t ジェネレーター出力/

9400kW スラスター推力/187000kg

武装: 固定/頭部メガ粒子砲 腰部有線式連装ビーム砲×2

腰部メガ粒子砲×2

手持/なし





### 第三章●ピックアップ設定資料

#### ゴック

機体名称：ゴック(GOGG)

形式番号：MSM-03

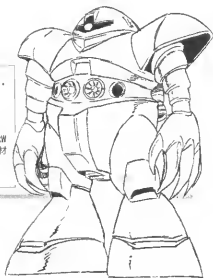
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース

スペック：頭頂高/18.3m 本体重量/82.4t ジェネレーター出力/1740kW

スラスター推力/121000kg 装甲材質/チタン・セラミック複合材

武装：固定/腰部メガ粒子砲×2 腹部熱雷発射管×2 フリーゼーヤード

手持/なし



#### ズゴック

機体名称：ズゴック(Z'GOKK)

形式番号：MSM-07

開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース

スペック：頭頂高/18.4m 本体重量/85.1t ジェネレーター出力/2480kW

スラスター推力/93000kg 装甲材質/チタン・セラミック複合材

武装：固定/頭部日連装ミサイル砲 腕部メガ粒子砲×2

手持/なし

#### ゾック

機体名称：ゾック(ZOCK)

形式番号：MSM-10

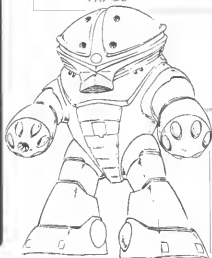
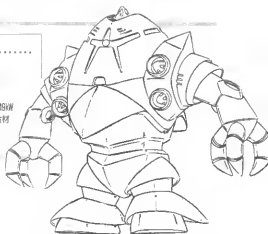
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース

スペック：頭頂高/23.9m 本体重量/167.8t ジェネレーター出力/3849kW

スラスター推力/253000kg 装甲材質/チタン・セラミック複合材

武装：固定/頭部メガ粒子砲 腕部メガ粒子砲×2

手持/なし



#### アッガイ

機体名称：アッガイ(ACGUY)

形式番号：MSM-04

開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース

スペック：頭頂高/19.2m 本体重量/91.6t ジェネレーター出力/1870kW

スラスター推力/103600kg 装甲材質/超硬スチール合金

武装：固定/頭部バルカン×4 腕部日連装ミサイルランチャー(右手のみメガ粒子砲内蔵)×2

手持/なし

## アッサム

機体名称: アッサム(AZZEM)

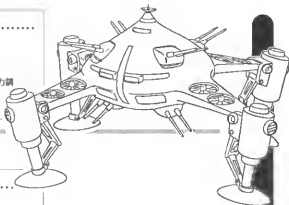
形式番号: MAX-03

開発基地: ジオン公国軍・グラナダ基地

スペック: 頭頂高/24.0m 本体重量/300t 装甲材質/超高張力鋼

武装: 固定/2連装メガ粒子砲2基

手持/なし



## ザクレロ

機体名称: ザクレロ(ZAKRELLO)

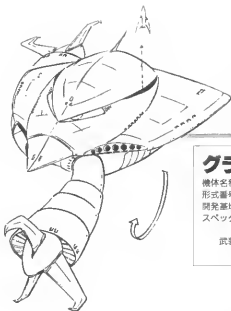
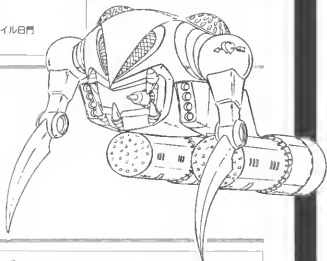
形式番号: MA-04X

開発基地: ジオン公国軍・カリフォルニアベース

スペック: 装甲材質/超高張力鋼

武装: 固定/ヒートナタ×2 拡散ビーム ミサイル8門

手持/なし



## クラブロ

機体名称: クラブロ(GRUBLO)

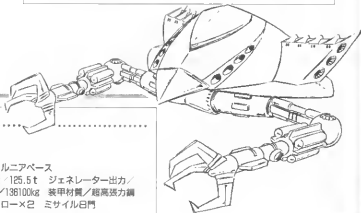
形式番号: MAM-07

開発基地: ジオン公国軍・サンディエゴ基地

スペック: 頭頂高 40.2m 本体重量 324.1t ジェネレーター出力/11000kW 装甲材質/超高張力鋼

武装: 固定/クロー×2 7連装水中ミサイル×2 対空ミサイル×2

手持/なし



## ビグロ

機体名称: ビグロ(BYGRO)

形式番号: MA-05

開発基地: ジオン公国軍・カリフォルニアベース

スペック: 頭頂高 45.5m 本体重量 125.5t ジェネレーター出力/17800kW スラスター推力/138100kg 装甲材質/超高張力鋼

武装: 固定/大型メガ粒子砲 クロー×2 ミサイル8門

手持/なし

### 第三章●ピックアップ設定資料

#### ビグ・サム

機体名称：ビグ・サム(BYG-ZAM)

形式番号：MA-0B

開発基地：ジオン公国軍・ア・バオア・クー

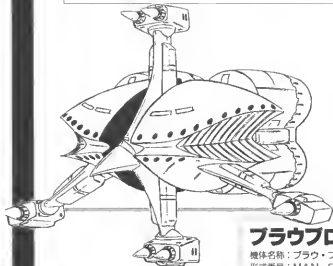
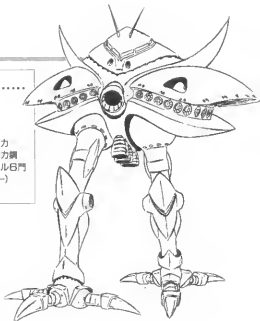
スペック：頭頂高/59.8m 本体重量/1021.2t ジェネレーター出力

140000kW スラスター推力/590000kg 装甲材質/超高張力鋼

武装：固定/大型メガ粒子砲1門 メガ粒子砲26門 対空ミサイル6門

対ビーム用電磁波膜(1フィールド・ジェネレーター)

手持 なし



#### ブラウプロ

機体名称：ブラウ・プロ(BRAWBRO)

形式番号：MAN-03

開発基地：ジオン公国軍・グラナダ基地

スペック：頭頂高/60.2m 本体重量/1735.3t ジェネレーター出力

74000kW スラスター推力/1760000kg 装甲材質/超高張力鋼

武装：固定/有線誘導メガ粒子砲4門

手持/なし

#### エルメス

機体名称：エルメス(ELMETH)

形式番号：MAN-0B

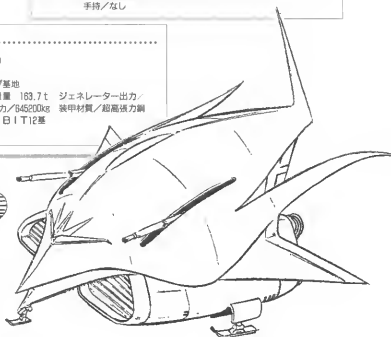
開発基地：ジオン公国軍・グラナダ基地

スペック：頭頂高/65.4m 本体重量/163.7t ジェネレーター出力/

14200kW スラスター推力/845200kg 装甲材質/超高張力鋼

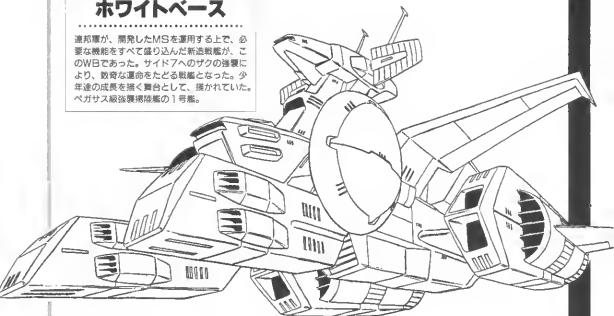
武装：固定/メガ粒子砲2門 B I T12基

手持/なし



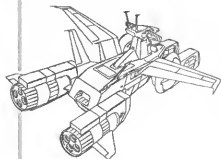
## ホワイトベース

連邦軍が、開発したMSを運用する上で、必要な機能をすべて盛り込んだ新造戦艦が、このW日であった。サイド7へのサクの進襲により、数奇な運命をたどる戦艦となった。少年達の成長を語る舞台として、描かれていた。ベガス級強襲揚陸艦の1号艦。



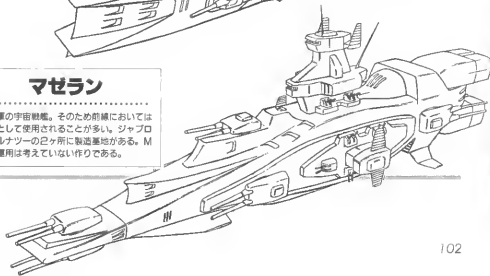
## サラミス

連邦軍の主力となった巡洋艦。艦首の下方に大気圏突入カプセルを装備。若干旧式なため、魅力的にジオンの戦艦より劣るが、質より量で勝負をしていた。



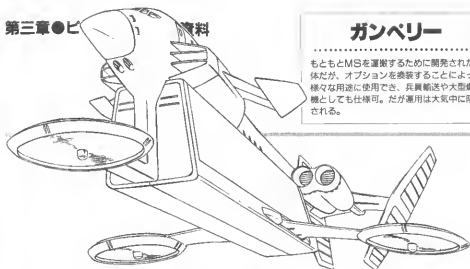
## マゼラン

連邦軍の宇宙戦艦。そのため前線においては旗艦として使用されることが多い。ジャブローとルナツーの2ヶ所に製造基地がある。MSの運用は考えていない作りである。



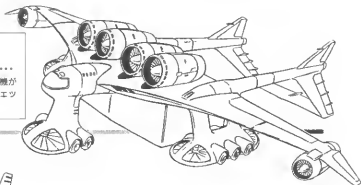
## ガンペリー

もともとMSを運搬するために開発された機体だが、オプションを換装することによって、様々な用途に使用でき、兵員輸送や大型爆撃機としても仕様可。だが運用は大気中に限定される。



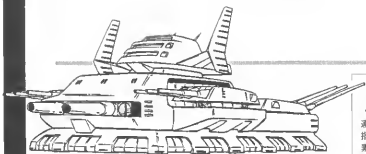
## ミデア

連邦軍の地上補給の要はこのミデア輸送機が負っていた。5基のローターと6基のジェットエンジン、機銃を装備。



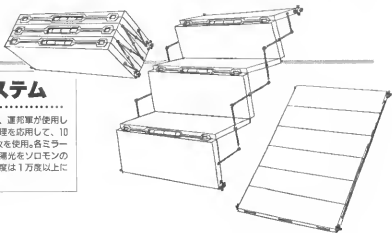
## ビッグ・トレー

連邦軍の移動要塞。将官たちが戦場において指揮をとるために使用する。地上戦艦的な要素があり、ドラゴン・フライのような小型機を搭載させられる。

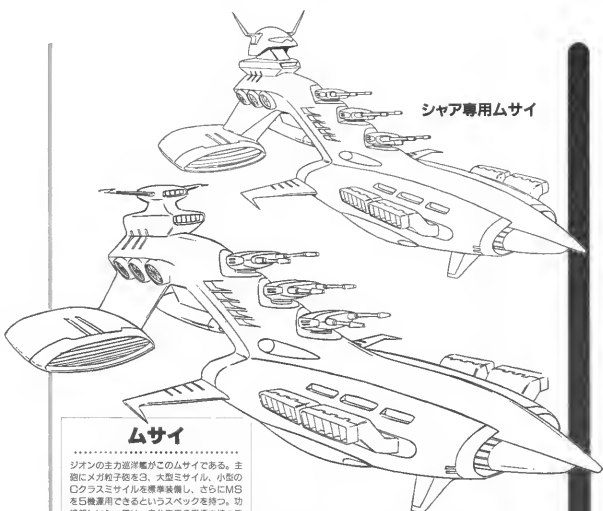


## ソーラシステム

対ソロモン攻略戦において、連邦軍が使用した対要塞兵器。凹面鏡の原理を応用して、10m×20mのミラーを400万枚を使用。各ミラーをパーニアで制御して、太陽光をソロモンの一点に集光し、焦点での温度は1万度以上に熱レートを融解した。



シャア専用ムサイ

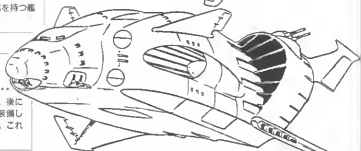


## ムサイ

.....  
ジオンの主力巡洋艦がこのムサイである。主砲にメガ粒子砲を3、大型ミサイル、小型の□クラスミサイルを標準装備し、さらにMSを5機運用できるというスペックを持つ。功績著しいシャアは、自分専用の艦機を持つ権を与えられていた。

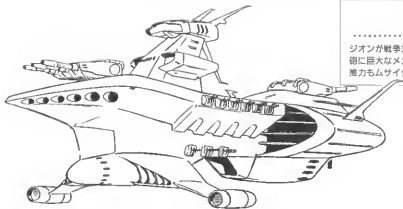
## サンジバル

.....  
12話の段階では試作実験機であったが、後に実用化された。試作段階では投光機を装備していたが、量産機はメガ粒子砲を装備。これによって戦力が飛躍的に上がった。



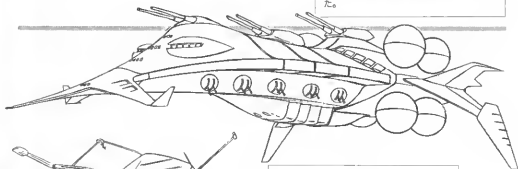
## チベ

.....  
ジオンが戦争末期になって量産した戦艦。主砲に巨大なメガ粒子砲を備えているのが特徴。推力もムサイタイプより高く高機動。



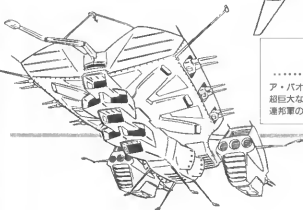
## クワジン

ジオン最大級の戦艦。高級将官が使用する。  
デギン、キシリアもこのタイプに乗艦してい  
た。



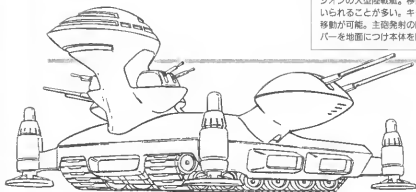
## ドロス

ア・バオア・クーにて戦力の中心だった艦。  
超巨大な空母である。その戦力は絶大だが、  
連邦軍の猛攻の前に沈んだ。



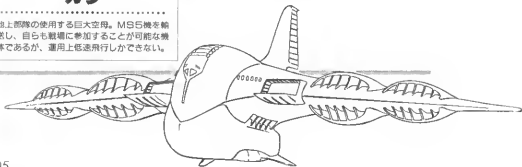
## ダフテ

ジオンの大型陸戦艇。移動司令基地として用  
いられることが多い。キャタピラにより高速  
移動が可能。主砲発射の際は四方の安定ダン  
パーを地面につけて本体を固定する。



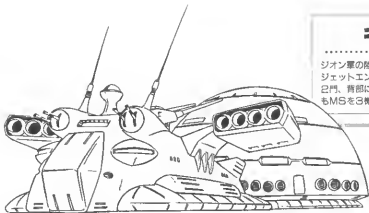
## ガウ

地上部隊の使用する巨大空母。MS5機を輸  
送し、自らも戦場に参加することが可能な機  
体であるが、運用上低速飛行しかできない。



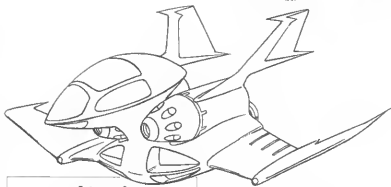
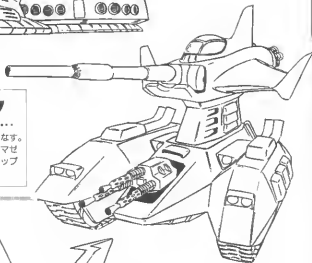
## ギャロップ

ジオン軍の陸戦艦。ホバークラフトで浮上し、ジェットエンジンで進む。前部に二連装機銃2門、背部に二連装砲塔1門を装備。前部にもMSを3機収容できる格納庫を持つ。



## マゼラ・アタック

ジオン軍の制式戦車。地上部隊の中核をなす。上層砲塔(マゼラトップ)に主砲、本体部(マゼラベース)は三連装機銃を装備。マゼラトップは分離し空中砲台として使用できる。

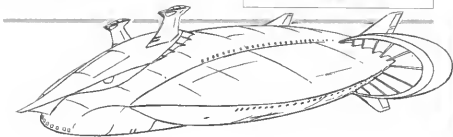


## ドップ

ジオン軍の小型戦闘機。ミノフスキー粒子下での戦闘に視界を広くするための設計がなされ、コックピットが張り出し、風防が広いのが特徴。日通ミサイルランチャーを左右に一基ずつ搭載し、バルカン砲も装備。

## マッド・アングラー

ジオン軍が地球で開発した新型巨大潜水空母。触角のように突き出した二つ司令塔が特徴。アスロック・サブロックで武装し、水陸両用のMS・MAなど多数搭載できる。





# サイド7の攻防



セイラが発射した敵兵、それは…

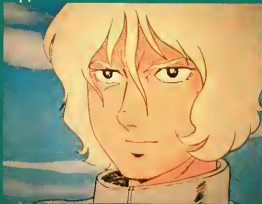


偵察隊のザクⅡ機が潜入したのが始まりだ

ガンダムのビームサーベルはザクを一刀両断するがコロニーの被害も莫大であった



シャアが見た民間人の少女は妹だった



シャアとセイラは、互いの面影がわかる程度の年齢までシンバ・ラルに育てられていた

戦場に咲いたロマンス。ガルマ・ザビは人間적인甘さがあり、シャアに付け込まれる



シャアの笑顔。ジオン・ダイクンの忘れ形見であるシャアには、野望があった

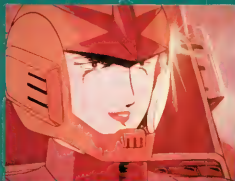


マサラン・マサラン。ロゼン海軍の勲命を受けWJに補給する彼女は、アムロたちの可能性を信じていた

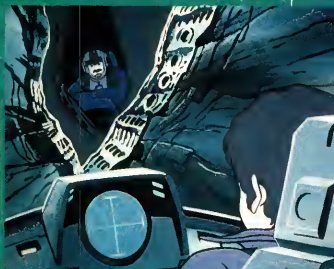


WBを脱走中のアムロは、ソドンの町で生身の敵ランバ・ラルと出会う

ガンダムのパイロットが町で会った少年と知りランバ・ラルは驚愕する



ラルの敵を討つべく自ら出撃するハモン。現場の将兵にも愛される女性であった



ハモンの執念の攻撃にアムロはピンチに。それを救ったのは量体の身で特攻をかけたリュウ・ホセイである。アムロは頼るべき人間をまたひとり失う

# 戦場の離別

マチルダとの記念写真。フレームに入ろうと  
傾くアムロの心情がよくわかるひとこま



形見となった写真は、常にアムロのファ  
イルに貼られている



黒い三連星の猛攻に苦戦するアムロ。そ  
の危機にミデア輸送機が割って入る



マチルダの死。それを機にアム  
ロは少年から青年に成長した

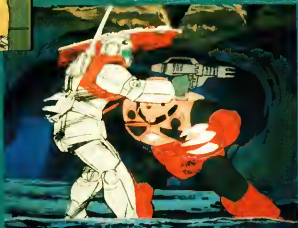


生きる為にスパイ行為をするミハ  
ルは、カイに慕情を寄せるが…



ミハルの死は、軟弱者だったカイに男の自覚を植え付けた

敵が来た！ ジャブローに侵入した赤いMSを見た誰もが、シャアの復活を確信する



戦場の兄妹。互いに兄キャスバルと妹アルティシアと確認しつつ、住む世界があまりにも違う運命であった



# 刹那の邂逅



サイド8での偶然の出会い。生身のシャアとアムロが出会った最初である

スレッガーとミライの仄かな恋。それは戦場で引き裂かれる



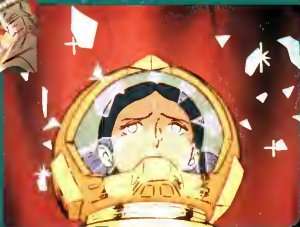
スレッガーの死。面撃を受けるミライを支える力量は、まだブライトにはなかった



互いの意識領域で敵味方の立場を  
越えて感応するアムロとララァ



たかシャアを庇ったララァは、  
アムロの手で命を失う



この世で最大の理解者であったララァを自  
の手で葬ったアムロの悲しみは、癒せない



## 名場面セレクト

血縁に関係ない権力の虜となった元妹。目的  
のためには、兄すらも手にかけるのだ



終局である。生身のアムロとシャ  
アが戦うのは 戦争ではない



最後のサビ歌の血脈、キシリアにシャアが牙を刺く



滑るべき場所それは、仲間の手の手…  
「まだ、僕には帰れる場所があるんだ…」

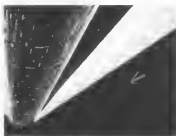
OPラストカットは最終シーンを表  
現していた。仲間を広げる手、それ  
は富野作品の重要なモチーフである



## 第四章●これが宇宙世紀だ

# 一年戦争 激動の記録

—UC0001~0080—



## ガンダム年表の変遷

機動戦士ガンダムの資料には、スペック一覧と年表がまことに多い。リアルアニメ、それも軍事関連用語が続出する作品の宿命であろう。

用語やメカに関しては、近刊のvol.2「大事典編」を参照してもらうとして、今回は物語を時間軸で追う「年表」を徹底的に解説してみよう。

8月発売のLDを見てもらえばわかるように、機動戦士ガンダムはUC0079に勃発した「一年戦争」の末期、9月から12月までの物語である。ジオン公国が地球連邦に独立戦争を挑んで来たのは、この年の1月であり、初期の一カ月で人類の半数が死亡しているという未曾有の戦争なのだ。

両軍が膠着状態に陥り、8ヶ月あまりが過ぎたある日……そこからストーリーはスタートする。

つまり、ガンダムの物語の中では、この戦争の最初からの状況を体験しているキャラクターが日常生活からいきなり極限状態に置かれるのだ。彼らにとって物語は過去から継続しているのである。

物語の舞台となる宇宙都市にしても、人類が移住を開始してから半世紀が過ぎた日常生活と言える。ガンダムに関係する年表の数は多いが、ま

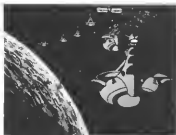
ず「機動戦士ガンダム」放映に至るまでの年表が必要となる。ガンダムは、初期の準備段階では、「ガンボーイ」という物語であった。放映準備に入ってから「ガンボイ」として打ち合わせが行われ、物語の骨子はこの時に完成しているのだ。

人類が増え過ぎた人口を宇宙に移住させるようになった経緯から、ジオン公国が独立戦争を始めた理由の説明、そして戦争はどのように行われたかの解説が不可欠となる。

ここで注意してもらいたいのは、現実の時間経過とともに、年表の記載事項も増えて行くという事実だ。同じ宇宙世紀に起きた事件を題材にした作品が発表されれば、当然ながら過去の知られざる歴史も生まれるのだからこれはしかたがない。

だからといって、ガンダムの基本軸の年表は、詳細追加や時期の変更があるものの大枠では変化していない。多くの人は、ガンダム関係の資料年表が後に作られた物と誤解しているようだが、これは企画段階から存在していたのだ。

「一週間戦争」「ルウム戦役」「コロニー落とし」「南極条約」etc劇中で呪文のように飛び交う言葉に幻惑されてはならない。それは言葉だけの物ではなく、登場人物にとっては現実の過去なのである。



視聴者としても、その歴史を仮想体験したいところだが、これは本編には描かれていないのだから欲求不満になるのは当然かもしれない。

放映中の初期には、「あくまでも過去にそういう事があったとだけ認識してもらえばそれでいいのです」と主張していた富野監督もさすがに、多くのファンの要望があり過去の情報を解禁していく過程がある。

別に秘密でも何でもなくて、いわゆる枕詞として使われていた用語も、雑誌記事になると反響を呼び、ファンが熱狂した。

かくして、企画段階に説明用として書かれていた宇宙世紀の歴史、一年戦争の実態が少しずつ表に出て来たのである。

企画段階から、これだけの表面に出て来ない設定が作られており、それが物語の屋台骨を支えていたのはガンダムの特徴であろう。

これを誤解して、裏設定は山程あるのに、本編には生かされないアニメが後年増えるのだが、ガンダムは20年経った今も輝いている。

設定は、あくまでも物語を動かしていく裏方という基本方針がしっかりしていないくは、これだけの支持は得られないのである。

本書では、機動戦士ガンダムの初期設定で作ら

れた年表と、最新版の年表を同時掲載する事にしてみた。設定段階の年表では、放映時に日時こそ違っているが、基本になるものは変化していない事が理解できるはずである。

この初期年表は、「ガンボイ」の頃にはその骨組が完成していたという筋金入りのものののだ。

なお新年表に関しては、サンライズオフィシャル資料を優先し、過去に発表したアニメック解説と食い違いのあるものを極力修正した。もともとアニメックで作った部分は、そのままいいのだが、技術開発に関しては多少解釈の違いが出たります。まあそれはそれでかまわないと思う。なぜなら、ガンダム解説の多くが、ガンダムが好きで好きでたまらないファンの言葉を代弁して製作された物なのである。年表にしても、各社それぞれの編集方針に従い「私の説はこうなのじゃ」と主張し合った結果、自然淘汰で生き残った説だけが今も使われているのだ。

製作サイドからの一方的な情報提供ではなく、ファンが設定を作ったという類い稀なる作品「機動戦士ガンダム」の歴史が濃縮されたものがこの年表だと考えてもらってかまわないと思うし、この空白を埋めて行くのもやはりファンなのではないだろうか？



#### 元祖一年戦争年表

これは機動戦士ガンダム放映前の企画段階で考えられていた年表です。実際の歴史ではありませんが、物語の流れはこの年表に基づいて製作されました。

年月日の変更や、意味の違った物に注釈を入れてみました。

#### 宇宙世紀

——宇宙移民開始をもって、Universal Century 0001年とする——

**U.C.0001** 地球総人口90億

**U.C.0040** 総人口の40% (約50億) が移民  
(エレスムの発生。地球は生命の素、聖地だとする考え)

**U.C.0041** ルナツー成立

**U.C.0045** ジオン・ズムがコントリズムを唱える。各サイドの国家主義。ここにエレスム+サイドズム(サイド国家主義)がドッキングする

**U.C.0050** 総人口110億。うち90億が移民

**U.C.0052** ジオン・ズム、サイド3に渡り、コントリズムの実践を開始

**U.C.0062** ジオン公国独立宣言  
連邦との対立。ズム、特殊鉱獲得の暗躍をはじめめる。連邦の動揺

**U.C.0068** ジオン・ズムの死亡  
連邦の政治的攻勢

**U.C.0069** デギン・ザビ主権確立  
開戦への暗躍

**U.C.0075** モビルスーツ・ザクの開発に成功



### U.C.0078 ジオンの進攻

3日戦争・ルウム戦役によって、人口の50%が減少した

→ジオンの進攻/ジオン・ズムの10回忌を以て発進

→3日戦争/サイド1、サイド2、サイド4の、約40のコロニーを、三日間で撃破し、30億もの人類を死に至らしめた

40ほどのコロニーを、地球に激突させる戦法がとられ、B・C・兵器と核兵器が多用された

→ルウム戦役/サイド5(ルウム)で連邦とジオンの激突が行われ、この名称がつけられた

ザクの威力!

サイド2、サイド5のコロニーはほとんど地球に激突し、35億の人類が死亡した。核兵器、B・C・兵器が多用される

→ジオンの最後通告

しかし連邦は、ジオンの捕虜となったレビル将軍の救出に成功し、“ジオンに兵なし”の言に力を得て、最後通告を拒否する

→ゲリラ戦の時代に入る

### U.C.0078.12.31 南極条約締結

B・C・兵器と核兵器の使用禁止条約



## 【放映前からの確定事項】

### 【宇宙世紀】

不思議な事に、宇宙世紀は定着したのだが、「Universal Century」つまり「UC」年はあまり定着していない。

サンライズとしては、UCを定着させたいそうなのでみんなで協力しよう。

（それなのに本のタイトルに宇宙世紀を使う人もいるんだから困ったちゃんだ）

### 0040

総人口の40%（約50億）が移民

（エレスムの発生。地球は生命の素、聖地だとする考え）

※50億の人が宇宙に暮らすようになると、自然発生的に、人類発祥の地である地球を聖地と考えるものだが、ここには地球を一度自然に返し、人類は宇宙に住むべきだという思想と、一部特権階級のみが地球に残るのは不法であるという考えが混じっていた。

### 0045

ジオン・ズムがコントリズムを唱える。各サイドの国家主義。ここにエレスム+サイドズム+サイド国家主義（がドッキングする）

※ジオン公国が正義のより所とした思想であるがジオン・ズム・タイクンが提唱していた思想とは異なっている。

### 0052

ジオン・ズム、サイド3に渡り、コントリズムの実践を開始

※宇宙の民は地球連邦に首根っこを押さえられていたばかりではないという政治を実践しようである。事実、連邦はその強大な力を楯にしてスペースコロニーを事実上の植民地のよう

### 0062

ジオン公国独立宣言  
連邦との対立。ズム、特殊鉱獲得の暗躍をはじめ。連邦の動揺

※独立宣言をした以上、連邦とは対立する。その優れた政治手腕で中立区域、または連邦と利害の一致しない政権と裏で手を組み、独自の通商ルートすら確保していたようである。





0068

ジオン・ズムの死

連邦の政治的攻勢

※ジオン・ズム・ダイクンの死亡については諸説あるが、よくある話として片付けてかまわないと思う。当然政権交代にまつわるゴタゴタはそれなりのドラマを生む上場となる。

0069

デギン・ザビ主権確立

開戦への躊躇

0075

モビルスーツ・ザクの開発に成功

0078

ジオンの進攻

3日戦争・ルウム戦役によって、

人口の50%が減少した

※ジオンのMS極秘開発による一方的奇襲で戦争が始まり、人口の半数が死亡したという基本コンセプトはこの時に生まれている。

↓3日戦争/サイド1、サイド2、サイド4の、

約40のコロニーを、三日間で撃破し、30億もの人

類を死に至らしめた

40ほどのコロニーを、地球に激突させる戦法がとられ、B・C・兵器と核兵器が多用された

※両軍の移動時間を考慮し一週間と変更される。

『コロニー落とし』は、無数のコロニーが落下したイメージを持ってしまった人が多いのはこの設定のせいであろう。

↓ルウム戦役/サイド5(ルウム)で連邦とジオンの激突が行われ、この名称がつけられた。ザクの

威力↓

※基本的に大きな変更はない。

↓サイド2、サイド5のコロニーはほとんど地球に激突し、35億の人類が死亡した。

核兵器、B・C・兵器が多用される

※月面から5トンの岩石を耐熱カプセルに入れてマストライバーで地球に落下させるだけでひとつの街が消滅する威力となる。あの巨大なコロニーがそんなに落下したら地球は無事ではすまないだろう。という話が検討され、落下した物は一基だけとなった。

↓ジオンの最後通告

しかし連邦は、ジオンの捕虜となったレビル将



軍の救出に成功し、ジオンに兵なしの言に力を得て、最後通告を拒否する。

※詳細は不明ながらも、この戦争のキーワードとして最初から最後まで変化しない設定である。ガンダム冒頭のナレーションにあるように

「…戦争は膠着状態に入り八ヶ月あまりが過ぎた」時に物語は始まるのである。

だから登場人物にとって、この年表にあるジオン公国の突然の宣戦布告や、コロニー落とし、一週間戦争、ルウム戦役といった言葉は歴史そのもののなのである。

↓ゲリラ戦の時代に入る

0078・12・31

南極条約締結。B・C兵器と核兵器の使用禁止条約。

※詳細は本年表に記述するが、両軍の小競り合いが続いているだけだったのだ。







### オフィシャル宇宙世紀年表

この年表はまだ未完成である。今後も一年戦争に関係する事項が増えれば、それだけ年表の表記は増えるはずである。「第08MS小隊」が完結した時点で0079の後半にかなりの事項が追加される予定だ。

**U.C.0001** 宇宙移民の開始をもって宇宙世紀に移行。地球総人口90億突破

**U.C.0010** 木星エネルギー船団が再編され、木星開発事業団発足

**U.C.0016** 連邦政府、フロンティア開発移民移送局を設立

**U.C.0027** 初の月面恒久都市、フォン・ブラウン市完成

**U.C.0030** 連邦政府、フロンティア開発移民移送局を民営化  
宇宙引越し事業団発足

**U.C.0034** 連邦政府、引越し事業団を再編。NGOとして宇宙引越公社設立

**U.C.0035** サイド3建設開始

**U.C.0040** 総人口の約40% (約50億人) 宇宙への移民を完了

**U.C.0041** 小惑星ユノー移動工事開始

**U.C.0044** エレズムの定着

**U.C.0045** 小惑星ユノー (後のルナツー) 月軌道に定着  
サイド3にミノフスキー物理学会設立

**U.C.0046** ジオン・ダイクン「コントリズム」提唱

**U.C.0047** ミノフスキー・イヨネスコ型熱核融合炉の開発開始

**U.C.0050** 総人口110億に。うち90億が宇宙に移民



## オフィシャル宇宙世紀年表・2

- U.C.0051** 連邦政府、新規コロニー開発計画の凍結を発表
- U.C.0052** ジオン・ズム・ダイクン、サイド3に移住。コントリズムを提唱、実践
- U.C.0058** サイド3独立宣言。ジオン共和国樹立。国防隊発足
- U.C.0059** サイド3に対し、連邦政府による経済圧力。治安維持名目の宇宙軍設立
- U.C.0060** 連邦軍、80年代軍備増強計画発動(特に宇宙軍の統制)  
ルナツー軍事基地化
- U.C.0062** ジオン国防隊、国軍へ昇格
- U.C.0064** 連邦軍、軍備増強計画による新型艦を中心に観艦式挙行。以後恒例化
- U.C.0065** ミノフスキー学会、熱核融合炉内における特殊電磁波効果発見  
追試の結果は非公開
- U.C.0067** 連邦政府、コロニー自治権整備法案を棄却
- U.C.0068** ジオン・ズム・ダイクン死亡。次期首相にデギン・ソド・ザビ就任
- U.C.0069.08.15** ジオン公国宣言。デギン・ソド・ザビ公王に。ジオン派は退放  
10 公国軍、バブア級輸送艦の一番艦就役
- U.C.0070.03** 公国軍、ミノフスキー効果の公開検証実験に成功  
05 公国軍、メガ粒子砲を完成  
06 公国軍、チベ級重巡洋艦の一番艦就役  
09 連邦軍、70年代軍備増強計画によるサラミス、マゼラン級の新型宇宙艦艇就  
航  
12 サイドA建設のためルナツーを月の反対側の軌道へ移動
- U.C.0071** 公国軍、ミノフスキー粒子散布下における新兵器の開発に着手  
小型融合炉完成  
ギレン・ザビ、「優性人類生存説」を発表
- U.C.0072** ジオン公国、アステロイドベルトに小惑星基地アクシズを建設開始  
公国出身の科学者による亡命事件

## 第四章●これが宇宙世紀だ



### U.C.0073 公国軍、新型兵器一号機完成。モビルスーツ(MS)と呼称

U.C.0074.02 公国軍、ミノフスキー型核融合炉搭載の試作型MS-05をロールアウト  
04 公国軍、バプア級改装輸送艦の一番艦就役

U.C.0075.05 公国軍、MS-05量産決定  
07 公国軍、MS-05ザクⅠの実戦型ロールアウト  
11 公国軍、教導機動大隊編成

U.C.0076.03 公国軍、グワジン級戦艦の一番艦就役  
04 公国軍、MSの生産拠点を拡大  
05 公国軍、極秘裏に教導機動大隊による演習開始  
06 公国軍、ザンジバル級機動巡洋艦の一番艦就役  
12 公国軍、地球進攻作戦を前提とした同地戦用MSの開発に着手

U.C.0077.08 公国軍、MS-06Aザクの試作機ロールアウト  
09 公国軍、MS-06Cザクの先行量産開始

U.C.0078.01 公国軍、MS-06Cザクの量産開始  
02 コロニー間の輸送事故頻発  
03 連邦軍、極秘裏にMSの開発開始。複数のプロジェクトが同時に進行するR  
X計画発動  
04 連邦軍、各コロニーの駐留部隊を増強  
05 サイド7(ノア)第1号コロニー、未完成ながら移民開始  
06 公国軍、チベ級ティベ型重巡洋艦の開発開始  
10 ジオン公国、国家総動員令発令。国軍を分割し、宇宙攻撃軍および突撃機動  
軍設立  
11 連邦軍、鋭艦式を強行  
12 公国軍、ドロス級超大型宇宙空母を極秘裏に開発開始

U.C.0079.01.03 一年戦争勃発。(1/3~1/10までの間を一週間戦争と呼ぶ)  
ジオン公国、地球連邦政府に対し独立を宣言。宣戦布告と同時にサイド1、  
2、4へ奇襲敢行  
NBC兵器の無差別投入。コロニーの落下により大規模な気象変動を惹起  
01.11 サイド6中立宣言  
01.15 ルウム戦役。連邦軍宇宙艦隊敗北。公国軍は艦隊司令のレビル將軍を捕縛



## オフィシャル宇宙世紀年表・3

- U.C.0079.01.31** 南極条約締結
- 02.01** 公国軍、地球攻撃軍設立を公表
  - 02.07** 公国軍、地球侵攻作戦開始
  - 03.01** 公国軍、第一次降下作戦展開
  - 03.04** 公国軍、資源探掘部隊降下
  - 03.11** 公国軍、第二次降下作戦展開
  - 03.13** 公国軍、連邦軍のキャリフォルニアベースを制圧
  - 03.18** 公国軍、第三次降下作戦展開
  - 04.01** 連邦軍、「V作戦」及び「ビンソン計画」を発動
  - 04.04** 公国軍、補充部隊降下。占領地域の施設を使って戦力の増強を開始
  - 05** 宇宙要塞ソロモン完成
  - 06** 公国軍、宇宙要塞ア・バオア・クー、ソロモン、グラナダを結んだ本土防衛ライン完成  
フラナガン機関設立
  - 07** 連邦軍、エネルギーCAP技術確立によるビーム兵器の小型化に成功  
ホワイトベース進宙。ガンダム一号機ロールアウト  
RX-78の完成をもって、RX-79計画実行。先行量産型生産開始
  - 08** 連邦軍、サイド7においてガンダムの最終テスト開始  
オーガスタ基地においてNT1開発開始
  - 09.18** 公国軍の特務部隊がサイド7の1パンチを強襲  
ホワイトベース出航
  - 09.20** ホワイトベース、ルナツーに入港
  - 09.22** ホワイトベース、ルナツーを出港
  - 09.23** RX-78、初の大気圏突入戦闘を経験  
ホワイトベース、ガルマ・ザビの隊と戦闘
  - 10** 連邦軍、MSの本格的量産開始  
公国軍、対抗策として新型機、試作機を実戦配備  
フラナガン機関によるサイコ・コミュニケーターシステム試作機完成
  - 10.04** ニューヨーク市において地球攻撃軍司令官ガルマ・ザビ大佐戦死
  - 10.06** ガルマ・ザビの国葬。ギレン・ザビ、全地球規模の演説を展開
  - 10.10** ホワイトベース、アジア大陸へ到着。中央アジアに進路を取る
  - 10.11** レビル将軍、オデッサ作戦のために部隊集結を急ぐ
  - 11.02** ホワイト・ベース、レビル将軍よりのカスピ海を渡れとの指示が守れず中央アジアを進撃中

## 第四章●これが宇宙世紀だ



- U.C.0079.11.05** ホワイト・ベース、ランバ・ラル隊撃退
- 11.07** 連邦軍、オデッサ作戦を開始
- 11.09** オデッサ作戦終了。欧州からアジア地域における公国軍勢力は衰退を始める
- 11.10** 連邦軍、鶴艦式挙行。MSの存在は公表せず
- 11.21** 連邦ベルファスト基地海底より襲撃される
- 11.30** 公国軍、ジャブロー降下作戦を展開。ジャブロー基地を攻撃するも失敗
- 12.02** ジャブローより宇宙艦隊発進
- 12.05** 連邦軍、アフリカ、北米において公国軍掃討作戦を展開
- 12.09** 公国軍の特務部隊、北極基地を襲撃
- 12.14** 連邦軍、星一号作戦発動
- 12.20** 連邦軍第三艦隊、ルナツーを出港
- 12.22** 連邦軍第二艦隊、ルナツーを出港
- 12.24** ソロモン攻略戦展開。公国軍敗退。宇宙攻撃軍司令トズル・ザビ中将戦死
- 12.25** 連邦軍ソロモン駐留。異常事故続発
- 12.29** 星一号作戦最終局面
- 12.30** 公国軍、ソーラ・レイ作戦発動。デギン公王死亡。連邦軍、レビル艦隊を喪失
- 12.31** ア・バオア・クー攻略開始
- ギレン・ザビ総帥死亡。キシリア・ザビ戦死。ア・バオア・クー陥落
- エギーユ・デラーズ、配下の艦隊と共に戦線を離脱

**U.C.0080.01.01** 地球連邦とジオン共和国臨時政府の間で終戦協定締結。一年戦争終結



## 宇宙世紀年表詳細

U.C.0001

宇宙移民の開始をもって宇宙世紀に移行。地球総人口90億突破

これは島3号タイプのコロニーが数基完成し、大々的な移民を開始した年であるから、西暦に換算すると西暦215012200年くらい?の未来になると思われる。

0010

木星エネルギー船団が再編され、木星開発事業団発足

コロニー建設にしろ、宇宙移民にしろ核融合炉の必要性が非常に高くなった。非常にリスクの高い木星への航行には護送船団方式がなく、ある程度官僚的な采配が行われるようになったのである。

0016

連邦政府、フロンティア開発移民移送局を設立

連邦政府が宇宙移民を積極的に奨める必要から設立されたものである。地球には90億人もの人類

を養う力はなく、人口爆発による環境悪化は限界に達していたのである。

移民開拓団募集の「海外雄飛」に匹敵するような地球規模の大キャンペーンが展開された事になっており、「夢のコロニー移住」を信じた多数の地球人が宇宙に飛び出して行く。

0027

初の月面恒久都市、フォン・ブラウン市完成

フォン・ブラウン市については生理的に納得できない部分がある。宇宙基地からの発展で実験施設が多数あるのは理解するのだが、恒久都市にした場合、そこで子供を生み育てる事ができるのだろうかという疑問が残るからである。

宇宙開発熱が絶頂期なので、いちいち月面基地に出掛けるのすら惜しんだエンジニアや軍事機密を秘匿したまま研究させたい上層部の意志が一致し、月面都市を誕生させたのだらう。

0030

連邦政府、フロンティア開発移民移送局を民営化。宇宙引越し事業団発足

身体ひとつで宇宙へ行って働けるのは若者に限られる。コロニー移住も本格化すると、愛着ある



家財道具をコロニーへ移送したい人々も増えてくる。特にヨーロッパ系の移民にとって美術品は財産というだけでなく文化なのだから、それなりのシステムが必要になった。手荷物制限による地球資産の散逸を監視していた連邦政府の仕事では、とても大衆の満足を得られないので、民営化に踏み切ったものであった。

### 0034

連邦政府、引越し事業団を再編。NGOとして宇宙引越公社設立

システムが出来上がれば、その利権を押さえるのが連邦の口口である。地球から運び出される荷物、コロニーからコロニーへ移動される荷物の全てを掌握すれば、連邦の支配権は確実なものになるのだ。

### 0035

サイド3建設開始

ラグランジェポイントの安定度には諸説あるが、コロニーの建設や安定、他コロニーへの移動を総合的に考えると大差はない。サイド3の開発が遅れた理由は、ひとえに地球が見えないという心理的なものである。

月の裏側という事で電波も地球から直接届かないが、中継基地を使えば、そう気になるタイムラグではない。

### 0040

総人口の約40%（約50億人）宇宙への移民を完了

宇宙移民、宇宙開発の絶頂期である。

宇宙開発は軌道に乗っていた。初期に建設された月面の鉱山都市はマスドライバーで鉱物資源を次々に宇宙空間に打ち出し、コロニーの建材を供給していた。

地球の軌道には太陽発電衛星が浮かび、マイクロウェーブ送電で大量の電力を供給し、エネルギー不足を補っている。ヒマラヤ山中に建設されたリニアカタバルトからは、シャトルが打ち出され、ラグランジェポイントに建造されたコロニーに移民を送り出していた。

宇宙植民計画は順調に進行し、コロニーの数も増え、総人口の四割にあたる約50億人が宇宙の民として生活を始めていたのである。コロニー自体も細部の改良が進み、初期のように開拓民という意識はなくなっていた。

コロニー生まれの働き盛りの世代が第一線で活躍する時代となっている。地球を聖地として宇宙

の民の発祥の地とする考え方が広まる。いわゆる地球を生命の源と考えるエレスムの発生である。

## 0041

### 小惑星ユノー移動工事開始

小惑星帯で金属鉱床を多量に含む隕石が発見されるようになり、コロニー建設の材料として採取されるようになった。熱核エンジンの発達により、直系何10kmもの小惑星を移動できるようになり、小惑星ユノーの移動工事が始められた。

## 0044

### エレスムの定着

すでに総人口の半数が宇宙に住むようになっていた。宇宙に浮かぶ閉鎖空間に住む人々は、母なる大地の大切さを認識していた。そんな中から、地球を聖地と考え、命の発生の素とする考えが広まりエレスム（地球は聖地として保護し、人類は宇宙に住むべきだという思想）が発生したのだ。

## 0045

### 小惑星ユノー（後のルナツー）月軌道に定着

### サイド3にミノフスキー物理学会設立

小惑星ユノーの搬送が終了し、月の軌道に固定

され、コロニー建設の資材採掘が開始される。これが後に軍事基地のルナツーとして利用されていくのだ。コロニー建設に使われる小惑星も、だんだん大型の物が移送されるようになり、その技術も確立していた。

サイド3のミノフスキー物理学会は、どちらかというと後年作られた設定のひとつ。逆算すればこの時期に、密閉コロニーを作る為の核融合炉の開発が始まらなければならない。

## 0046

### ジョン・ダイクン「コントリズム」提唱

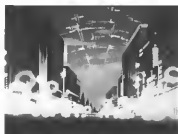
地球連邦の移民政策も、地球保護というよりは特権階級にある人間以外を宇宙に移民させる方向に歪み始めていた。その思いがりが、コロニーを植民地のように扱い始めていた。有能な政治家であるジョン・ダイクンはコントリズム（サイド国家主義）を提唱し、連邦の政策を批判し始めた。この思想は宇宙移民に受け入れられ、彼らの中でエレスムとコントリズムがドッキングした考え方が生まれ始めていた。

## 0047

### ミノフスキー・イヨネスコ型熱核融合炉の開発開始







始

ほとんどインサイドストーリー(笑)

ミノフスキー博士の思想はわからないでもないし、地球の学園闘争はいかにもという話である。が、核融合炉の研究者であるミノフスキー博士が、初期のMSを設計しちゃうのはマッド過ぎるのではないかと思う。

0050

総人口110億に。うち90億が宇宙に移民

すでに人類の総人口1110億人のうち90億人が宇宙移民となりコロニーや月面で暮らしていた。

スペースノイド(宇宙に住む人々)の地球連邦に対する不満が高まり、各地で集会が開かれたが、連邦のコロニー駐在部隊による弾圧も強まっていた。表面上は規定数のコロニーが完成し、各サイドには自治権がある建前ではあったが、連邦の管理下に置かれていた。宇宙移民に不満が渦巻くようになる。

機動戦士ガンダム放映の時には使われなかった言葉ではあるが、歴史的にはわかりやすいので、宇宙移民者を以後はスペースノイドと呼称する。宇宙移民が開始され半世紀も過ぎると、スペースノイドと地球在住者の間に確執が生まれて来た。

少なからず危険を覚悟で宇宙に飛び出したフロンティアであるスペースノイドは、地球を追い出された者にされてしまう。つまり選ばれた者が地球に残った支配者という図式だ。

たしかにコロニーに自治権はあるように見えた。しかし連邦の内政干渉は激しくまるで属国のような扱いである。地球連邦は、コロニーを対等には扱わず、正常な交易もさせなかった。コロニーで生産される物資の多くは、税金という形で搾取されているようなものである。

ジオン公国が、いきなり地球連邦に戦いを挑んで来たわけではなく、このようなスペースノイドの不満を、武力で封じ込めていた連邦にも責任があるのだ。1年戦争の種はこの時代からあったのである。

0051

連邦政府、新規コロニー開発計画の凍結を発表

本来ならば、もっと多数の人類を宇宙に送り出さなければ、地球は再生しない。

しかし、地球に残った人間は政治的、商業的、身分的に宇宙へ行くのを拒否できるような人間ばかりになっていた。大衆というには連邦の中核に何らかのコネを持つ者ばかりとなっていたのである。



る。地球を出て行く者がいなければ、新規コロニーを建造する意味はない。地球に残された特権階級の20億人は、コロニーから必要物資を得るならば十分に生活できるのであるから、無理に開発を進める必要はなかったのである。

## 00562

ジョン・スム・ダイクン、サイド3に移住。コントリズムを実践

コントリズムの実践の為にジョン・ダイクンがサイド3に渡った。この頃からスペースノイドによってコントリズムはジオニズムと呼ばれるようになる。地球連邦は月の裏側に位置し、補給や通信面で不利な場所にあるサイド3のこうした動きにあまり注意を払わなかった。地球の資源なしにサイドが独立できるわけがないという油断があったものと思われる。ダイクンは有能な思想家であると同時に指導者となりうる人物だった。地球を聖地にし、人類は宇宙に住むべきであるというエレズムとサイド国家主義を結びつけた方針は極めて明快だった事から多くのスペースノイドは彼の考えを支持するようになる。

各サイドを国家とみなす、サイド国家主義は、スペースノイドにとって望むべき形態であったが、

連邦の援助なしに実践できるのかという疑問があった。優れた政治手腕を持つダイクンは、サイド3が独立国家として存続できる準備を進めたのである。以後、ダイクンの思想はサイドズムとも呼ばれる。

## 00568

サイド3独立宣言。

ジオン共和国樹立。国防隊発足

ジョン・ダイクンが地球連邦に独立を宣言し、ジオン共和国を樹立したことで連邦と外交的に対立する。地球からの補給を絶たれたサイド3は、独自の外交を開始していた。鉱物資源確保に独力で小惑星を移動させ、地球上のレアメタルを確保するためにザビ家が暗躍したりもしたようである。さらにジョン・ダイクンは各サイドを回り、自分と思想を同じくする者を積極的にサイド3に移住させた。こうして、ジオン共和国には優秀な人材が集結するようになった。人口増加によりコロニーの増設を迫られたサイド3は密閉コロニーに改造することで、通常コロニーの倍の人口を収容する方法をとったのである。これにより他のサイドでの独立運動は急激に低下した。地球連邦は第二のサイド3を出さないようにするため軍備を増強



する方針を決定した。その結果として政治的に軍派閥の発言力が強まりつつあった。

連邦軍は、当時としてもかなりの戦力があり、『臨検』名目で駐留されては困るので、サイド3はそれなりの軍事組織を必要としていた。

ジオンに、ある程度の戦力があれば、うかつに戦闘するわけにはいかず、なおかつ政治的な根回しが功を奏し、連邦は露骨な手段を取れなくなっていく。もともとダイクンは民主的な話し合いで解決できると考えていたので武力行使の意志はなかったのだ。

## 0056

サイド3に対し、連邦政府による経済圧力

大国が、独立国家を疲弊させる有効手段が経済圧力である。ダイクンはこれを予想しており中立区域、中立サイドをうまく利用してサイド3の存続を図った。

また物資不足については、独自の技術を開発し、連邦に頼らなくとも必要最低限度の物資を確保していた。

けっして楽な状態ではないが、サイド3に集まったスペースノイドは志しが高く、必要な技術を次々に開発していった。

## 0060

連邦軍、60年代軍備増強計画発動(特に宇宙軍の統制)ルナツー軍事基地化

地球連邦としては、これ以上サイド3に追従するコロニーを出すわけにはいかない。地球に残れた特権階級は、いつてみれば植民地であるコロニーからの搾取で生活しているのだ。各個のコロニーを制圧できる程度の武力では統制できないと考え、強面の連邦に変身していく必要があった。武力による示威行動も激しく、サイド3に近い月面演習等も行いジオン共和国に無言の圧力を加えている。

一方、地球連邦軍の軍備増強計画が発動され、小惑星ユノーは月の反対側に移動。ルナツーと呼ばれる重要拠点となる。ルナツーの中心部から探掘される特殊銅が、軍事的な価値を持ったからである。さらに対ジオン政策として、絶対制宙権を確保する必要から宇宙戦艦の大量建造も始められていた。

## 0060

ジオン国防隊、国軍へ昇格

ダイクンとしても、連邦と平和な話し合いが難しいと判断。いつ連邦の武力制圧が行われるかわ



からない現状から、軍備を拡張する必要が出て来た。国軍に昇格し、連邦への防備を固めなければならなくなったのだ。

## 0064

連邦軍、軍備増強計画による新型艦を中心に観艦式挙行。以後恒例化

連邦の示威行為はますますエスカレートしていく。戦争のない時代の観艦式は、年功序列で戦功もないまま將軍になった軍人にとつての見せ場でもある。何よりもスペースノイドに対して、かなりの威嚇行動になるので恒例化していくのは必然であった。

## 0065

ミノフスキー学会、熱核融合炉内における特殊電磁波効果発見。追試の結果は非公開

ジオン独自の宇宙技術は、連邦とは異なった進歩をしていく。ここで画期的なミノフスキー粒子効果が見いだされたものの、ジオンの切り札となる国家機密として研究が続けられて行く。

ジオン・ダイクンと、その片腕であったデギン・ザビに政策上の確執が目立ち始めていた。軍部を掌握するザビ家との権力闘争が表沙汰になった

のもこの頃である。ジオン・ダイクンの唱える「人の革新」を待てないデギン・ザビが力で民衆を抑えようと画策していたからだ。表面的には歩調を合わせているデギンの思惑を感じ取ったのは、ジオン・ダイクンの政治能力の片鱗をうかがわせるエピソードである。

## 0067

連邦政府、コロニー自治権整備法案を棄却

名目上のコロニーには自治権があるという姿勢すらかなぐり捨て、連邦はスペースノイドの支配をより強固にしようと画策する。

これによりジオン共和国は、独立国家ではなく連邦共同体からの反乱コロニーとして扱われる事になるのだ。

## 0068

ジオン・ズム・ダイクン死亡。

次期首相にデギン・ソド・ザビ就任

暗殺説がかなり濃厚である。ダイクンのように民主的な解決を望んでいた、やがてはつぶされたと判断したのか、それとも今ならば、支配権を持てると考えたのかは不明である。

ダイクン臨終シーンの映像をみる限り、どんな



解釈でも成り立つような気がする。

「…デギン、は、謀ったな…」

「は、わたしごときに」

よくある話である。

初期の解説ではジオン・ズム・ダイクン病死とされ、死因に関してザビ家による毒殺が取り沙汰されるが、報道管制によりもみ消されたが使われていた。

残されたダイクン派とザビ家の争いにより政治力が低下したサイド3に連邦の圧力が強まった。しかし、デギンは連邦の理不尽さを民衆に訴え、サイド3の掌握に動めた。

ザビ家の三男サスロ・ザビが事故死した後、ダイクンの子供二人は、粛正を逃れたジンバ・ラルに連れられサイド3から脱出、その後の消息は途絶している。

※ジンバ・ラルはダイクンの子供二人を、地球で育てている。マス家の養子として、戸籍も申し分のない形にされていたようだ。

アルテイシアは、セイラ・マス、キャスバルは、エドワ・マスと名乗っていた。キャスバルは思春期にマス家を飛び出し音信不通となっている。

0069.08.15

サイド3ジオン公国を宣言しデギン・ソド・ザビ公主に。旧ジオン派はコロニーより退放。

次期首相デギン・ソド・ザビのサイド3における主権確立

地球連邦の支配を打ち破りスペースノイドの為に作られた国家を標榜する必要がある、デギンはサイド3にジオンの名前を残した。

それとは裏腹に、ダイクンの思想を受け継ぐ者を次々に粛正していったようである。

もちろんダイクン派の強行派によるザビ家に対するテロ行為も盛んに行われたようであるが、正確な記録は何ひとつ残されていない。

ザビ家の独裁政権となつてから、サイド6のリンク政権と密約が交わされる。サイド6は経済・政治界の人間が多数住むことも連邦よりのコロニー群であるが、政治の暗黒部分を秘めておりジオンにとって重要な人間もいたからである。おそらく相互不可侵条約のようなものだったのだろう。さらにジオン公国では実用ミノフスキー核融合炉が完成していた。ミノフスキー粒子の実用化に伴い、秘密裡に軍事利用の検討も始められた。



0069・10

公国軍、バファ級輸送艦の一番艦就役

ザビ家の独裁体制が確立すると同時にジオン公国は一挙に軍事路線を突っ走ることになる。連邦軍の理不尽な迫害に憤る国民の士気は高く、ザビ家が亡きタイクンの遺志を継ぐためにと世論を操作したからである。

0070・03

公国軍、ミノフスキー効果の公開確証実験に成功

0070・06

公国軍、メガ粒子砲を完成

0070・06

公国軍、チベ級重巡洋艦の一番艦就役

0070・09

連邦軍、70年代軍備増強計画によるサラミス、マゼラン級の新型宇宙艦艇就航

0070・12

連邦軍サイド7建設のためルナツーを月の反対側の軌道へ移動

現用技術を使う核融合炉は完成していたものの、かなり大型で不安定な物であった。すでに連邦では、固定式の核融合炉を実用化し、月面でかろうじて採取できるヘリウム3では不足していたので

木星船団を定期運行させていた。

ミノフスキー融合炉の実用化に成功したジオン公国も第1次木星船団を出発させた。ヘリウム3が確保できれば、超小型核融合炉を搭載した戦艦の建造が可能になるのだ。それと平行するように、ミノフスキー粒子下での有視界戦闘を有利に展開できる兵器の開発もはじまったのである。年内には、メガ粒子砲の試作品が完成。

0071

公国軍、ミノフスキー粒子散布下における新兵器の開発に着手。小型融合炉完成。ギレン・ザビ、

「優性人類生存説」を発表

量産タイプの小型核融合炉が完成したジオンでは、宇宙戦艦よりも小型兵器に搭載できるようにしたのである。

0072

ジオン公国、アステロイドベルトに小惑星基地アークスを建設開始。

公国出身の科学者、連邦に亡命

ジオン公国では、木星船団計画と平行して小惑星移設計画が進んでいた。すでに資源惑星として、ソロモンとア・バオア・クーはサイド3建設資材



として利用されている。

また公国のサビ家独裁化を危惧し、ミノフスキー物理学の権威が、連邦に亡命。連邦側は遅れていた分野の開発に着手する。連邦軍のミノフスキー粒子技術は飛躍的に進歩し、宇宙戦艦用核融合炉、メガ粒子砲の開発が急ピッチで進められた。当然ミノフスキー粒子による電波攪乱戦術も伝えられたのだが、ジオンよりも優れた光学装置を有する連邦軍は有視界戦闘でも不利な戦いにならないと判断した。開戦後に建造された連邦軍戦艦にも、ECCM・ECCM装置が搭載されているのは誘導兵器がまだ使えるという発想からだ。ミノフスキー散布装置があれば、電波攪乱装置は基本的には必要ないのである。

0073

公国軍、新型兵器一号機完成。モビルスーツと呼称

地球連邦には影も形もない新兵器である。重要機密ではあるが、情報としては連邦も知っていたようだ。ただ、その運用方法がわからず、不経済な大型建設機械として認識されていたようである。

0074.02

公国軍、ミノフスキー型核融合炉搭載の試作型MS-05をロールアウト。

0074.04

公国軍、バファ級改裝輸送艦の一番艦就役

ジオン公国の第1次木星船団が帰還した。機材トラブルで難破した船もあったが、多数の船での乗務員による精神錯乱が報告されている。しかし、ヘリウム3の安定供給を必要とするジオン公国は、船団数の増加を行い順次木星船団を発進させる計画を立てたのだ。これにより、多数のモビルスーツ用核融合炉が建造される事になる。

0075.07

公国軍、MS-05量産決定

0075.08

公国軍、MS-05ザクの実戦型ロールアウト

0075.11

公国軍、教導機動大隊編成

ジオン公国モビルスーツの第一次量産タイプが開発が終了し、工場のラインが稼働した。ザク(MS-05)と名付けられたモビルスーツは、量産開始と同時に特殊部隊へ配属され運用テストが開始された。人間の手と同じ動きができるマニピュレー



ターが武器を持ち替えることにより戦闘はもとより、土木作業までこなした成果に軍部は満足した。だが有視界戦闘用モノアイの精度と機体のパワー不足も指摘され、生産ラインを動かしながらの設計変更も進められた。ジオン公国には時間がなく、走りながら考えるしか出来ない状況であったが、実際に宇宙空間で使用されたザクは、細部の改良が現場でなされるくらい汎用性が高い兵器であった。

0076.03

公国軍、グワジン級戦艦の一番艦就役

0076.04

公国軍、MSの生産拠点を拡大

0076.05

公国軍、極秘裏に教導機動大隊による演習開始

0076.06

公国軍、ザンジバル級機動巡洋艦の一番艦就航

0076.12

公国軍、地球侵攻作戦を前提とした局地戦用MSの開発に着手

着々と宇宙機動部隊の編成を進めるジオン公国であったが、小さなミスもあった。地球連邦軍は小惑星移動工事の事故で破損したザクを偶然回収

する。ザクのデータを手にしたものの、近距離攻撃にしか使えそうもない兵器に戦略的な価値を認めなかった。しかし、一部の技術士官たちはコロニー内の鎮圧兵器としての開発に着手した。

0077.08

公国軍、MS-06Aザクの試作機ロールアウト

0077.09

公国軍、MS-06Cザクの先行量産開始

ジオン軍がザクの開発を進めるうちに連邦軍もビルスツツ試作機ガンタンク完成。超小型核融合炉の開発に問題があり、既存のエンジンと燃料電池を動力源とした人型戦車ではあったが、今後の計画を考慮し、各種の機能が装備されていた。モビルスーツの開発に10年の遅れを取る連邦であったが、それだけに試作品にはあらゆる可能性を求めたようである。たとえば教育型コンピュータにより基本のデータを移植すれば新兵にも扱える機能と、パイロット及びコンピュータのデータを保護する脱出ユニットの開発である。

0078.01

公国軍、MS-06Cザクの量産開始

0078.02





コロニー間の輸送事故頻発

0078・03

連邦軍、極秘裏にMSの開発開始。複数のプロジェクトが同時に進行するP-X計画発動

0078・04

連邦軍、各コロニーの駐留部隊を増強

0078・05

サイド7第1号コロニー、未完成ながら移民開始

0078・06

公国軍、チベ級ティベ型重巡洋艦の開発開始

0078・10

ジオン公国、国家総動員令発令。国軍を分割し、宇宙攻撃軍および突撃機動軍設立

0078・11

連邦軍、観艦式を強行

0078・12

公国軍、ドロス級超大型宇宙空母を極秘裏に開発開始

ジオン公国は熱核兵器の使用すら考慮した改良版のモビルスーツを完成させた。MS-06ザクIIは量産され、多少の手直しを受けながら一年戦争末期まで製造を続けた名機である。

アニメックでは、MS-05いわゆる旧ザクを末尾開発ナンバー関係なしにザクIと呼称し、MS-

06Fに代表されるザクをザクIIと呼称している。シャアのMS-06Sをのぞき、外形で区別できないMSは、表記の統一でしか使う気はないのであからず

ザクIIが主力として配備され、旧式ザクが補給部隊や後方支援に回されるようになった。さらにMS戦を想定した小型戦闘母艦ともいえる巡洋艦ムサイも実戦配備され、ジオン公国の開戦準備は最終段階に入っていた。国家総動員令発布によりジオン公国の戦闘可能な男性は全員戦闘訓練を受けるところまで逼迫する。

連邦軍は、ルナツー空域に建造途中のサイド7に移民を開始した。実際は軍施設建設のカモフラージュであり、連邦軍のモビルスーツ開発の最終テスト場であった。高出力核融合炉の開発により、人型モビルスーツが複数の試作ラインに乗ったのである。その母艦となる宇宙戦艦の建造も開始された。

RX計画として、ザクのような汎用性を持たせず機能分離型のMSが同時に開発されて行く。

RX-76ガンタンクは、モビルスーツと呼称するには実験的過ぎたが、コアファイターモジュールを中核とするシステムの研究成果が上がり、中距離支援用MSガンキャノン、白兵戦用MSガン

ダムのプロトタイプが研究されていく。

0079.01.03

一年戦争勃発



1月3日未明、ジオン公国は地球連邦からの独立戦争を布告、ほぼ同時にMSを搭載して待機していた全艦隊が地球周回軌道上の連邦軍艦船を急襲した。さらにジオン公国の宇宙機動隊はザクを中心に展開、サイド1・2・4の各コロニーにBC(毒ガス・細菌)兵器と熱核兵器で無差別攻撃を開始し、非武装のコロニーを破壊あるいは住民皆殺しを行った。宣戦布告から48時間以内で3つのサイドは全滅し30億近い人命が失われた。虐殺としか表現のしようがない一方的なジオン公国の侵略戦争である。

さらにジオン公国は恐るべき秘密作戦を同時進行していた。サイド2の8バンチコロニーである「アイランド・イフッシュ」は、MSにより補強強化され、核パルスエンジンを取り付けられ軌道から減速を開始していた。人類の作りえた最大級の建造物であるコロニーが軌道から減速する。それは地球落下を意味していた。ラグランジェポイントを離れたコロニーは月の裏側を通る軌道で、ゆっくりと確実に地球に引き寄せられていく。

連邦軍本部ジャブローは、南米の強固な岩盤の中に築かれた水爆の直撃にも耐えうる強固な要塞であった。自由落下するコロニーの落下目標は、そのジャブローである。ジオンは、植民地(コロニー)を無くし、その栄光を失った大英帝国にちなみ、この作戦を「ブリティッシュ作戦」と名付けていた。

圧倒的に工業力の不足するジオンにとって、連邦との戦争は短期決戦しかなかった。長引けば、連邦の数十倍の工業力にかなうはずはないのである。ブリティッシュ作戦により連邦軍本部を破壊すれば、あとはいつきに有利な終戦条約が結べると考えていたのだ。

ここに至り、連邦軍も単なる権益争いではない事態に気が付き総力を上げる事になる。

1月5日、後手に回っていた連邦軍もコロニーの落下目標がジャブローと知るや、ただちに残存艦隊を集結し、コロニー破壊に乗り出した。本戦争における初の本格的な交戦である。数に勝る連邦軍であるが、ミノフスキー粒子散布下の条件では、頼みの誘導兵器は無力化し、落下するコロニーを守備するジオン艦隊と初めて相手にするMSに苦戦する。

だが、ジオン軍として落下するコロニーを援護す



る形で陣形を組んでいる以上、連邦の大艦隊と正面から戦うしかなく、両軍の消耗率は時間を追うごとに増加していった。

1月9日未明、幾度となく連邦軍の攻撃が繰り返されたが、コロニーは無傷であった。しかし、巨大なコロニーには無数のミサイルと砲撃が命中していたのである。連邦の被害も甚大であったが、コロニーを守備しているために行動が制限されるジオン側にも少なからず被害が生じていた。

ジャブローからは多数の輸送機が飛び立ち、連邦は撤収準備に追われていた。

しかし、大気圏突入をしたコロニーは、これまでの戦闘で劣化しており、目標のジャブローまでは原型を保てなかった。アラビア上空でコロニーは崩壊する。一番巨大な塊であるコロニー先端部は、オーストラリア大陸シドニー付近を直撃し、四散したコロニーの断片は北アメリカから太平洋に落下した。

オーストラリア大陸は、コロニーの直撃で形を変え、かつてシドニーがあった区域は海となった。大規模な造山運動すら誘発するその衝撃は地球の自転すら早め、人類が経験した事のない未曾有の災害を生んだのである。

オーストラリア大陸の30パーセント、北米大陸

の25パーセントは壊滅状態となり、地球全体の気象異常が巻き起こされたのだ。

特に北米大陸の広範囲に渡る破壊は、連邦軍の地球勢力のほとんどを失う損害となった。

1月3日からの3日間のサイド1・2・4虐殺作戦と、10日のコロニー落着きまでの一週間地球圏総人口の3割が失われた事により、この一週間の悪夢を人々は「一週間戦争」と呼び、これに驚愕する。大きな戦果を上げたジオン公国ではあるが、工作隊は多数の優秀なザクパイロットを失ったのである。

0079.01.11

サイド6中立宣言

かねてから外交手腕により独自の経済体制を確立していたサイド6政府は、連邦軍・ジオン軍に對していかなる戦闘にも加担しない旨を通告し、中立宣言を行う。

まったく無傷のサイド6は、ランク政権の根回しが功を奏し、両軍ともにこの宣言を承諾した。なお月面基地、都市、鉱山関係は今後も人類が存続するのに不可欠な場所であり相互不可侵条約の対象になっている。

0079・01・15

ルウム戦役。連邦軍宇宙艦隊敗北。公国軍は艦隊司令のレビル將軍を捕縛

ジオン公国は、サイド5ルウムのコロニーを再び地球に落下させる作戦行動を開始した。

連邦軍は、レビル將軍率いる宇宙艦隊が総力を挙げてこれを迎え撃つ事になりルナツーに集結後サイド5に発進した。

ほぼ要塞化工事の終了しているソロモンから発進したジオン艦隊は、サイド5空域で作戦を展開した。しかし奇襲であれば数に頼る必要もなかった作戦であるが、いかにMS部隊がいようとコロニーを強化改造した上に核バルスエッジを取り付ける工事をする間は連邦軍艦隊との総力戦になるのだ。数に勝る連邦軍は、戦術的な弱さを戦略で補うという消耗戦でジオン艦隊の数を減らして行く。

ジオン軍は、ついにコロニー落下を断念し艦隊戦に移行した。連邦軍はルナツー艦隊を中心に体制を整え、レビル艦隊司令の指揮によりジオン公国のはば三倍にあたる艦隊で総力戦を挑んだ。ジオン公国は本土防衛部隊を残しそれを迎え撃つ。両軍による史上初の宇宙艦隊戦は、圧倒的に数の多い連邦軍が、ミノフスキー粒子の散布された宇

宙空間でザク部隊に翻弄され壊滅状態となる。この戦いでサイド5は完全に破壊され、20億人が死亡した。ジオン公国の被害も甚大であったが、名将レビル將軍とて、戦艦で航空機と戦うような不利な状況である。ついに旗艦が大破し、脱出時にモビルスーツ小隊黒い三連星に捕虜とされてしまったのであった。ジオンの広告部隊は、この戦いで単独で戦艦5隻を撃沈した赤い彗星の武勇を伝えプロパガンダに利用した。後にルウム戦役と呼ばれるこの戦いは連邦軍の完全な敗北であった。連邦軍は艦隊の8割を失い、一時的に制宙権すら奪われてしまう。これが後に言うところのルウム戦役の全容である。

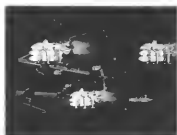
0079・01・31

南極条約締結

ジオン公国は、有利な休戦条約を結ぶか地球降下作戦を実施するかを選択を考えていた。この時点でジオン絶対有利なのだ。

一方連邦軍はルウム戦役後に失われた艦隊再建を始めるが、とても間に合う状況ではなかった。なによりも、レビル將軍が捕虜となった事で連邦軍將兵の士気が低下していた。

中立国サイド6を通し、ジオン公国から休戦提





案がなされた時に連邦軍には何の手立ても残されていなかったのである。

連邦軍特殊部隊による、レビル將軍救出作戦が発動された。詳細は不明ながら、小人数の精鋭隊員による隠密作戦であったと伝えられている。

1月31日ジオン軍ギレン総帥によるジオン軍の独立自治権の確立と連邦軍の軍備縮小という事実上の無条件降伏勧告が始まった。コロニー落としによる地球の被害と、ルウム戦役による艦隊喪失に弱気になっていく連邦高官はギレンの要求に従う意向であった。連邦にはこれを拒否するだけの力はなかった。

連邦敗北か？ここに奇跡が起こる。特殊部隊によるレビル將軍の奪回が成功し、レビル將軍の演説が地球全土に通信で中継されたのである。

奇跡的な生還をしたレビル將軍は、ジオン軍の被害の実情を報告する。連邦と同じようにジオンも被害を受けている。先の戦いによりジオンに残された兵力も残り少ないという趣旨の実際にジオンの内情を見て来た將軍の言葉に連邦軍は力づく。

これが、かの有名なレビル將軍の歴史に残る名演説『ジオンに兵なし』の概要である。

これにより徹底抗戦を決意した連邦は、南極の連邦軍基地において、両軍の武器（BC兵器・熱

核兵器）使用制限。木星船団・月面恒久都市・中立地帯への攻撃禁止等を取りきめる軍事条約を締結。南極条約と呼ばれた。

0079.02.01

公国軍、地球攻撃軍設立を公表

0079.02.07

公国軍、地球優攻作戦開始

0079.03.01

公国軍、第一次降下作戦展開

ジオン公国は、鉱物資源が不足している。戦闘を継続するにしても軍事物資として必要なレアメタルのほとんどは地球で産出するのだ。かくして、ジオン地球降下作戦は実施された。一週間戦争とルウム戦役の敗北により連邦軍の残存艦隊は無いに等しく、制宙権はジオンにあった。さらにコロニー落としによる被害で、連邦の海上戦力も壊滅状態にあったことから、ほぼ無傷で大規模な降下作戦は成功する。これにより、北アメリカのニューヨーク周辺、中央アメリカのキャリフォルニア周辺、東アジア、ヨーロッパはジオンの占領下に入った。



0079.03.04

## 公国軍、資源探掘部隊降下

カスビ海周辺の鉱山基地はほとんどジオン軍に占領され、大規模な基地も作られて毎日のように貴重な鉱物資源をジオン本国に運び出す事となった。

0079.06.13

## 公国軍、連邦軍のキャリフォルニアベースを制圧

キャリフォルニアベースをほぼ無傷で制圧した事により、ジオンは潜水艦隊を組織できるようになる。占領地を圧政で支配する余力はジオンにはなく、地域支配者や代表者に巧みに便宜を図り、地上の生産工場で兵器を生産させるほうが効率が良いからである。

コロニー落としの影響で海上が暴風雨に包まれ連邦軍の海上艦艇は全滅に近い。ここで潜水艦部隊を持てば、ジオンは制宙権と制海権の二つまでも支配できるのである。

ただし、航空機そのものは数が減ってはいるが、連邦軍の方が優位であった。

※3月から8月にかけては、両軍の膠着状態が続く。水面下では激しい動きがあったにしても、電撃的に前線を延ばしたジオン軍は補給網が追いつ

かず、本格的な戦闘をする余裕がなくなっていた。連邦軍として、総反撃をするだけの戦力が揃わず、あちこちでの小戦闘が繰り返されるだけとなっていた。

ジオン軍がレアメタルを補充し宇宙要塞を完成させつつ、新型モビルスーツ、モビルアーマーの実戦配備を急務としている間に、連邦軍は、失われた艦艇の補給を、その工業力の全てを費やして行っていた。また実戦配備も行われていないRX計画には、最優先で予算が着き、量産試作という形であらゆる生産工場でGMが作られていたようである。

連邦軍の戦略は根本的な立て直しを迫られていた。ここに新型MS開発と新型宇宙戦艦建造計画が最優先事項として見直され、V作戦が発動された。それと並行してルウム戦役で失われた宇宙戦艦の大量建造計画も開始、制宙権確保に向けてジャブローとルナツーの施設はフル稼働を始めた。

0079.07

連邦軍、エネルギーCAP技術確立によるビーム兵器の小型化に成功

ホワイトベース進出。ガンダム一号機ロールアウト





RX-78の完成をもって、RX-79計画実行。先行量産型生産開始

連邦軍プロトタイプガンダム完成。宇宙戦艦ホワイต์ベースの完成に合わせ、各3機のRXシリーズをルナツー移送し、ルナチタニウムの無重力精密加工を施した。機体の完全整備を終了したRXシリーズは、最終慣熟テストを重力地帯で行う必要からサイド7の施設に密送され、最後の操縦試験を繰り返していた。ザクIIほどの完成したモビルスーツを大量配備はできないが、少数の非常に強力なモビルスーツと大量の支援モビルスーツを生産し絶対量の不足は、艦隊の数で補おうという連邦らしい計画である。

この時期には、孤立しつつも手持ちの武器と艦艇を使った連邦のゲリラ活動が盛んになっている。

0079.08

連邦軍、サイド7においてガンダムの最終テスト開始

オーガスタ基地においてNT-1開発開始

MS運用の汎用空母1番艦ホワイต์ベースは進出式を迎える。機装と最終航行テストを完了したテレビ版ではサイド7にガンダムが数機あった描写となっている。ザクの奇襲がなければそれぞれ

れ3機ずつと予備のコアファイターも搭載されたのかもしれない。なおガンダムそのものの製造工場はサイド7だけではなく、ルナツーやジャブローにもあるかもしれないと放映当時に発表されている。

こうなったら、8月以降にガンダムタイプの試作モビルスーツがあらこちで作られていた話が出て来ても驚かなくて済むだろう。

現にオーガスタ基地では、アムロが乗る事になったニュータイプ専用ガンダムすら製作されていたのだから……

そして運命の9月18日、ホワイต์ベースがサイド7に入港し、試験の終了したRXタイプのモビルスーツを受領しようとしていた。



## 機動戦士ガンダム年表 TV放映版

0079

- 09.18** 公国軍の特務部隊がサイド7の1パンチを強襲。  
 08:00 サイド7内に、MS-06で編成されたMS小隊が潜入  
 08:15 連邦軍の新型強襲揚陸艦WB、サイド7に入港  
 09:00 試作MS、RX-78起動。MS-06、2機を撃破  
 WB出航  
 16:50 RXシリーズの部品を組み込み、WB出航
- 
- 09.20** 11:40 WB、ルナツーに入港
- 
- 09.22** 06:20 WB、ルナツーを出港
- 
- 09.23** 13:40 RX-78、初の大気圏突入戦闘を経験  
 ジオン軍の追撃を受ける  
 14:10 WB、ガルマ隊と接触し交戦これを突破
- 
- 10** 連邦軍、MSジムの本格的量産開始  
 公国軍、対抗策として新型機、試作機を実戦配備  
 フラナガン機関によるサイコ・コミュニケーターシステム試作機完成
- 
- 10.01** WB、レビル將軍派遣の補給部隊より初の補給を受ける
- 
- 10.04** 北米シアトルにおいて地球攻撃軍司令官ガルマ・ザビ大佐戦死  
 21:50 WB、ガルマ・ザビ率いる機動大隊と戦闘  
 ザビ家末子、ガルマ・ザビ戦死
- 
- 10.05** ガウ攻撃空母の体当たりを受けRX-78回路故障
- 
- 10.06** サイド3、第1コロニーズムシティにおいて、ガルマ・ザビの国葬  
 ジオン軍総帥ギレン・ザビ、全地球的規模の演説を中継
- 
- 10.06** 新型MSグフ部隊、WB討伐に派遣される  
 WB北米大陸から北太平洋に逃れる
- 
- 10.07** 太平洋を横断し日本列島の山陰地方に到着したWBに休暇
- 
- 10.09** WB、ミデア部隊より二度目の補給を受ける
-





0079

- 10.10** WB、太平洋を横断し、アジア大陸を進行  
イギリス方面より、レビル將軍率いる第3軍が発進  
ジオン軍潜水艦マッド・アングラー完成。試験航海実施
- 10.11** レビル將軍、オデッサ作戦のために部隊集結を急ぐ  
02:50 レビル將軍の部隊、ドーヴァー海峡を横断
- 10.12** 連邦軍、陽動のため、オスロ港から艦隊を南下させる
- 10.20** 連邦各軍、集結地点ワルシャワに到達。野戦本部設営
- 10.25** オデッサ作戦最終確認。陽動部隊を多数各地に派遣
- 10.30** マッド・アングラー隊発足  
司令官は、シャア・アズナブル大佐
- 11.02** WB、レビル將軍よりのカスピ海を渡れとの指示が守れず中央アジアを進撃中  
連邦軍、追加の増援部隊到着。(主に航空兵力)
- 11.05** WB、ランバ・ラル隊撃退  
指揮官ランバ・ラル大尉戦死
- 11.06** ジオン軍、黒い三連星が支援のため到着
- 11.07** 連邦軍、オデッサ作戦を開始  
06:00 オデッサ作戦の開始。連邦各部隊行動開始  
09:20 WB、ランバ・ラル隊の生き残りとの交戦  
13:40 レビル將軍の主力部隊が、第1陣の防衛網突破  
20:00 突出したレビル軍、ジオン軍の反撃を受ける  
オデッサ作戦を牽制するため、ジオン艦隊北上
- 11.08** オデッサでの前線、膠着状態となり両軍に動きなし
- 11.09** 03:35 第4軍、包囲網を突破。以後、さしたる抵抗を受けずに進軍  
05:00 第4軍の突入をさかいに、連邦軍の攻勢がはじまる  
11:00 ジオン軍、防衛線の縮小  
連邦軍主力部隊(第3軍)、カルバート山脈東、キシニョフへ到達



## 機動戦士ガンダム年表 TV放映版・2

0079

- 11.09** 17:00 ジオン軍司令官マ・クベ大佐、宇宙へ撤退  
連邦軍、敵掃討開始。14時には、臨戦体制から警戒体制へ  
オデッサ作戦終了  
欧州からアジア地域における公国軍勢力は弱体化する
- 11.18** マッドアングラー隊、WBらしき艦をベルファストにて発見
- 11.19** ベルファスト近海に配備されていたフラナガン隊、停泊中のWBを確認
- 11.21** 連邦ベルファスト基地海底より襲撃される  
フラナガン隊、MS2機による、ベルファスト港攻撃  
深夜、WB、連邦軍本部ジャブローに向け出港
- 11.22** マッド・アングラー移動。WB追尾
- 11.24** マッド・アングラー、連邦海軍の対潜攻撃部隊を攻撃  
ヒマラヤ型母艦撃沈される
- 11.27** マッド・アングラー、ジャブローの宇宙船用出入口発見  
シャア大佐、ジャブロー攻撃を決意
- 11.28** マッド・アングラー、アマゾン河口より後退  
カリフォルニア基地、ジャブロー攻撃準備を進める
- 11.30** 公国軍、ジャブロー降下作戦を展開。ジャブロー基地を攻撃するも失敗。  
水陸両用MS3機からなる先発攻撃隊、アマゾン河を溯行、MS  
用出入口を発見。ジャブロー側侵入を察知、警戒警報発令  
カリフォルニア基地よりジオン増援部隊到着、MS降下開始  
ジャブロー、迎撃体制に入る。迎撃戦艦機隊発進  
シャア大佐、RX-78と交戦するも、GM量産工場爆破を失敗  
ジオン攻撃部隊、撤退。ジャブロー攻撃失敗
- 12.02** ジャブローより宇宙艦隊発進



0079

- 12.02** 19:00 連邦軍、4隻の図艦を、それぞれ別航路でジャブローから出港させる。WB、第13独立部隊に編入  
21:00 連邦軍、第二連合艦隊ジャブローより大挙して発進
- 
- 12.05** 連邦軍、アフリカ、北米において公国軍掃討作戦を展開  
第二連合艦隊、ルナツーに入港  
ジオン軍、連邦軍の攻撃目標がソロモンと察知
- 
- 12.11** ジオン軍特殊工作隊サイクロプス隊、地球に降下  
連邦軍北極基地への奇襲攻撃準備
- 
- 12.13** サイクロプス隊を乗せたユーコン型潜水艦、ノバヤゼムリヤ基地を出港
- 
- 12.14** 09:00 サイクロプス隊、連邦軍北極基地に奇襲攻撃開始  
NT1を搭載したシャトル、宇宙へ  
09:25 サイクロプス隊、北極基地撤退  
連邦軍、星一号作戦発動
- 
- 12.16** サイクロプス隊、グラナダ基地へ帰還
- 
- 12.17** ジオン軍グラナダ基地、サイド6・リボーコロニーにてNT1発見
- 
- 12.18** NT1奪取のための、ルビコン計画発動  
サイクロプス隊、サイド6・リボーコロニーに潜入
- 
- 12.19** サイド6政府、全ジオン公国艦艇の強制退去を命じる
- 
- 12.20** 19:30 サイクロプス隊、連邦兵に変装し、NT1テスト基地へ潜入  
19:40 コロニー内で、MS-18Eケンプファー(サイクロプス隊所属)出撃  
20:00 MS-18E、FX-78NT1と交戦。あえなく撃破される  
また潜入した3名のサイクロプス隊員、連邦兵と交戦。2名戦死。(含シュタイナー隊長)  
連邦軍第三艦隊、ルナツーを出港



## 機動戦士ガンダム年表 TV放映版・3

0079

**12.22** 連邦軍第二艦隊、ルナツーを出港  
ルビコン計画責任者、キリング中佐、独断でサイド6への核攻撃を決意

**12.24** ソロモン攻略戦展開

- 18:10 第三艦隊、サイド4の残骸を楯に、ソロモン至近距離まで到達。先鋒のパブリック突撃艇部隊発進。ビーム攪乱幕を展開
- 18:35 第三艦隊から、MS隊、戦闘機隊発進
- 18:50 第二連合艦隊、サイド1の残骸を楯に、ソーラー・システム展開。ソロモンゲート、ソーラー・システムの照射により融解
- 19:10 連邦軍第二連合艦隊、MS隊を先発させつつソロモンに接近
- 19:30 ジオン軍、MS部隊、艦艇を呼び戻し、水際作戦を展開  
ソロモン総司令官ドズル・ザビ、重MSビッグ・ザムで出撃
- 20:20 連邦軍MS隊、ソロモン内に突入成功
- 20:25 ジオン軍、グラナダ基地よりソロモン支援艦隊を発進させる
- 20:40 ソロモン総司令官ドズル中将、ソロモン放棄を決意
- 20:55 連邦軍作戦司令官、ティアム提督戦死
- 21:15 ドズル中将戦死。ソロモン残存部隊、そのほとんどが撤退を完了

公国軍敗退。宇宙攻撃軍司令官ドズル・ザビ中将戦死

**12.25** 10:55 核ミサイル搭載のサイド6攻撃艦隊、連邦艦隊に発見、撃沈される

12:00 サイクロプス隊の残兵、破壊されていたMS-06FZで、NT1攻撃。MS-06FZ、NT1に撃破される  
連邦軍ソロモンに駐留。ソロモン周辺の艦艇に異常事故続発

**12.29** 星一号作戦最終段階。連邦軍第一連合艦隊、ソロモン出港

**12.30** 公国軍、ソーラ・レイ作戦発動。デギン公王死亡

連邦軍、レビル艦隊を喪失

- 08:20 レビル提督、グレート・デギンからの通信を受ける
- 09:00 グレート・デギン、レビル艦に接触



0079

09:05 ジオン軍、ソーラレイ発射。基本標準ゲルドルバ連邦艦隊の30%以上が失われる

# 12.31 ア・バオア・クー攻略開始

ギレン・ザビ総帥死亡。キシリア・ザビ戦死。ア・バオア・クー陥落

00:00 連邦軍上層部、星一号作戦の強行を決定

05:00 連邦軍、残存艦隊の再編成終了

08:10 ア・バオア・クー攻略戦の開始

連邦軍、突撃艇を主力とする第1次攻撃隊を発進させる

08:40 連邦艦隊からMS隊発進

09:25 ア・バオア・クー司令室にて、ギレン・ザビ戦死

09:40 ジオン軍大型空母、ドロス沈没

連邦MS隊、ア・バオア・クーに突入開始

10:00 至近距離での乱戦が続く

10:10 ドロス型空母、ドロワ沈没

12:05 キシリア・ザビ、ア・バオア・クーから脱出直前、乗艦していたザンジバル型巡洋艦もろとも戦死

12:15 ア・バオア・クーの電力供給、一部区画を除き停止

18:00 ジオン共和国臨時政府、連邦政府に終戦協定締結を申し入れる

0080

# 01.01 地球連邦とジオン共和国臨時政府の間で終戦協定締結

15:00 地球連邦政府とジオン共和国の間で、終戦協定が結ばれる  
ジオン独立戦争(後に一年戦争と呼称)終結



## ホワイトベース航海記録

0079.09.1B

公国軍の特務部隊がサイド7の1パンチを強襲。  
連邦軍新造艦WB出航

ジャブローで開発の進められていたMS用ビーム兵器が完成した。サイド7での教育型コンベンタ最終テスト終了に間に合わせ、正規乗組員と訓練兵を乗せたWBは、RXタイプMS用装備一式と予備のコア・ファイター3機を搭載しジャブローを飛び立ちサイド7に向け航行中であつた。ガンダム開発の責任者テム・レイによりMS運用の講義とシミュレーション訓練を受けながら航行するWBは、ムサイの追跡を受けつつ、サイド7へ入港した。MSパイロットは全員下船し慣熟運転の終了したMSを受領する予定である。

そして、ガンダムの物語はここに始まる。

連邦軍宇宙基地ルナツーの陰にある辺境のコロニーが実験施設とはジオンが知るはずはないという油断があつたのだろう。

シャアがWBを発見したのは、偶然にもゲリラ掃討作戦の帰路であつた。歴戦の勇者であるシャアの指揮ながら、このゲリラ掃討作戦でザクを一

機失う損害が後に報告されている。

WBを追跡して来たムサイから出た偵察部隊がいきなり強襲を仕掛けた来た。

コロニーの内外からの攻撃により正規乗組員のほとんどを失い、積み込み予定のMSは3機を残して破壊された。かろうじて操縦可能なRX-78が敵を撃退し、WBはサイド7を出港した。

008.020

WBルナツーに入港

正規乗員のいないWBの扱いは連邦軍を困惑せしめた。見習い上官、訓練生、民間人が軍最高機密を知っただけでなく、それを運用している。通常なら重罪に値する行為である。工場としての機能を残し、守備隊しかいないルナツーでは判断できかねる事態であつた。

008.020

WBルナツーを出港

ジオンの小規模な破壊活動を排除しWB処分保留のまま、連邦軍本部ジャブローに向かう。トリプルAの機密保持で乗員を拘留した事は、ジオンのゲリラ活動を排除した事で帳消しにされたまよう。



09.26

RX-78、初の大気圏突入戦闘を経験。

WB、地球攻撃軍司令官ガルマ・ザビの部隊と戦  
闘後離脱

WB、地球大気圏突入。ジオン軍コムサイより  
発進したザクの攻撃により、RX-78はWBに帰  
還できず、初のMS単独大気圏突入戦闘を経験。  
この戦闘によりWBはジャブローに向かう軌道か  
らそれ、ジオン制圧下の北米大陸に到着。

※アニメックの当時の解説より(6話)

WBの着陸地点は、着陸前にメキシコ東岸が見  
えた事、ガルマのいるニューヨークに近い事、山  
脈である事から推理して、アパラチア山脈の東だ  
ろうと思われる。

世界地図で表示するとワシントンやボルチモア  
付近ではないかと推測される。

ついでに7話では、「山脈を盾にして」という描  
写があることから、オハイオあたりにWBが出た  
と思われる。

8話『戦場は荒野』になると西海岸に近い位置  
までWBは進んでいる。

グレート・キャニオン(グラランド・キャニオン  
やミッド湖(ミード湖)という描写からしてコロラ  
ド高原であろう。

10.01

WB、レビル將軍派遣の補給部隊より初の補給を  
受ける

※9話では比較的大きな街の廃墟があり、すぐに  
山脈が迫っていた事から推理すると、フェニックス  
あたりでミデアと遭遇したものらしい。連邦軍  
の秘密兵器なので將軍直々の計画かと思いきや、  
かなり様子が違っている。

10.04

北米シアトルにおいて地球攻撃軍司令官ガルマ・

ザビ大佐戦死

シアアの裏切りがあるとはいえWBの存在がガ  
ルマの死を招いたのである。一年戦争史の中では  
かなり重要な意味を持つ事件であるが、WBから  
見ると逃げ延びるのに必死だっただけという感も  
ある。

シアアのザビ家に対する復讐の第一歩といえる  
のだが、これでドズルの反感を買い宇宙機動軍か  
ら外されてしまう。それとてシアアの計算で、キ  
シリアが潜水艦隊に引き抜くのを見越していたと  
考えるべきだろう。

※10話は、シアトルだったのか。追われて北  
上したとは思わなかったですね。劇中ではWBが



海に出ようとしていて、雨天野球場があった事からロサンゼルスと判断してそう解説していました。

## 10.06

ガウ攻撃空母の体当たりを受けRX-78回路故障

WBの避難民の収容を受け入れるコンタクトポイントがS109・N23だった事からカリフォルニア半島の付け根と判断。

トララクに難民を乗せ、その後に半島を南下し、サンルカス岬に出たのだろう。

ドレンが、シャアの行動を全て承知した上で従っているのがシリアスである。

※11話「イセリナ、恋のあと」では、もうすぐ連邦の勢力圏という会話が出ているし、陸路で難民を引き取れるくらい連邦の勢力圏内なのだが、WBは連邦軍への合流を拒否された形で太平洋に出るのだった。

重要機密でありながら、民間人の運用という官僚にとつては扱いにくい船だったので、やっぱり払いをされた感がある。

## 10.06

サイド3、第1コロニスズムシティにおいて、ガルマ・ザビの国葬。ジオン軍総帥ギレン・ザビ、

全地球的規模の演説を中継

新型MSGフ部隊、WB討伐に派遣される。

WB北米大陸から北太平洋に逃れる

ギレンは弟ガルマの死ですら、国民の戦意高揚に活用する。デギンとしては、木っ子ガルマの死を親族のみで弔いたがったのだが、結局は押し切られた形になる。

直情型のドズルは、ガルマの死の責任をシャアに負わせ解任したらしい。キシリアは、直ちに手の者を向かわせ、シャアを自分の配下として取り込んでいく。

ガルマの死を境に、WBは重要機密からジオン最大の敵と認識された。新型戦艦と新型MSを与えられたランバ・ラル隊の追撃を受ける事となる。しかし、地球に到着してからのラルは派閥争いの煽りで満足な装備を受けられなかった。

※12話、シナリオ段階では、大気圏突入をして来るランバ・ラルの乗艦するザンジバルから攻撃を受けるのは「X07Y161ライン諸島上空です」という描写があった。赤道に近い南太平洋での戦闘であった。

ギレンの演説を聞いたWB乗員は、自分たちの戦っていた相手の大きさを痛感する。





10.07

太平洋を横断し日本列島の山陰地方に到着したWBにしばしの休暇が与えられる

10.08

WBミデア部隊より二度目の補給を受ける

※諸説あるが、放映当時の富野監督のインタビュ―では、13〜15話は日本付近となっている。

【13話「再会母よ…」から15話「クルス・ドアン」までは日本付近が物語の舞台になっています。アムロの実家はズバリ山陰地方です、クルス・ドアンは五島列島付近だと思えます。】

日本らしくないとお考えの方が多いと思いますが、今の日本の絵をそのまま持つて来ようという気は私にはありません。今よりも一世代か二世代未来の建物が残っていたと解釈して下さい。ただアムロの実家が山陰といっても、美術的にはハゲ山が多すぎたかもしれません。」

後に設定が統一されていくにしても、テレビシリーズ放映中の監督としては、日本付近を想定していた事実が変わらないと思う。

10.10

WB太平洋を横断し、アジア大陸を進行

ホワイトベース、アジア大陸へ到着。レビル將軍よりの伝令、「オデッサデイは5日後の予定、WBは5日以内にカスピ海を渡れ」の伝言を受ける。

WB中央アジアに進路を取る。

（注釈 WBが10月10日の深夜にロブノール付近にいたのは年表が確定しているし、11月7日にオデッサデイだったのも年表として確定している。これ以上歴史をいじりたくないの、10月10日の伝令の少年の言葉をそのまま信じるしかあるまい。

つまりレビル將軍の考えでは5日後にオデッサデイの予定だったのだ。しかし、本編中にオデッサデイ作戦開始の遅れに苛立つレビル將軍の描写が出ている。エルラン中將の裏切り行為により連邦の戦力が攪乱されてオデッサに集結すべき連邦軍各隊が遅延した事により、作戦日時が予定よりも遅れたと解釈する事にした。これならばフィルムの変更に変更はない）

10.11

レビル將軍、オデッサ作戦のために部隊集結を急ぐ

11.02

WB、レビル將軍よりのカスピ海を渡れとの指示が守れず中央アジアを進撃中

11.06

ランバ・ラル隊撃退。指揮官ランバ・ラル大尉戦死

11.07

連邦軍、オデッサ作戦を開始

レビル将軍が焦るほど開始の遅れたオデッサ作戦であったが、連邦内部に内通者がいたのでは、作戦が進むわけではない。開戦直後に哨戒飛行中のガンダムによってスパイが摘発されたのは僥倖であった。

11.08

オデッサ作戦終了。欧州からアジア地域における公国軍勢力は弱体化する

オデッサ作戦では、連邦軍の勝利により、ジオンの地球での勢力範囲は縮小。ジオン公国の地球に残された戦力は、北米キャリフォルニアベースと潜水艦部隊のみとなる。

ガンダムの活躍で勝利したわけではないが、開戦直前に、連邦軍のエルラン中將がジオンのスパイであることをアムロとセイラが発見していなければ戦況はどうなっていたかは不明。

※中央アジアからカスピ海を経てオデッサ作戦までのWBの航路をまとめてみよう。

16話「セイラ出撃」中央アジア、ゴビ砂漠を縦断してロブ湖まで来たらしい。さまよえる湖といっても、そう極端に動くわけではないので、楼蘭付近と考える。放映当時では、「楼蘭付近のさまよえる湖」と説明しても知らない人の方が多かった。

17話「アムロ脱走」ロブ湖よりやや西のタリム盆地のあたり。

18話「灼熱のアッザム・リーダー」タシケントの周辺。カスピ海への通り道であり、マ・クベの第102採掘基地という通しナンバーから判断すると、このあたりの鉱山地帯と思われる。

19話「ランバ・ラル特攻」アムロが食事をしていたランバ・ラルと出会ったゾドンの町は、カスピ海の東側にある。

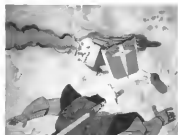
20話「死闘！ホワイト・ベース」移動しながらの戦いであるが、カスピ海の西側に移っている。

※「19話と20話は、カスピ海の両側です」という富野監督のインタビュに基いている。

21話「激闘は憎しみ深く」フィルム上の地図では黒海の南岸であった。今のトルコ共和国あたりのどこか。

22話「マ・クベ包囲網を破れ！」黒海の南側で前回よりやや西寄り。今のアンカラあたり。

23話「マチルダ救出作戦」22話でエンジンを大破





しているので動いていない。

24話「追撃！トリプル・ドム」セキ技術大尉の指揮でWBはエンジン修理をしており、作業が完了して引き上げるミデアが襲撃されるわけだから、WBはほとんど動いていない事になる。

25話「オデッサの激戦」黒海北側のオデッサは中心区域であるが、戦場そのものは広範囲である。マ・クベの水爆ミサイル迎撃にガンダムが向かったのだから、マ・クベの基地のあるカルパチア山脈に近い場所にWBは居たはずである。

11.20  
連邦軍第三艦隊、ルナツーを出港

11.21

連邦ベルファスト基地海底より襲撃される

この時、WBは北アイルランドのベルファスト基地に居た。(26・27話)

11.30

公国軍、ジャブロー降下作戦を展開。ジャブロー基地を攻撃するも失敗

連邦軍はガンダムのデータをもとに量産型MS

ジムを実戦配備開始。ジャブロー内での小規模戦闘においてもWB隊の活躍がなければ、ジャブロー製のジムは大多数破壊されていたに違いない。

12.02

ジャブローより宇宙艦隊発進

12.05

連邦軍、アフリカ、北米において公国軍掃討作戦を展開

12.09

公国軍の特務部隊、北極基地を襲撃

12.14

連邦軍、星一号作戦発動

12.20

連邦軍第三艦隊、ルナツーを出港

12.22

連邦軍第二艦隊、ルナツーを出港

12.24

ソロモン攻略戦展開。公国軍敗退。宇宙攻撃軍司令トスル・ザビ中将戦死

連邦軍のソロモン攻略戦では、ジャブローより

MS搭載の宇宙戦艦が多数発進。ルナツーに集結した艦隊も別ルートで集結した。

ジャブローの被害が軽微だったからこの作戦が遂行できたのだ。さらに、先行して発進したWB隊にジオンの注意が向いたからその他の宇宙艦隊を無傷で集結できたのであろう。

ソロモン攻略戦において、連邦秘密兵器ソーラ



システム使用。宇宙攻撃軍司令官ドズル・ザビ中将戦死。ガンダムがいなくてもドズルは死んでいたかもしれない。しかし、ビゲ・ザムがガンダムに討たれたことによる連邦の戦意高揚ははかりれない。

12.26

連邦軍ソロモン駐留。異常事故続発

12.29

星一号作戦最終局面

『星一号作戦』発動、目標の星である宇宙要塞ア・バオア・クー攻防戦開始。デギン公王とレビル將軍の和平会談がセッティングされたが、公国のソーレイが発射され兩名とも戦死。

だが、WBが健在なために連邦は再集結を行う。さすがにWBは戦略に組み込まれてはいるが、全体に影響を与える活躍はしていない。

(連邦幹部はソロモンが落ちた時点で停戦交渉を行う予定だった)

12.30

公国軍、ソーレイ作戦発動

デギン公王死亡。連邦軍、レビル艦隊を喪失

12.31

ア・バオア・クー攻略開始

ギレン・ザビ総帥死亡。キシリア・ザビ戦死。ア

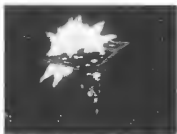
・バオア・クー陥落

ア・バオア・クーにおける総力戦。ギレン総帥・キシリア少将相次ぎ戦死。要塞陥落によりジオン最終防衛ライン崩れる。

0080.01.01

地球連邦とジオン共和国臨時政府の間で終戦協定締結。一年戦争終結

1月1日 地球連邦軍とジオン共和国の間で終戦協定調印。永井一郎のナレーションの冷たさが示すように双方が合意した調印ではなく、連邦による一方的な協定である。連邦がより苛酷なスベースノイドへの迫害をすることであろう事が予感される終わり方であった。



## 「ホワイトベース

### 航海記録の注意点

基本的には機動戦士ガンタムの物語に強く係わる内容で、シアアのサイド7襲撃から終戦までの解説を試みました。

WBが次々に巻き込まれる戦況が、連邦軍とジオン軍の大戦略のどの部分かを記入してみたのですが、まだ未消化な部分があります。

詳細が明確になっている「0080ポケットの中の戦争」は比較的容易に年表に組み入れています。この時期にバスク・オムが何をしていたのかと、カミーユがどのコロニーにいたのか等は憶測ですが書けないので今回は割愛してあります。

「第08MS小隊」における、陸戦用ガンダムがどんな戦いをしているのか等は、ビデオが終了してから書き込まないと混乱しそうです。

「0083」に関係して来る「ソロモンの悪夢」ガトールの脱出は書けても、フィルム上で見た事のないパイロットの活躍は、意識が拒否してしまう部分もあり、これもまた省略してあります。

同じ時系列を持つ宇宙世紀として、F91を理由してVガンダムまでの話を総合年表にしてみたいものですが、前途多難ですね。

幸いにも一年戦争に関する資料は、アニメック版とオフィシャル版に大きな食い違いがないので整合性を持たす事ができました。極力サンライズオフィシャル資料を優先していますが、20年間も解説して来た内容だけに、こだわりを残した部分が沢山あります。

ここしばらくの傾向として、映像資料として多くの人が閲覧できる劇場三部作が優先された内容解説が多いようです。でも、テレビシリーズあつてのガンダムと考える身としては、劇場三部作は独立した作品でテレビ版の解説に影響を与えるべきではないと判断します。

この夏に待望の機動戦士ガンタムのLDが発売され、テレビ版のオリジナルストーリーが再評価される事を願い、テレビ版全43話に焦点を合わせて解説してみました。原点に戻りテレビ作品ガイドを編集してみたつもりです。

テレビシリーズ全体の流れを把握するのや、名場面話数を検索するには最適なムックかと思っています。かつてガンダムに熱狂した人にとっては、これ一冊読めば、青春の熱き想いが甦るのではないのでしょうか。キャラクター・メカニック・用語解説は、次回の「大事典編」をお待ち下さい。

アニメック編集部 (ま)

## スタッフリスト

話数	サブタイトル	脚本	演出	絵コンテ	作画監督
<b>1</b>	ガンダム大地に立つ!!	星山博之	貞光紳也	斧谷 稔	安彦良和
<b>2</b>	ガンダム破壊指令	松崎健一	藤原良二	斧谷 稔	安彦良和
<b>3</b>	敵の補給艦を叩け!	荒木芳久	小鹿英吉	斧谷 稔	安彦良和
<b>4</b>	ルナツー脱出作戦	山本 優	貞光紳也	貞光紳也	富沢和雄
<b>5</b>	大気圏突入	星山博之	藤原良二	斧谷 稔	青鉢芳信
<b>6</b>	ガルマ出撃す	山本 優	小鹿英吉	山崎和男	安彦良和
<b>7</b>	コアファイター脱出せよ	荒木芳久	藤原良二	藤原良二	安彦良和
<b>8</b>	戦場は荒野	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也	山崎和男
<b>9</b>	翔べ! ガンダム	星山博之	小鹿英吉	斧谷 稔	安彦良和
<b>10</b>	ガルマ散る	山本 優	藤原良二	藤原良二	安彦良和
<b>11</b>	イナセナ、恋のあと	荒木芳久	貞光紳也	貞光紳也	大泉 学
<b>12</b>	ジオンの驚威	松崎健一	横山裕一郎	斧谷 稔	中村一夫
<b>13</b>	再会、母よ……	星山博之	藤原良二	藤原良二	安彦良和
<b>14</b>	時間よ、止まれ	富野喜幸	貞光紳也	斧谷 稔	山崎和男
<b>15</b>	ククルス・ドアン	荒木芳久	斧谷 稔	貞光紳也	鈴木一行
<b>16</b>	セイラ出撃	山本 優	斧谷 稔	斧谷 稔	青鉢芳信
<b>17</b>	アムロ脱走	松崎健一	藤原良二	斧谷 稔	安彦良和
<b>18</b>	灼熱のアッザム・リーダー	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也	中村一夫
<b>19</b>	ランバ・ラル特攻!	星山博之	行田 進	斧谷 稔	安彦良和
<b>20</b>	死闘! ホワイト・ベース	山本 優	藤原良二	斧谷 稔	富沢和雄
<b>21</b>	激闘は憎しみ深く	荒木芳久	行田 進	斧谷 稔	山崎和男
<b>22</b>	マ・クベ包围網を破れ!	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也	安彦良和

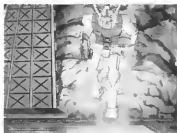
話数	サブタイトル	脚本	演出	絵コンテ	作画監督
<b>23</b>	マチルダ救出作戦	星山博之	藤原良二	藤原良二	中村一夫
<b>24</b>	迫撃！トリプル・ドム	山本 優	関田 修	芹谷 稔	安彦良和
<b>25</b>	オデッサの激戦	荒木芳久	貞光紳也	貞光紳也	富沢和雄
<b>26</b>	復活のシャア	松崎健一	藤原良二	芹谷 稔	安彦良和
<b>27</b>	女スパイ潜入！	星山博之	久野 弘	芹谷 稔・久野 弘	山崎和男
<b>28</b>	大西洋、血に染めて	山本 優	関田 修	芹谷 稔	中村一夫
<b>29</b>	ジャブローに散る！	荒木芳久	貞光紳也	芹谷 稔	安彦良和
<b>30</b>	小さな防衛線	山本 優	藤原良二	藤原良二	安彦良和
<b>31</b>	ザンジバル、追撃！	星山博之	久野 弘	芹谷 稔	安彦良和
<b>32</b>	強行突破作戦	松崎健一	関田 進	芹谷 稔	富沢和雄
<b>33</b>	コンスコン強襲	山本 優	貞光紳也	芹谷 稔	中村一夫
<b>34</b>	宿命の出会い	星山博之	藤原良二	藤原良二	
<b>35</b>	ソロモン攻略戦	松崎健一	久野 弘	久野 弘	
<b>36</b>	恐怖！機動ビグ・ザム	松崎健一	関田 修	芹谷 稔	
<b>37</b>	テキサスの攻防	山本 優	貞光紳也	芹谷 稔	中村一夫
<b>38</b>	再会、シャアとセイラ	松崎健一	藤原良二	藤原良二	
<b>39</b>	ニュータイプ、シャリア・フル	山本 優	久野 弘	芹谷 稔	
<b>40</b>	エルメスのララァ	荒木芳久	関田 修	芹谷 稔	
<b>41</b>	光る宇宙	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也	
<b>42</b>	宇宙要塞A・バオア・クー	星山博之	藤原良二	芹谷 稔	中村一夫
<b>43</b>	脱出	星山博之	関田 修	芹谷 稔	山崎和男

総監督 富野喜幸	美術 アートテイクワン
原作 矢立肇	アップル
富野喜幸	動画チェック 浜津守
音楽 渡辺岳夫	撮影 旭プロダクション
松山祐士	斉藤秋男
キャラクターデザイン 安彦良和	編集 鶴淵友彰
メカニカルデザイン 大河原邦男	小谷地文男
美術設定 中村光毅	現像 東京現像所
アニメーションディレクター 安彦良和	音響監督 松浦典良（オーディオプランニングユー）
プロデューサー 関岡 渉（名古屋テレビ）	効果 松田昭彦
大熊伸行（創通エージェンシー）	整音 日向国雄
渋谷靖夫（日本サンライズ）	録音 整音スタジオ
製作 名古屋テレビ	製作進行 豊住政引
創通エージェンシー	草刈忠良
日本サンライズ	望月真人
作画 中村プロ	滝口雅彦
スタジオZ	植田益朗
アニメフレンド	八木岡正美
仕上 シャフト	神田豊
ティーン	深田節雄
特殊効果 土井通明	設定製作 円井正
	アシスタントプロデューサー 神田豊



## 第五章●ホワイトベース完全記録

# 君は生きのびることができるか!?



## 第1話

### ガンダム大地に立つ

軍艦入港のため避難命令が出たサイド7に住む、アムロ・レイは、隣に住む幼なじみのフラウ・ボウに声をかけられ、待避カプセルに急いでいた。連邦軍のWBは、ジオンのムサイ艦に追跡されながらサイド7に入港したのだった。シャア少佐がコロニーの偵察に送り込んだザクの内の一機は、命令を無視し搭載前の連邦MSに攻撃を開始する。父にWBへの避難を頼もうと飛び出したアムロは、爆風で飛ばされたMSの資料を偶然読む。避難民よりガンダム優先の父に反発するアムロ。爆発によりフラウの家族が死亡し、ガンダムに走ったアムロは起動準備中のコクビットに身を沈める。ファイルを睨みながらアムロはガンダムを立ち上げザクに向かう。きこえない動きながらパワーに勝るガンダムから逃れようとするザクを、アムロはビームサーベルで斬り裂いた。その爆発はサイド7の外壁を破り、空気流出を招く。宇宙に吹き飛ばされるテム。アムロは一瞬の判断で、残るザクのコクビットを貫き勝利する。立ち尽くすガンダムに振動が伝わった。それは、ザクの敗退を知ったシャアの新たな攻撃であった。

## 第2話

### ガンダム破壊命令

ザクの奇襲で連邦軍は多くの兵士とパイロットを失う。さらにムサイ艦からの攻撃で身動きのとれないWBでは艦長までもが重傷を負い、避難民の少年少女たちが乗員の代わりに仕事を与えられた。士官候補生のブライトはMSのパイロットが子供と知り驚愕するが、使える要員は子供でも使わなければならない。シャアは補給艦の要請をし、自らもサイド7潜入を決意する。バオロ艦長は、残るパーツの破壊をアムロに命じた。セイラは難民を捜査中に、敵兵を発見するが、素顔を見た一瞬の隙を突かれ逃亡される。セイラを収容したアムロはパーツを焼却し、港に戻るが、リフトの間隙からシャアが港に侵入し、銃撃されつつ内部の様子を撮影する。ブライトの撃った一撃でカメラを破壊されたシャアは、サイド7を脱出し、ザクに乗り攻撃をしかけて来た。発達したWBを援護するために、ガンダムで出撃したアムロは、シャアに翻弄されつつもガンダムの性能に助けられる。味方MSを一撃で撃破されたシャアは一度退却する。WBに帰艦したアムロは、ブライトに叱咤され反発を強めるのだった。

君は生きのびることができるか!?



### 第3話

#### 敵の補給艦を叩け!

サイド7宙域に浮かぶルナツーは連邦軍の最前線基地のある小惑星だ。そのルナツーに逃げ込もうとするWB。ムサイ艦は、ただあとをつけてくただけである。三機要求したザクを二機に減らされつつもシェアに補給物資が到着する。

シェアのムサイに接近する船を発見したWBは、乗員の意見で補給艦と判断。こちらからムサイを攻撃する作戦を立てる。補給艦バブアとシェアのムサイが接触する瞬間、アムロのガンダムとリュウのコアファイターが攻撃を加える。シェアは、自らもモビルスーツで出撃、ムサイ艦は単独で応戦する。アムロの攻撃は、素早い動きのシェアにかすりもしない。シェアは猛烈な攻撃をかけつつ敵MSの性能に驚愕する。遂に、補給艦バブアはルナツーに激突した。その寸前に物資を放出した補給艦の艦長ガテムは旧式ザクで出撃し、ガンダムに突進する。歴戦のザクの素早い動きに苦戦しつつも、圧倒的なガンダムの性能で切り抜けたアムロはWBに帰艦した。なんとか危機を乗り越えたWBは、ルナツーに寄港しようとしていた。

### 第4話

#### ルナツー脱出計画

シェアの攻撃をかわし、ルナツーに到着したWBは、収容を拒否され重要機密であるWBとガンダムを使用した疑いで、ブライト以下の乗員は拘束。ガンダムも封印される。ルナツー方面軍司令官ワッケインは、軍規優先で相手にならない。シェアは、ルナツーの意表を突き攻撃をかける。機雷により基地のあちこちで爆発が起き、電子ロックの外れた牢からブライトたちは脱出し、WBに向かう。出港しようとしたマゼラン艦が機雷に接触し港口を塞いでしまう。ブライトたちの意見に耳もかさないワッケインだが、重体のバオロ艦長の強い説得により、ホワイトベースの発進を許可。ガンダムとコアファイターがムサイ艦に向け出撃した。シェアは部下を引き連れ、ムサイからルナツーに向かう。ブライトは、苦戦するガンダム救援の為にワッケインにマゼランの排除を要求。WBの主砲でマゼランを爆破した。爆風は、ザクを巻きこみ破壊した上に、ムサイのバランスを崩さすがのシェアも戦況の激変に退避するしかなかった。ルナツーを出港したWBの中では艦長はすでに息絶えていた。WBは地球をめざす。

## 1話〜4話のまとめ

連邦軍V作戦とは、MSの開発とそれを運用する宇宙戦艦の建造である。いってみれば、連邦軍の主力戦艦マゼランと巡洋艦サラミスは数が多いが、誘導兵器主体の大艦巨砲主義となる。

初戦での大敗は数は少ないながら、小型空母ムサイと、艦載機ザクの艦隊に負けたようなものである。もちろん、ピンソン計画に基づき大量建造中の艦隊は改造を施しているが、旧タイプの軍艦に近代改造をした程度ではない。

その重要機密であるWBに最初から乗り込んでいたのが、なぜ少年兵だったのかは謎だが、サイド7でガンダムを積み込むだけの任務と考えていたのかもしれない。

士官候補生のブライト・ノアに至っては、シャアの攻撃がなければ「伝令A」で終わってしまいうキャラクターであつたかもしれない。

数は減っているとはいえ、連邦軍の宇宙拠点であるルナツー空域のコロニーなので油断があつたのだろう。もし、発見したのがシャアでなければ、そのまま引き上げてくれたのかもしれない。

サイド7の住人は、基本的に軍属とその家族か

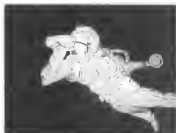


サイド7で使われていた対ザク用の有線ミサイル。ワイヤーで誘導されるので射程は短く、コロニー内では適当な武器。電波妨害の影響を受けない

と思っていたが、難民の個々のエピソードを追うとかなり民間人が多い。偽装として軍関係以外の民間人を移住させていたのだろう。

サイド7そのものには防衛機構がほとんどなかった。ガンダムタイプの実戦配備をしていれば、なんとかなったのかもしれないが、試験機ばかりなのでそこまでの余裕はなかったのだろう。

特筆すべきは、サイド7で連邦が使ったミサイ



ルランチャーである。画面をよく見ると、有線誘導式ミサイルなのが見えるだろう。有線ミサイルを使うというのは、ミノフスキー粒子を使った戦術を考慮しているのである。

ガンダムは最終慣熟テストまで終了している叩き上げの機体であった。アムロが乗り組んだ状態で基本運動の自己学習は終了しているから、あれだけ楽に動かせたのである。教育型コンピュータは、テスト中のパイロットの動きを記憶し蓄積して行く。一通りの動きを覚えた後は、ほとんどオートマチック動作が可能になるのだ。

シャアは士官学校を出て間がないのに、ルウム戦役の戦功で少佐という出世頭である。頭は切れるし、腕は立つから宣伝効果のある軍人であった。ジオン内では、シャアのように武勲を立てたい兵士が出るわけだし、連邦には威圧効果が持てる。しかし、戦場で功績を挙げるのが出世の近道という実例は、ジオンには逆効果だったようだ。

ルナツーは、ある意味では最前線なので、将軍クラスは在申していない。ワッケインは後にソロモンで「お偉方が集まれば私なぞ、あつという間に下っ端だ」とブライトに語っている。たしかにルナツーの司令官としては階級は低い。

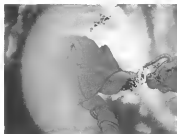
4話放送中は、ルナツーという物にあまり価値

がないように思えたのだが、この小惑星は戦略的には最重要拠点である。まだ地球連邦が、宇宙を支配していた頃に、小惑星ユノーを月軌道に移送したもので、産出する鉱物をほぼ無重力空間で精製する事によりガンダムの素材であるルナチタニウムが作られるのだ。

みかけ上は連邦駐留要塞だが、その内部工場ではGMやボールの量産が始まっている。軍施設というよりは、一時的な生産工場になっていた時期なのでワッケイン少佐が司令官を任命されていたものらしい。

ルナツーの地表に重力があるか？という疑問については問題ない。微小ながらあるのは事実だし、コアファイター・ガンダム・ガンタンクは地球上だけでなく宇宙空間での戦闘も考慮されている。キャタピラーで進むのは、あくまでも補助動力だったと考えるのが通ってものである。

バオロ艦長は、WB初の宇宙葬に付されたのだが、亡くなったのは港に居る時なのでルナツーの上に墓標を建てるというのもよかったような気がする。これは、あくまでも製作側の美的感覚なのだろう。初代艦長の宇宙葬、無限の宇宙に射出されるカプセル。宇宙世紀を舞台にした物語らしい美意識なのだ。



## 第5話

### 大気圏突入

WB艦橋では、大気圏突入を目前にして、室内役のリード中尉がサラミスの大気圏突入カプセルで誘導する確認が終わった。その時、ムサイに接近し補給する船が確認された。シヤアは、大気圏突入時に戦闘をしかけるといふ古今例がない作戦を立てていた。WB側はガンダムを射出し護衛につける。シヤアは、補給を受けたばかりのザク四機を使った攻撃に移った。大気圏突入寸前の戦闘は慣れないアムロやWBのクルーを苦戦させる。バズーカの弾も底をついたアムロは、ガンダムハーマーとバルカン砲のみで必死に応戦する。ザクの攻撃で被弾したサラミスカプセルは、やむなくWBに収容され、シヤアの巧みな攻撃は、WBを苦戦させる。大気圏突入！シヤアはムサイのカプセルに戻るが、残る一機のザクに引き付けられたガンダムはWBに着艦できない。WBとガンダムは大気圏に突入し灼熱の大気に包まれる。

「あった！ 大気圏突入方法が！」

アムロはマニュアルで操作方法を発見し、耐熱フィルムで固一髪切り抜ける。しかし、軌道を変更したWBはジオンの勢力圏内に飛び込んでいた。

## 第6話

### ガルマ出撃す

ジオン軍地球方面司令官ガルマ・ザビのガウ攻撃母にシヤアのカプセルが収容された。

WBでは、リードとブライトの意見が分裂してるところを、敵小型戦闘機ドップに奇襲される。ハヤトとアムロは、ガンタンクでこれを撃退したが、地上部隊の砲撃が始まる。リードの後退命令を無視し、ブライトはWBを前進させながら応戦する。ガルマはWBから発進した戦車が新型MSであると知り、ザクを出撃させる。ドップとマゼラアタックの多面攻撃に、ガンタンクは不利と判断したアムロは、ガンダムに乗り待機する。苦戦するガンタンクを下げ、ガンダム中心の戦いになるが、ジオンはガンダムに集中攻撃を加える。敵の攻撃目標を分散させる為に、ザクに飛びかかったガンダムは、それを陸上部隊に叩き付け、ピームサーベルを有効に使い、WBと連携して敵を撃破する。かろうじて切り抜けたWBであったが、今は山沿いの大陸に沿って進むしかない。敵の占領区域で、抵抗を続ける味方の姿を求めて……。

ガルマは、シヤアがくれた獲物が予想以上の強敵と知り闘志を燃やすのだった。



## 第7話

### コアファイター脱出せよ

目的地の地球連邦軍本部ジャブローと遠く離れ、敵の勢力圏で孤軍奮闘するWB。アムロは、コアファイターを弾道軌道に乗せ、連邦軍本部に連絡をつけることを提案する。カタバルトを改造し、弾道軌道にコアファイター射出したWBの動きを察知したシヤアは、ドレンと二人でコムサイを弾道軌道に打ち上げ迎撃を画策する。WBではそれを察知しコアファイターを呼ぶが、射出時の急加速によって気絶したアムロは応答しない。

アムロが意識を取り戻した時、目前にコムサイが迫っていた。その攻撃を喰したアムロは、軌道変更により再び目的地到着が阻止されたのを知り、不慣れな要員の多いWBは、コアファイターの援護もままならず、アムロは敵の追撃を振り切りWBに戻ってガンダムに換装する。ガウ攻撃空母とドップ編隊に包囲され、アムロはガンダムを自由落下させてシヤアのザクと空中戦を行う。この戦いはシヤアの優位で進み、ガンダムはかろうじてWBに帰投する。シヤアは敵の新型MSの性能に戦慄した。その戦いの最中、地球に到着したのに着陸できないWBの難民たちも騒ぎ始めていた。

## 第8話

### 戦場は荒野

WBは、地形を利用してミノフスキースクリューを張り誘導兵器の攻撃をうけないようにしつつ低空飛行を続けていた。WBが山脈を越えるのを察知したシヤアは待ち伏せ攻撃を検討していた。

難民たちの中に、夫の故郷セントアンジュで子供を育てたいというベルシアがいた。他の難民たちの希望もあり、ブライトは難民を降ろすためにジオン軍に休戦を申し出る。陸戦兵器で待ち伏せしたいジオンはこの条件を呑む。被弾偽装したガンベリィで避難民を運んだ乗員は不時着を装い機体を放棄して脱出する。だがその中にはガンダムが搭載され、アムロとリュウが待機していた。この位置なら敵の背後になる。偵察機ルグンは、脱出乗員の確認をして引き上げる途中、難民と別れた親子の行方が気になりそれを見る途中、ガンダムに撃墜される。WBはガンキャノン、ガンタンクを繰り出し敵の包囲網突破を試みる。ベストタイミングで敵陣の背後から出現したガンダムの援護で作戦は成功し、敵軍は全滅する。負傷した偵察員バムロの手当をするベルシアは、この荒野が一年前に町のあった跡と知らされるのだった。

## 10話～14話のまひる

前半最大の見せ場が大気圏突入である。両軍の突入カプセルを見ただけで、運用形態の違いが理解できる。連邦軍サラミスのカプセルは、兵員輸送用のシャトルでしかないのに、ムサイの突入カプセル「コムサイ」は、MSを最大4機も運搬できるものである。ジオン地球進攻において、小規模な基地や都市ならコムサイ1機でも制圧可能な作りとなっているのだ。

それに対抗して生み出されただけあり、WBは艦体ごと大気圏突入が可能となっている。個々のMSに突入性能が必要かどうかはともかくとしてテレビ版のガンダムに使われる耐熱フィルムは、好きな小道具だ。アメリカのジェミニ宇宙船の大気圏突入カプセルが日本で展示されたのを見て、その黒焦げ状態に驚いたものである。カプセルの底部に貼られた特殊樹脂が摩擦で燃える気化潜熱で、本体が守られるという説明には納得した。

ようするに、中の水が満ちている限りはヤカンの温度は百度を越えないという物で、水が無くなればヤカンに穴があくような理論である。

ともあれ、装甲板の冷却機能と耐熱フィルムだ

けて大気圏突入をするガンダムはカッコいい。同じ条件でクラウンのザクが燃え尽きる描写があるだけに圧巻である。

さて、ガルマと連絡を取ったシャアは「私はザクを8機も失ってしまったよ」と報告している。どうやら、シャアはゲリラ播討作戦に出る時、ムサイにザクを5機搭載していたようだ。その作戦で1機失った報告をドズルにし



最近ではトリコロールカラーと呼ぶが、白いMSの方がビックリくる。このシーンの場合には赤青黄色の三原色ロボットが「耐熱ふいるむー」と叫んだわけではない





ている。サイド7に到着した時は4機保有だ。

偵察任務では、スレンターが侵入口で待機し、デニムとジーンが潜入しガンダムに破壊されている。スレンターはWB出港時にガンダムの戦艦並のビーム砲で破壊されている。

3機の補充を頼むシヤアにはババアが2機しか届けられず、この2機もルナツーの攻防でガンダムのビームサーベルに突かれ、マゼラン排除の爆風でやられて全滅している。

大気圏突入前にソドン巡航艇が3機のザクを曳航してくれたのだが、バルカンで穴だらけにされたのと、ガンダムハンマーの一撃を食らったのと、大気圏突入で燃え付いたので全滅である。

たしかにV作戦に関連してシヤアは8機のザクを失っているのだ。ガンダムと戦い生き残ったザクは全編を通じてシヤアの赤ザクだけであった。

シヤアとガルマの関係は微妙である。おそらくシヤアがガルマの入学時期に合わせて士官学校に潜り込んだものであろう。士官学校でサングラスをしていたわけではないから、ガルマの前では素顔を平気で見せている。地球方面軍司令官といっても実績のないガルマは、まだ大佐である。

地球方面の指揮官はキシリアであるから、なんとか実績を残したいガルマは、シヤアのおたふこ

かしに乗っていくのである。憶測なのだが、シヤアはサビ家の懐に飛び込む為にあらゆる手を駆使しているようだ。案外ドズルにコロニー落としを、ギレンにコロニーレーザーを、キシリアにはニュータイプ戦上を示唆していたのではないだろうか。どちらにしろ、連邦軍V作戦を餌に、ガルマ暗殺を成功させるのだから、たいした手腕である。コアファイターで弾道軌道を取る前には、さすがのアムロも大ウソを付く。パイロット候補生のリュウですらサイド7出港時に「シミュレーションを二度やった」とブライトに答えていた。

リード中尉の部下を納得させる必要から、アムロは、コアファイターの経験を聞かれ「シミュレーションで18時間、訓練で35時間、実戦で2時間です」とスラスラ答えるのだ。考えてみれば、コアファイターとして乗るのは、初めてなのに。

とはいってもメインスチームパイプを接続し直し、これだけの事ができるWBの汎用性は高い。

シヤアのコムサイは、基地のカタパルトから発進するのでシャトル発射程度のGだが、アムロのコアファイターは瞬時の加速で文字通り撃ち出されている。アムロだから意識を失った程度と考えるべきで、普通のパイロットなら命にかかわるようなGが掛かっているのだ。



## 第9話

### 翔べーガンダム

連邦本部と連絡を取ってもらいがあかない状況が続いていた。サイド7を脱出して以来、戦い詰めのアムロは心身ともに疲れていた。WBからバトロールに出たリュウたちは、逆にガウに居所を悟られてしまう。戦闘を拒否するアムロを残しガンタンク、ガンキャノンが出撃する。ブライトに殴られ、反発するアムロだったが「シヤアを越えられる奴だと思っていたが」というブライトの言葉に発奮する。WBは空中部隊の攻撃に満身創痍となり、誰の目にも勝敗が明らかに見えたその時、アムロはジャンプ力とロケットノズルを駆使してガンダムで空中戦を始めた。ガンダムの奇想天外な戦いは、ジオンを萎縮させ戦闘機を軒並み撃破する。ガルマは、ガンダムをおびき出しガウで討たせようとするが、シヤアの細工した無線機の故障で失敗する。ガルマを追撃するアムロの前に連邦軍輸送機が現れ、ガウの待ち伏せを告げた。

ミデア輸送機は、レビル將軍の命で補給にきたマチルダ隊であった。補給の後に、リード中尉と難民の半数を引き取って行くマチルダに、アムロの心はときめくのであった。

## 第10話

### ガルマ散る

ジオン軍地球司令部に占拠されたニューアーク市では市長エッセンバツハが、ジオンを憎みながらも市民の保護を名目に街に留まっていた。

市長の娘、イセリナとの愛を成就させるために、ガルマは功をあせていた。そこに木馬発見の報が届き、機動一個中隊を引き連れ出撃する。

海に逃げたいWBは、敵の出現を感知し、ひとまず雨天野球場の中に姿を隠す。絨毯爆撃の中、姿を表さないWBに焦るガルマ。シヤアは部下のザクを引き連れ探索を買って出る。アムロは単身ガンダムで敵をWBの前におびき出す作戦を開始した。ザクを撃破しつつシヤアからは逃れるガンダムの動きに、シヤアは自分の作戦を便乗させる。

「MSは逃げるぞ、その先に木馬がいるはずだ」

通り過ぎたガウに、WBの全ての砲とガンタンク、ガンキャノンの攻撃が集中する。背後からの攻撃にガウを大破させつつ体当たりをかけるガルマに、シヤアの最後の通信が入る。間一髪WBはガウの爆発から逃れ海に向かう。

ジオン本国にザビ家末弟ガルマ・ザビの死が急報された。デギン公王は衝撃を受けるのだった。



第11話

イセリナ、恋のあと

ジョン公国では、ガルマの冥福を静かに祈りたいデギンと、戦意高揚に結び付けたいギレンが対立していた。愛する者を殺されたイセリナは、WBに復讐を誓い、ガルマの副官ドロタ少尉に、ガウに乗せてくれるよう懇願していた。

もう少しで連邦の制空権内に到着するWBは乱気流の中を飛行する。アムロはビームサーベルが安全装置を外せばジャベリンにもなることを発見していた。連邦からの難民引き取りの連絡が入り、安心するWBに、3機のガウが襲ってきた。

アムロとリュウは、ガンダムとガンキャノンでガウに飛び乗り迎撃を開始する。すでに戦闘機がないジオン軍は、2機のMSに翻弄される。シャアは、戦闘能力に乏しいルッガンで応援に駆けつけ、それでもWBを不時着させる程度に追い込む。

負傷したドロタから操縦桿を受け、イセリナはガンダムにガウを特攻させた。回路故障で動けなくなったガンダムから出たアムロは、自分を仇と叫び死んでいく女性を目の当たりにする。

名も知らぬ女性を葬りながら、アムロは生身の人間に憎まれた事に慄然とした。

第12話

ジオンの脅威

ガルマを守り切れなかった責任を追求されたシャアは左遷され、新たな敵ランバ・ラル部隊が、ドロルの命を受け派遣された。

ガルマの敵討ち部隊として、最新式戦艦ザンジバルと新型MSGフを擁するランバ・ラルは歴戦の勇者としてWBを追撃する。

アムロは、今までの疲れとイセリナの言葉で自閉状態となり戦いを放棄していた。リュウは、そんなアムロをガンダムに乗せ無理やり出撃させた。グフの性能とラルの優れた操縦に翻弄されたアムロは正気に戻り、反撃を開始するが簡単にあらわれて苦戦する。リュウのガンキャノンの援護が入り、ラル隊は戦線を離脱する。新型MSの性能がザクを凌ぐものだった事にアムロは驚愕していた。

戦いの終わったWBクルーは、ガルマの国葬が全世界レベルで中継されたのを見、自分たちが戦っていた相手をいまさながらに実感していた。同じ頃、ギレンの戦意高揚演説の中継を見ていたシャアには、キシリア配下の者が密かに接触していた。

## の話しに話のまとめ

最重要機密でありながら、連邦上層部の誰もが責任を持ちたくない船がWBである。勝って当たり前、負けたら無能という戦力を持ちながら乗員の中に正規人員がひとりもないという扱いのややこしい船なのである。

バオロ艦長は直感で「不幸にして我々より彼の方がうまく使ってくれるのだ」と漏らしたが、それに気がついていている將軍がいた。現場での指揮において大胆にして緻密な作戦を立て、勇猛果敢な戦いをするレビル將軍である。

(放送中は、視聴者はレビルの名演説を知らない。マチルダの登場が増えるに似てレビル將軍への質問が増え、「ジオンに兵無し」の解説がされた)

9話は、内容的には盛りだくさんである。いじけて出撃を拒否するアムロを殴るブライト。

「おやじにも、ぶたれたことないのに」とますます反発するアムロ。これまでのブライトと違うのは、自分で出来ない事をアムロに頼り無理にやらせているという自覚のある点だろう。本音混じりの捨て台詞「それだけの才能があれば、シャアを越えられる奴だと思っていたが、残念だよ」は、

アムロを発奮させる。おまけにフラウがマニユアルを見てガンダムを操縦すると発言するものだから、君には無理だと言いつつアムロは決意する。「くやしけど、僕は男なんだな」と名台詞の爆発だ。人生の縮図である：才能のある若い部下を使おうと思っている管理職は参考にするべきだ。

ここでシャアは偽装工作。絶対に殺すという形ではなく、チャンスがあればという手である。証拠は残さないし、ガルマが死ぬならそれでよし、助かりそうなら先頭を切って助けに行き恩を売るという誠に狡猾な手段をとっている。

単身ガンダムで飛び出したアムロの戦法が凄い。もともと陸戦兵器のガンダムだが、メインバーニアはかなりの推力で超高空からの軟着陸を可能にしている。それにも増してガンダムのジャンプ力は桁違いである。1話を思い出して欲しい、ザクですら、コロニー地表から港まで飛べるのだ。

(地上とは条件が違い上昇する程、推力は不要)身長10倍の高さにジャンプすれば、200メートル上空の航空機と切り結べるのだ。それに感心しつつ着地直後のガンダムが、ショックアブソーバーのリセットと、バーニアの再点火に数秒のロスタイムが必要なのに気がつき、無線解除をしてタンクとキャノンに援護させるブライトも立派





な指揮官である。こんな戦法を使うWBにリード中尉が口を挟めるはずはないのだ。

空中部隊を全滅させたガンダムはガルマの乗る隊長機を追い詰める。ガウの受信機はシャアに細工され、援護は出来ない。ビームサーベルで片翼を切断されたガルマ絶対のピンチ。

「そのモビルスーツ！聞こえるか！山を越える」とガウの餌食になる！ホワイトベースに戻れ！」

深追いするアムロに何でも知っている口ぶりの連邦軍輸送機が呼びかけて来る。レビル將軍が参謀本部とは関係なしにWBへ肩入れしているという大きな伏線をさりげなく残し、マチルダは去る。

9話最大の収穫は、リード中尉以下のサラミス乗員と難民の半数がマチルダに引き取られた事だ。これでWBは名実ともに少年たちの船になり、孤軍奮闘を続けることになるのだから……

お坊ちゃんガルマの貴族趣味と甘さを描きながら仮面の下で牙を剥くシャアを見せつつ、物語は一挙にガルマの死に向かう。

囃として出撃したアムロの勦の冴えに、敏感な視聴者はザワザワし出す。「何だこれ！アムロって普通少年じゃないのか？」そういう枝葉に拘ると大河ドラマを見失うから後でLDをゆっくり見よう。なぜか10話の演出は本質が見えている。



「めだ……いやい……敵は近い」シャアと？機のサクを相手にするアムロの勦の冴えは、敵を撃退する。シャアは気づかぬふりをして、ガルマをおびき出す

ドズル配下のシャアが、木馬追撃の必要から一時的に、地球方面軍キシリアの配下となっているガルマに助太刀をしているという説明は画面で何度かされているのだが、ザビ家の組織図がないと一度ではわかりにくい構図である。ともあれ、ガルマの死により、WBはジオンを撃つての獲物とされてしまったのが12話までの大きな流れといえよう。

## 第13話

### 再会、母よ



WBは太平洋を横断し、日本の山陰地方でしばしその翼を休めていた。アムロは休暇をもらい故郷の実家をコアファイターで尋ねていた。だが、実家には進駐した連邦軍の姿がなく、知人に母が避難民キャンプでボランティアをしていると聞き、ジョン制圧下のキャンプに急行する。

再会したアムロ母子は、思わず言葉を詰まらせ喜びをわからあう。が、ジョン・パトリック兵が、キャンプに現れた。母はアムロをベッドに隠すが、運悪くWBからの通信で呼び出し信号が鳴る。

やむなくアムロはジョン兵を撃つが、カマリアは、そんなアムロを非難するのだった。地球と宇宙に長く別れていた母子の間には埋められない溝ができていた。

WBを発見した偵察機と交戦するアムロのコアファイターに、ガンベリーからガンダムパーツが投下され初の空中ドッキングが成功する。しかし眼下には叩く意味のない基地しかなかった。

WBに残るのを選択したアムロは、母と決別する。遠ざかる息子を、カマリアはくずおれながら見送るしかなかった。

## 第14話

### 時間よ、止まれ

ジョン軍の戦線は拡大しきつていた。パトリックが任務の部隊に所属するクワラン曹長は、若い仲間たちとガンダムを倒す計画を立てる。

WBはミデア機より補給を受け、マチルダはブライトに、少尉任官を告げた。ヨーロッパでの大きな作戦を控える連邦軍には、WBにこれ以上手を回す事はできないのだ。マチルダの姿を目にしたアムロの心は落ち着かない。

若きジョン兵たちは、基地に一機しかないザクを使い、帰還するミデア輸送機を攻撃した。

マチルダを援護しようとして出撃したガンダムに、クワランたちは、小型攻撃機ワッパに乗り時限爆弾を貼りつける。盾の爆薬が偶然爆発した事で、それに気づいたアムロは、いつ爆発するともわからぬ時限爆弾をひとり外し始める。それを遠くから見ていたクワランたちは、時間との孤独な戦いをするアムロに、命懸けなのは自分たちだけではない事を知らされ妙な連帯感を覚える。

間一髪で爆弾を処理したアムロの顔を見たさに、青年団に化けて通り過ぎるクワラン達。ブライトとミライは真相に気づき苦笑いする。





第15話

ククルス・ドアン島



13話〜15話のまとめ

話数調整用のインターミッシェン的な話がこの3本なのだが、名作・佳作が生まれてしまうのだからわからないものだ。ガルマの死までの区切りと、中央アジアからオデッサまでの区切りの中間に入る、放送順序変更可能な作品として製作されたものと聞いている。

13話は、名作中の名作とされ、劇場Iではカマリア役を倍賞千恵子が声を担当した。

母と子の別れといいつつ、そのシーンではカマリアの後方のバンで待つ「母の恋人」がしっかりと描かれているシビアな話だ。

14話も戦士の日常を描いた小粋な作品。ジオン兵たちが、使える物は創意工夫して戦っている様子が描かれている。この話があるから、マゼラベースとザクを合体させたザクタンクをみても違和感なく納得できたのである。

アムロがひとりでガンダムの腕の下で爆弾を掘り出す際に、あの冷静なブライトを先頭に待機していた仲間たちが走り出し、それを見守るジオン兵士までもがハラハラする様子は圧巻である。ラストシーンも心に余韻の残る作品だ。

君は生きのびることができるか?

## 第16話

### セイラ出撃

中国大陸の砂漠地帯に入ったWBに連邦軍からの伝令が届く。「オデッサ・デイは5日後の予定、それまでにWBはカスピ海を渡れ」

ブライトは、この時に初めて作戦内容がキシリア配下のマ・クベの主力部隊を叩く事を知る。

先の戦いで食糧庫の塩を失ったWBは、塩を得る必要からロブ湖に向かう。マ・クベの占領地帯では、ドズル配下のラル隊は勝手に動く事ができず、協力もない。それでも、マ・クベはラルにWBの現在位置を報告する。

ラルのギャロップが襲撃してくる。アムロが発進しようとした時、すでにセイラがガンダムで発進していた。接近する敵影がひとつと知り、シャアの姿を求め出撃するセイラを、実戦のGが襲う。シミュレーションと実戦との大きな差に、セイラは手も足も出ずガンダムは動きを止められていく。ガンキャノンで出撃したアムロは、かろうじてセイラを救いザクパイロットのコズンを捕虜にした。コズンにシャアのことを密かに聞き、兄の無事を知って安堵するセイラ。WBはロブ湖に到着し、塩不足の不安は消える。

## 第17話

### アムロ脱走

ジオンの探掘基地を叩くためにブライトはアムロにガンダムでの発進を命令する。だが何でもガンダムを使うという運用に疑問を持つアムロは、命令を無視しガンタンクで出撃した。

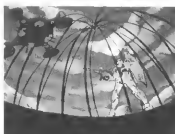
WBではコズンが脱走を企てるが、セイラに見えられてしまう。コズンはラルへ情報を送った後に爆発に巻き込まれて死亡する。

基地制圧はガンタンクで成功した。だが、そこにラル隊からの襲撃があり、アムロはガンダムに換装して辛うじて撃退する。

兵士には作戦全体を見通すことはできないとブライトに叱責されたアムロは不満であった。さらにコンピュータシミュレーション以上の能力を持つクフも気になる。その夜、シミュレーターで昼間の戦況を検討しているアムロの耳に、ミライに相談するブライトの声が飛び込む。アムロは不適格だからガンダムのパイロットを降ろすと……

アムロはショックを受け、フラウにWBを降りると告げ、ガンダムに乗ってWBから夜空に発進して行く。闇に消えるガンダムを見てブライトは呆然とするしかなかった。





第18話

灼熱のアッサム・リーダー

キシリアは、月面基地グラナダを離れ地球にいた。両車にとって最重要である鉱山施設を管理するマ・クベのもとを訪れていたのだ。

WBを脱走し、砂漠をさすらうアムロをフラウはバギーで探索し説得するが、うまくいかない。

アムロは、ガンダムの聴音機能でマ・クベとキシリアの会話を盗聴し、目前の鉱山基地をオデッサ・デイの目標と勘違いする。フラウをWBに帰し、単身基地攻撃を敢行したアムロであったが、キシリアの乗る移動砲台アッサムリーダーに苦戦する。電磁波の檻に閉じ込められ、四千度にも過熱されるガンダム。しかし、大気圏突入能力を使い高熱に耐えたガンダムは反撃に移る。

噂以上の連邦MSの性能を知ったキシリアは機密保持の為に鉱山基地を自爆させる。

アムロは爆破された基地の資料を漁り、無数にある鉱山基地のひとつ、第102探掘基地を相手にしていただけと知り愕然とする。

フラウの連絡で駆けつけたWBは、基地破壊の凄さに驚くと同時に、これが目標とする基地ではないのに気がついていた。

第19話

ランバ・ラル特攻！

戦場をさまようアムロは、ソドンの町のレストランで、ラルと出会いハモンに食事をおごられかけるが、そこへフラウがラル隊の兵士に連行されてきた。ラルは目指すWBの所在を知るため、二人を解放しゼイガンに後を付けさせる。強情に戻ろうとしないアムロを残し、フラウはWBに帰艦し報告する。ラルのグフと部下のザクがゼイガンの暗号を受けて攻撃を開始し、ガンタンクのキャタピラーが破損する。ハヤトはタンクの上を強制排除し、リュウはコア・ファイターでアムロに援助を求める。アムロが、ギャロップに攻撃を始めた時にリュウが飛来する。WBに向かうアムロ。ミライは巧みな操艦でザクを吹き飛ばし、WBに飛び乗ったグフを背面飛行で落下させる。グフとの戦いは、ガンダムのビームを巧みにかわし、盾を切りさくグフが有利に進む。アムロはなんとかグフを大破させるが、切り裂かれたコックピット越しに見たグフのバイロットがラルだと知り愕然とする。ラルはグフを捨て逃走した。

WBに戻り、独房に入れられたアムロの脳裏にラルの言葉がこだまする。

死は生きることかできるか？

## 16話〜19話のまとめ

中央アジアに入ったWBには明確な目標が与えられる。オデッサ作戦への参加である。今までは敵軍から逃げ延びるのが任務だったWBが、参謀本部からではないにしろ実力のある將軍から直接的に依頼されるのだからたいした出世である。

視聴者としても、戦争の全体状況が見えてくるブロックでもある。地球進攻作戦でヨーロッパの鉱山地帯を占拠したジオン軍。この物資が今大戦の勝敗を握る戦略物資であるのがあかされる。

地球進攻の責任者はキシリアで、その直属の部下・クベは、キシリア以外のサビ家にはその物資の量を知られたくないという思惑もある。ようするに戦争終了後は、サビ家内の権力争いが待っているという図式である。

戦力を立て直した連邦軍は、鉱山地帯のジオンを一掃する大作戦を立てているのだが、これがなかなか進まない。そういう戦略の中で、WBは航行中なのである。

セイラは、兄がジオンに身を寄せているのを確信し、その消息を知る為にガンダムを勝手に運用する。これが後に正式パイロットへの道を開くわ

けだが、その戦いの最中にジオンの娘という出生がチラリと出る。ではジオンの息子シャアがなぜサビ家に接触しているのか？という謎も提起され大河ドラマのうねりが始まる。

そして主人公のアムロは、必死の戦闘をし成果も見せているという自負を碎かれ、ガンダムに乗って脱走してしまうわけである。

さらにドズルが派遣したランバ・ラル隊の微妙な動き。地球に来るまでは、ドズルの新鋭部隊でありながら、到着すると情報を知られたくないマ・クベの思惑で補給も満足に受けられずゲリラ戦しかできはしない。ラルの父、ジンバ・ラルはジオン・ダイクンに仕え、ダイクンの死後幼い兄妹を地球に逃亡させた忠臣であった。こうやってまとめて書くとも簡単だが、これらの情報が細切れなのだから一話たりとも見逃せない緊迫感のあるテレビシリーズである。

生身でランバ・ラルと出会ったアムロは大きく成長してWBに戻って来る。戦争は個人の都合なぞ関係なしに動いているのを実感し、甘えを捨てた感もあるが、どうしてジオンの兵士はこれだけ魅力的に描かれるのだろう。全編を通じてWBをこれだけの窮地に追い込んだ敵は彼しかないといえるだろう。





考えてみると凄いシーンである。アッザムの操縦をしているのはマ・クベであり、横に座るのはキシリアである。ガンダムから逃れただけでもたいした膽だろ

もうひとつ忘れてはならないのはWBのジオン軍に対する脅威度である。たしかに連邦軍の最高機密V作戦の兵器だが、シャアの攻撃がごとごとく失敗し、ガルマまでもが戦死するという事態を招いて、ジオンに十分に注目されている。

さらに、第102探掘基地でキシリアとマ・クベの乗る移動砲台アッザムとガンダムが戦った事は以後のジオンのMS開発を加速させるのである。

アッザムは、ほとんどMA的な兵器であったし、それがガンダムに通用しなかった事でキシリアは、実験中のMSを実戦配備で試験するように命令を下した。実際にガンダムと戦闘を経験した幹部は、この二人だけなのだから報告で聞く強さと、実際の強さでは衝撃が違う。キシリアの命令一下、各種のMSが続々と出現する事になるのだ。

レビル將軍としては、少しは戦力になろうと考えていたWBが、ジオンに注目されるのは予想外だったのかもしれない。

連邦の木馬を止めるために、少なからずジオンの注意が本隊から逸れてくれるのだから。実際にオデッサ作戦は、敵に内通するスパイにより遅れていたが、WBがオデッサに接近する程に敵を引き付けてくれるのだから、こんなにありがたい遊撃隊はなかったらう。

ラルのグフはMSとしては進化の袋小路である。両手で武器を持ち替えられるという利点を失っているからだ。ラルの操縦技量はアムロをはるかに凌いでいたのだが、性能差でガンダムに負けた。

だが、ビームサーベルではなくガンダムの手首を止めるとか、ライフル発射の一瞬间に軸線をずらす戦いは称賛に値するだろう。アムロがパイロットに苦戦するのは二人目であった。

第20話

死闘！ホワイト・ベース



アムロが戻り、指揮官として安堵するブライト。しかしWBの中では、少年たちの不満が渦巻いていた。ついに、ハワード、マクシミリアン、カイ、ハヤトが、オフロードカーで艦を出て行った。リュウは、バギーで後を追う、四人を説得する。が、その時ランバ・ラルの攻撃が始まってしまふ。補給のドムを、マ・クベに握りつぶされたとも知らず、ラルは手持ちの武器でWBに急襲をかけたのだ。脱走した少年たちもWBにひきかえす。WBでは、セイラにガンダム発進を命じた。後方より突撃戦車キュイで接近したラルは、船内に突入する。セイラはガンダムの操縦をアムロと交替し、船に戻るがそこでラルと再会する。父シンバ・ラルに連れられた幼少の頃のセイラ、いやアルテイシア姫を知るラルは動揺し、被弾する。作戦の失敗を悟ったラルは、兵を追却せると自らWBの船外に身を躍らせ自爆した。ギャロップの中で、ハモンはラルの壮絶な最期を知らされた。WBの被害は甚大であった。この死闘の中、リュウが敵の凶弾に倒れ少年たちの間には沈痛な空気が流れる。

第21話

激闘は憎しみ深く

ラルは死んだが、夫の遺志をついで、ハモンはWBの追撃を続けていた。マ・クベは鉾山の実態をドズルの配下に知られたくないので好意的ではない。少ない物資で作戦を行なう必要から、ザクにマゼラ・トップの砲を持たせ、カーゴにギャロップのエンジンを付けるという苦肉の策でタチ中尉を副官に攻撃を開始した。

一方のWBも物資が尽きかけ、アムロは独房に入れられたままだ。ハモンの攻撃にタンクとキャノンが出るが苦戦する。重体のリュウの必死の説得に、ブライトはアムロの出撃を認め、整備中のガンダムで出撃させる。ガンタンクは整備不良で動かなくなる。リュウは必死でタンクに走る…。爆薬を満載しWBに突進するカーゴを止めようとするガンダムに、空中を飛ぶハモンのマゼラ・トップが砲を向ける。至近距離ではガンダムは大破する。危機一髪、コアファイターがマゼラ・トップに体当たりし自爆。ガンダムとWBは救われる。帰艦したアムロはコアファイターのパイロットが、リュウと知り返す。WBクルーは心の支えを失ったのである。



第22話

マ・クベ包囲網を破れ!

WBは、中央アジアをヨーロッパへ直進していた。だが、マ・クベの部隊との交戦中にブライトは過労に倒れる。マ・クベはWBによる被害の拡大に業をにやし、自らの手を下すことを決意する。さらにマ・クベは連邦軍内部に送り込まれたスパイ、エルラン中将の部下ジュダックに、東ヨーロッパの連邦軍の動きを極力おさえるよう命じた。マ・クベの作戦により、金属装備を外し、探知不能になった工作兵によって、ECM発信機とミノフスキー粒子射出口を破壊されたWBは、敵探知に無防備になる。そこへ戦闘機が襲来するが、ミライはハヤトとアムロをコアファイターで発達させた。不慣れたミライの指示に苦戦を強いられるが、空中換装を成功したアムロはガンダムでドップを叩く。レーダーを残されたWBは、敵陣の薄い場所を突破しようとして、マ・クベのメガ粒子砲のワナにかかる。エンジンを大破し、飛行不能になったWBは、マーカーの機転で擬装爆破し、その場はしのいだ。WBは指揮官もなく飛ぶ事もできない。ミライはレビル將軍に暗号電文で救援を求めるしかできなかった。

第23話

マチルダ救出作戦

レビル將軍は、マチルダにWBの修理及びガンダム用新パーツの補給を命じた。敵の内通者エルラン中将は、レビルのWB加担が気になりマ・クベにそれを知らせる。マ・クベはクリンク中尉にマチルダの補給部隊を襲う命令を出す。WBに急行するミデア輸送隊からのSOSに、WBからはコアファイターと、ガンベリが発進し、地上をカイのキャノンが走る。ドダイに乗り飛行するグフに、アムロは、ガンダムに換装して立ち向かうが、苦戦を強いられる。ガンダムの危機を見たマチルダはミデアを着陸させ、Gパーツを引き出す。ハヤトは、Gファイターに乗ると、脚部故障を起こしパワーの下がつたガンダムを乗せて空中に舞い上がった。桁違いの機動力を得たガンダムは、空中戦闘をこなし、マチルダ隊を救出した。ミデア輸送隊の補給を受けたWBでは、急ピッチで大破したエンジンの修理が進む。マチルダが届けてくれたガンダムパワーアップメカ「Gパーツ」の到着により、グフとも互角に戦えるめどもついた。だが、ブライトは依然病の床にあった。

君は生きのびることができるか?

## 20話〜23話のまとめ

サイド7以来の戦いでWBも限界なら、少年たちも限界点まで疲れていた。なんとかアムロが戻り、指揮官として安堵するブライトだが、逆にパイロットとして優遇されてきたアムロへの不満から集団脱走事件まで発生する。

そこへ、補給も情報もともに与えられなくとも、戦士としての気概を持つランバ・ラルが攻撃を仕掛けてくるのだからWBが生き残れるはずはなかったのである。

普通の軍艦なら船内に乗り込み肉薄したラル隊に全滅していたかもしれない状況だが、ラル隊を戸惑わせたのは子供と少年少女しかないWBの異常な状況だった。さらに指揮官のラルは、主筋にあたる姫君に銃を突き付け、叱責された事で戦いを一瞬忘れる。極限状態のサバイバルに少年たちの心は結束したかに見えたのだが、その求心力のリュウが敵弾に倒れ暗い空気が流れる。

ラルの遺志を継ぎ、生き残りとはモンはWBに最後の攻撃を仕掛ける。生還を期せずという敵の猛攻に絶対絶命のWBを救ったのは、これもまた自分の命を武器としたリュウの攻撃である。

大きな犠牲を払い、当面の敵も倒したWBは、ヨーロッパへ向かうが、今度はあまりの過労に指揮官のブライトが倒れる。

さらにマ・クベ自らが、WBに攻撃を始めた。知将マ・クベの作戦は、指揮官のいないWBを陥れるのは簡単であった。WBを撃破しようとするから逆襲されるのである。航行不能にしてオデッサに参加させなければそれで済む。狙い通り、WB



肉体的にも心理的にも限界だったブライトは倒れてしまう。倒れた事で、ブライトがどれだけ優秀な指揮官だったのかを視聴者が知るのはいくらもの



は民にはまり、エンジンを破損して立ち往生した。

ブライトならば自力で切り抜けたかもしれない状況を、ミライはレビル將軍に救援を求めるといって暴挙に出た。ところがレビル將軍は、考えが違ってマチルダ隊を救援に発進させるのである。將軍としては、敵をこれだけ引き付けてくれる

WBに戦略的な価値を見い出したのであろう。

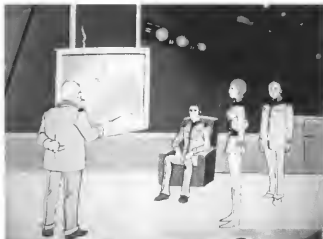
オデッサ作戦寸前の最終局面でありながら、わざわざマチルダに「WBの修理」と「ガンダムのパワーアップパーツを届ける」を命令する。

この話を横で聞いているジオンのスパイ、エルラン中将は仰天する。レビル將軍がそこまでWBに肩入れするのが理解できないのである。WB単体で背後からジオン軍を襲ってみたいとした脅威ではあるまい。にもかかわらず、この差し迫った局面で補給部隊を出そうというのだ。

その知らせを聞いたマ・クベは、またもWBに過大評価を下し、補給に向かうミデア輸送機に、貴重な戦力を割いてしまう。

結果的には、ミデアを守りに出撃したガンダム、ガンキャノンが苦戦し、マチルダが届けたGパーツの運用でガンダムが大活躍してしまう。

補給を受けたWBでは、派遣された技術者たちが急ピッチでエンジンの修理を開始した。



レビル將軍を囲む、補給部隊のマチルダと、連邦軍中将でありながらスパイのエルラン、そしてジオンとの連絡役のジュダックという深い横関。作戦開拓中である

ここに至り、ジオン軍はレビル將軍の秘密兵器としてWBを認識する。軍艦一隻とMS3機で戦局が変化するわけではないのだが、戦功以上の噂が広がったからかもしれない。

「木馬と白いモビルスーツはマ・クベですら恐れる無敵の部隊である」

それを見越して、WBに援助していたのだとすれば、レビル將軍の先見の明というべきか。

## 第24話

### 迫撃！トリプル・ドム

キシリアは、新型MSの配備を急ぐように部下の将官を叱咤激励していた。直風の部下黒い三連星に重MSドムを渡しマ・クベの下へ派遣した。

その頃、レビル將軍はオデッサ作戦の進行の遅れにいら立っていた。セキ技術大佐の指揮の下、WBの修理は進む。しばしの間のマチルダを身近に感じる生活に、アムロの心は弾む。そんな時、黒い三連星のドムがWBを襲う。

Gメカをセイラが操縦し、ガンダムを収納して発進するが、重MSドムの素早い動きに苦戦する。修理が終わったWBであったが、エンジン異常が発見され、まだ発進できない。アムロはGメカと分離してドムに向かうが、ドムは三位一体のジェットストリーム・アタックをかけて来る。一度は躲したアムロだが、二度目はピンチに陥る。

その時マチルダのミデアが動けないWBに代わってドムに特攻をかけて来た。ドムに叩き潰されるミデア、アムロはその隙に一機のドムを倒す。

WBの戦線復帰を知り、レビル將軍は2時間後のオデッサ作戦開始を命じた。そのWBでは、マチルダの戦死にクルーが悲しみに浸っていた。

## 第25話

### オデッサの激戦

オデッサ作戦は開始されていた。マチルダ隊の犠牲によってWBは戦線に復帰した。その悲しみを振り払い、アムロはセイラとGアーマーで出撃する。ジオンの前線から飛び立つ連邦の連絡機を発見したアムロ達は、それがエルランのビッグトレイに着陸したのを見届ける。エルランはマ・クベより、オデッサ作戦開始と同時に裏切れとの指令を受けていた。アムロの動きによって、エルランの裏切りが発覚し、レビル軍のみに戦力を集中していたマ・クベ軍は危機に追い込まれる。

マ・クベは連邦軍が連撃をやめなければ、南極条約で禁止されている水爆ミサイルを使うとレビルを脅すが、將軍は屈せず連邦は連撃する。

二機の水爆ミサイルが発射された。ミサイルを使用不能にすべく、Gスカイに乗ったガンダムが急行するが、ドムがその行く手を阻む。アムロは、からくもミサイルを撃破しドムも破る。オデッサ作戦は連邦の勝利に終わり、マ・クベはザンジバルで宇宙に逃亡した。WBの少年たちは、ここに親しくレビル將軍と会見した。





## 24話と25話のまとめ

WBに両軍が関心を持ち、オデッサの火蓋を切るきっかけは、まさにWBであった。

ガンダムの脅威に新型MSの配備を急ぐキシリアは、黒い三連星に新鋭の重MSを渡しマ・クベの下へ派遣する。マ・クベは、当然ながらこの部隊をWB討伐に派遣した。

マクルダの派遣したセキ技術大佐一行は、完全に停止したWBのエンジンを不眠不休で修理するのだから頭が下がる。

援軍到来と安堵するWB一行だが、母艦が動けないのだからMS戦しかできない状況である。

修理は完了したかに思えたが、細部調整の終わらないWBに三機のドムが襲撃を加える。苦戦するアムロを援護したミデアにはマクルダが……。

航行を開始したWBでは、少年たちがマクルダの死を悼み慟哭する。一方WBの戦線復帰を知ったレビル將軍は、2時間後にオデッサ作戦を開始すると全軍に命令を下した。そんなにWBは重要だったのか少々疑問である。

なぜなら、オデッサ作戦が始まった後もWBは戦闘をせずに前線に進攻している最中だったのだ。

もっとも、そういう無任所的な扱いであったからこそアムロとセイラが慣熟飛行中にジエダックのスパイ行為を摘発し、マ・クベは窮地に追い込まれたのである。ガンダムの水爆ミサイル一刀両断で戦いは幕を閉じた。

オデッサの戦いの後、レビル將軍はわざわざWBの少年たちと会見してくれるのだから、かなり評価してくれていたのだろう。



WBの原子力エンジン。セキ技術大佐らの必死の修理で航行可能となるのだが、地球到着以来、本来の力を発揮した事がないという非運のエンジンであった

## 第26話

### 復活のシヤア

ジョン軍の女スパイ・ミハルは、自分の家の上空を通過する連邦の戦艦を発見し、すぐさま情報収集艦に連絡を送った。その戦艦こそ、オデッサで破損した部分を仮修理する必要から北アイルランド補給基地ベルファストに向かうWBだった。海底に潜むマッド・アングラーで、その情報を受け取ったのはキシリア配下の潜水艦隊に転属されたシヤア大佐であった。一方、基地ではレビル将軍が、WBを正規軍にすると告げていた。

シヤアの命令を受けたゴッグの攻撃にアムロはガンダムで出るが、敵の装甲は厚く歯が立たない。一度合体したアムロはGプルを使って、一機のゴッグを倒すが、残った敵は海中へ逃げる。

アムロはGパーツからガンダムを分離させ、海中へ追跡するが、敵の動きは予想外にすばやく、苦戦を強いられる。水中戦をサーベルで逆転したガンダムは基地へ帰還する。

高速連絡ボート、シーランスで新型潜水艦ユーコンに乗り移ったシヤアは、ゴッグが二機ともガンダムに倒された報告を聞き、自分の手で倒す楽しみをブーンに語るのだった。

## 第27話

### 女スパイ潜入!

アムロたちは、ベルファストでWBの問題点について、討議していた。レビル将軍の話では、エンジンの修理が終わった後、WBは南米のジャブローに移動することになる。カイは、そんなクルーをよそに軍人にされるのを嫌いWBを出て行く。カイは軍港の街で、物売りをしているミハルに声をかけられる。小さな弟と妹の面倒をみながら暮している彼女に同情し、WBの情報を流すカイ。

シヤアは、攻撃を失敗する事も考慮してスパイ107号ミハルを、WBに潜入させるよう指令を出す。コノリーが連絡員としてミハルに接触し、金貨と連邦軍の制服を手渡した。

WBの足をとめるべく、ズゴッグが基地攻撃を開始した。ガンダムとGスカイ、それにハヤトのキャノンが出て戦闘が始まる。自分には関係ないと思いつつ、カイはWBが気になり、基地へ戻ると、修理の終わったタンクで出撃する。

ガンダムに追われ、海上へ飛びあがったズゴッグにガンタンのキャノンが吠える。カイはWBにしか居場所がなかったのだ。その夜、WBが出港した、ひとりの女スパイを乗せて。



第28話

大西洋、血に染めて

北アイルランドのベルファスト基地を後にしたWBだったが、艦内にはミハルが潜入していた。

ブライトを呼びに行ったカイは、そこでミハルを発見し、すべてを察して自分の部屋へかくまった。アムロにそれ見られてしまい、恋人だといってごまかすカイ。カイの「南米で降ろす」というその言葉に、ミハルはWBの目的地を知った。

一方、ミハルと接触すべく、ブーンはベルデ諸島の漁業組合の飛行機でWBに不時着する。トイレの中からミハルと連絡をとったブーンは、目的を達してWBを飛び去る。

シャアにWBの目的地を報告し、ブーンはMAグラブでWBを攻撃に出撃する。敵の正体がわからないまま、セイラとアムロはGアーマーで出撃する。グラブを発見したアムロは、ガンダムで水中に降りるが、高速機動のグラブに捕まり、ケタ違いのパワーに片足を失う。だが、それが幸いして自由になれサーベルでグラブを倒す。

対潜ミサイルを搭載したガンベリーで出撃したカイとミハルも、ズゴックを倒すが、発射のあとでミハルは宙に舞い若い命を散らすのだった。

第29話

ジャブローに散る！

ミハルを失った悲しみに、カイの心は重く沈んでいた。そんなカイを乗せ、WBは南米にある連邦軍本部ジャブローへ到着する。

ドッグ入りしたWBを待っていた修理担当官ウッディ大尉は、あのマサルダの婚約者だった。

一方、北米キャリフォルニア基地の援軍と共にシャアは、ジャブローを攻撃を開始する。

WBクルーは身体検査を終え、ティアンム艦隊への配属を文官から通達されていた。

シャアは自らズゴックで潜入しWBを狙うが、マサルダが命をかけて守ったWBを死守すべく、ウッディはファンファンで出撃する。

たやすくGMを倒した赤いズゴックを見た時、アムロはそれがシャアであることを確信する。アムロの制止をきかず攻撃をかけたウッディはシャアに叩き落とされた。しかしその攻撃でシャアも単眼をやられ退却する。

アムロが援護のゾックを倒した時、すでにシャアの姿はジャブローから消えていた。

「シャアが帰って来ました」アムロの報告に、セイラはコップを取り落とす。

誰は生きのびることができるか？

## 26話〜29話のまとめ

連邦軍のキャリアフォルニアベースを占拠したジオン軍は、最新鋭潜水艦を入手すると同時に、この8ヶ月の間に新型潜水艦すら建造していた。

そのマッド・アングラーで、WBがベルファスト入港の情報を受け取ったのは、ドズルに解任された後に、キシリア配下に転属されたシヤア大佐である。このあたりのザビ家内部での抗争がなかなかシビアである。

ジオン軍はヨーロッパ戦線から大幅に退却し、地上部隊は残り少なくなっている。まだ戦力として使えるのはアフリカ戦線と、潜水艦部隊くらいしかないのである。

レビル將軍は、WBを正規軍に任命し、拒否すれば軍機密の無断使用という懲罰をほのめかすが本気ではない。それが証拠にカイは何の咎めも受けず一種の除隊ができているのだから。

アムロが、アッザムと戦ってからその日数が経過しているわけではないが、キシリアの大量生産、試作品に近いMS、MAが大量生産、大量配備に入ったようで、レビル將軍の手下にもジオンの新型MSのデータが届くようになっていた。

「ガンダム一機が呼び水になった」

と、レビル將軍は戦いの趨勢はMS戦に移った事を素直に認めている。老將軍の目にも戦いの変質は見えていたのだろう。だからこそ、実験中のGパーツをWBに届けさせ実験をさせたのだ。

なにしろ、アムロはここで始めてGパーツの運用解釈を將軍にしているくらいである。支援戦闘機Gファイターと、ガンダムの組み合わせでこれだけ多様な運用をできるとは設計者も知らなかったのかもしれない。GブルとGスカイまでは基本形なのだろうが、そのイージタイプやコアファイターを別運用する事で、かなり変化させられるのである。この実験は、その後に宇宙に出ても続けられている。

WBは外装の修理もされ、南米の地球連邦軍本部ジャブローに移動することになるのだが、本来ルナツーを出港し、大気圏突入をした目的が、ジャブローである。ほぼ地球を一周するという回り道をした事になる。

このブロックでの主役はカイかもしれない。WBを出るカイの心情は納得できるものだし、その時のアムロとのやりとりは秀逸だ。

「カイさん、僕はあなたの全部が好きというわけではありません。でも、今日まで一緒にやってき





WBがジャブローに入港したら結婚式をあげる予定だったと聞き、アムロの脳裏に浮かんだイメージ。アムロの心象風景だけあり細部まで鮮明なのだが...

た仲間じゃないですか!」

身ひとつで飛び出すカイに、サイド7出港以来愛用していた工具箱を渡すアムロ。

結局はWBが気になり、戻って来てしまったカイはその照れ臭さを隠すように工具箱を出す。

「よっ!アムロのこの工具、一銭にもならねえつてよ」

いいですねえ。こういう台詞回しのある回は星

山さんのシナリオと判るのもガンダムの魅力。

オデッサ作戦以後、アムロも性格が変わったよう

うで、カイが自分の部屋にミハルをかくまうあたりでも、アムロとの掛け合いがいつもと違う。

「恋人さんですか」

「ハハハッ、そんなところかね、南米で降ろすからさ、みんなにや内緒だぜ」

「え、ええ、僕は何も見ていませんから……」

と、これだけ盛り上がりつつおいてのミハルのあつけない死なのである。カイが大きく成長するのは当然なのかもしれない。

WBは、念願の?ジャブローに到着する。

宇宙ドッグ入りしたWBを待っていたのは、マチルダの婚約者ウッディ大尉である。オデッサ作戦終了後にマチルダと結婚するつもりだったと聞きアムロは言葉を失う。

戦いの中にあつて、補給隊だけがものを生み出すといったマチルダ。そのマチルダが命をかけて守ったWBは、ウッディ大尉にとっても愛すべき存在であった。だからこそ、ズゴックで潜入してWBを狙うシヤアに非力なファンファンで立ち向かったのだ。そんな武器で倒されるシヤアではない。しかし、ファンファンを破壊しながら単眼をやられシヤアは撤収する。ウッディの執念だ。

第30話

小さな防衛線



ジャブロー攻略戦から撤退したジオン軍であったが、シャアは再び工作員を潜入させ、GMの工場とWBの破壊を企てていた。

一方WBは、編成は現行のままでティアンム艦隊所属の第十三独立部隊に編入され、アムロたちは、連邦軍より正式な階級が言い渡された。思わぬせぶりなりユウの二階級特進発言にアムロは反発し、武官に殴られる。

一方育児室に連れて行かれたカツ・レツ・キツカは、WBが恋しくなつて脱走し工場へ逃げ込む三人組は、運悪くシャアの仕事員と遭遇し、縛られてしまう。三人組はなんとか抜け出し、GMに仕掛けられた爆弾を残らず発見し、エレカーに積んで逃げる。探しに来たアムロたちは、三人組をエレカーから助けだし、制限爆弾は地下深くで爆発する。その頃三人組を探しに出たセイラは、シャアと出会い、軍から身を引くように諭されていたが、ミライの撃った銃声でシャアは去る。

シャアは、工作員の失敗を知ってジャブローからアッガイで脱出した。育児官のはからいもありカツ・レツ・キツカはWBに残る事となる。

第31話

ザンジバル、追撃!

第十三独立部隊、それがWBに与えられた名称だった。だが、固専門を意味するものである。

主力のティアンム艦隊発進の2時間前に、WBは補充要員のスレッガー中尉を乗せジャブローを発進する。シャアは、MAビグロの実戦テストの待機中だったザンジバルを接収し、これを追跡する。地上発進が可能なジオン最新鋭戦艦である。

WBが月に向かってるのは固作戦と気が付いたシャアであったが、転進すればWBの餌食になると判断。そのまま、戦艦に突入する。宇宙用に変化したリック・ドムとMAビグロがザンジバルから出撃する。それに対しGスカイとGブルーイージーが出るが、ビグロはあまりにも高速である。

WBは百八十度回頭し、ザンジバルと対決する。地球引力に引かれるセイラのGアーマーにドッキング後、Gファイターとガンダムに分離し、高機動MAビグロに取り付く。艦隊戦は、新隊員スレッガーの主砲がザンジバルを小破させ、アムロもビグロを倒すのに成功する。クルーは、今の戦いで、ザンジバルにシャアが居るのを確信した。



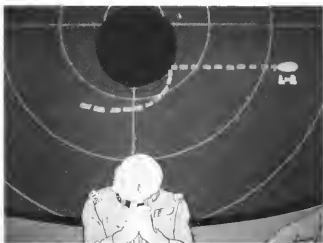
## 30話と31話のまとめ

ジャブローでは、ガンダムの生産型MSジムが量産されていた。ガンダムはあくまでも試作機であり工業力に優れた連邦軍といえども量産するには無理がある。後の歴史では、ガンダムから派生したMSはGMだけではないのだが、ひとまず、ここではGMの話題に限定しよう。

ザクと同等程度だとしても、GMの量産は意義のある事である。宇宙戦艦しか持たない連邦の艦隊に、頭数だけでもMSが搭載されれば、戦力的にジオンを圧倒できるのである。

同時期にルナツーでも量産されているはずなのだが、ジャブロー製GMは「これまでのガンダムが戦ったケーススタディ」が移植されるのだから性能が違う。4話のガンダムをコピーするのと、30話のガンダムをコピーしたくらいの性能差なのである。シャアがこのMSを狙うのは当然だろう。カズ・レツ・キッカ三人組の活躍がなければジャブロー製のGMは作戦に間に合わなかったのである。ちなみに、縄を食いちぎるまではやれても「特殊工作員の仕掛けた爆弾」を三人組が全て取り外していた事に注目である。

WBは第十三独立部隊として編成される。固専門である。ルナツーに向かう本隊の二時間前に別の軌道を取りジオンの追撃を受けてくれという意味である。オデッサを逆転勝利に導いたと思っっているジオン軍にとっては大きな喪物である。その時点で地球にある最高性能のザンギバルを使い、シャアはWBを追撃して、まんまとこの作戦に引っ掛かってしまったわけである。



ゴッパ提督の提案図。ルナツーに向かう本隊の二時間前に出発して、衛星軌道を迂に運行してソロモンで合流せよ。ほとんど発見しという作戦命令である

第32話

強行突破作戦



シャアの許可を得ず試験前に放棄されたMAザクレロが発進した。それに対し、ハヤトがガンタムで出るが、スピードの違いに苦戦する。

アムロは、Gパーツをはいた変形ガンダムで出撃しこれを撃墜する。一方シャアは、ドレンの指揮するキャメル艦隊と連絡をとり、WBを挟み撃ちにする計画を立てていた。

かつてのシャアの副官ドレンは、シャアの戦法を真似ムサイ3艦、リックドム6機を展開し、WBを迎え撃つ。ブライトは、ザンジバルに迫り着ければ勝ち目はないと判断し、WBの全武装、全MSを出しキャメル艦隊の強硬突破を試みる。

宇宙空間を十数機のメカが乱舞し、ビームが交錯する中、WBは次々に戦果を上げた。シャアがキャメル艦隊の空域に到達した時、全てが終わっていた。シャアは、そのあつげなさに驚く。

すぐさま木馬の進路を推定するシャア。WBでは、このままルナツーに航行すればザンジバルに追いつかれるのは確実と判断し、戦争中立地帯であるサイド6に向かう事をブライトが決定した。

ミライにはちよつと気掛りな場所である。

第33話

トランストラン強襲

ドズルはかつての配下シャアをキシリアが使っていることが気に入らなかった。そこで自らの戦力で木馬を討ち、シャアの無能を証明すべくコンスコン隊を送る。アムロはGアーマーでパトリール中に、試験中のMAブラウ・プロを発見する。試験操縦中のシムス中尉は特殊な攻撃をかけるが、ガンダムに見破られ撃破された。

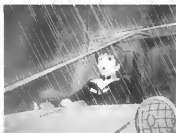
サイド6は中立サイドであり、その領域での戦闘は一切禁止されていた。入港したWBの武器封印に現れた検査官カムランは、ミライのかつての婚約者であったが、ミライの心はすでに離れていた。クルーたちと、街へ買い出しに出たアムロは行方不明だった父の姿を発見し必死に追いかける。

父の下宿しているジャンク屋でアムロは再会を果たすが、父は酸素欠乏症で脳をやられていた。

カムランの計らいで、修理屋ベルガミノがWBを訪れる。領空外の彼の浮きドックで修理するのは条約違反ではないのだ。サイド6を出たWBを、コンスコンが強襲する。しかし、12機のリックドムは、ガンダム一機に全滅させられてしまふ。その結果にコンスコンは呆然とするのだった。







第34話

宿命の出会い

アムロは、サイド6を脱つ前にもう一度父に会おうと、エレカーを走らせていたが降雨時間にひっかかり手近の家へ雨宿りに入った。そこで一人の少女ラアアと出会ったアムロ。

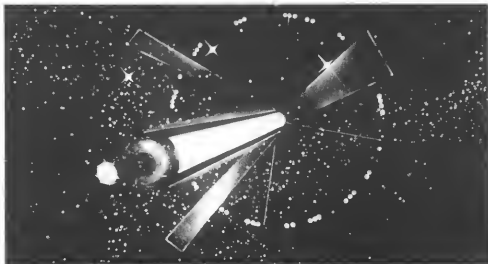
シャアはラアアを連れて行く為にサイド6へ入港する。父と別れたアムロは、WBへ帰艦する途中ぬかるみに車を乗り入れる。偶然通りかかったシャアに助けられ、それが初めての邂逅でありながら、シャアだと直感するアムロ。

WBにはカムランが訪れ、出航時の楯になると申し出る。それを冷たく拒絶したミライの頬にスレッガーの手が飛ぶ。

「この人は本気なんだよ！わかる」

スレッガー中尉のみがまともな大人であった。カムラン艇を楯に出航するWBを、コンスコンが襲う。ガンダムで出たアムロの勅は訝え、ドムはことごとく撃破された。必死のコンスコンは乗艦する手前で突撃するがアムロに沈められる。

それをテレビ中継で見るシャアとラアア。心の中でミライの無事を祈るカムラン。WBは数多くの出会いと別れを残しサイド6を後にした。



## 32話〜34話のまとめ

戦力の充実したWBは、圧倒的な強さを発揮し出す。アムロのガンダム運用が赤い木星ころではない活躍を始めるのである。その活躍の影で、もともとガンタンクはMSとは言いがたい機動性能の低さなので、ハヤトは割を食っている。

宇宙に出たアムロには、今までとはうって変わって戦闘中の閃きが目立つようになる。シャアの副官を務める百戦錬磨の戦歴を持つドレンが、ガンダムにあっさりやられてしまうのである。

航路選定に苦慮したWBは、中立地帯であるサイド6に向かい数々の運命の出会いを体験する。

サイド6は、今次大戦により被害のなかった唯一のコロニー群である。攻撃を仕掛けたサイド3を残し、他のサイドは全滅に近い。たとえ形が残っていても、BC兵器（生物・化学兵器）により人間は残っていないのである。

もともと連邦の高官とも結び付きが強い、ジオン公国とも強い繋がりがあったサイド6は、大戦初期に中立宣言をし両軍に認められていた。

もともとシャアの態度でもわかるように絶対的にサイド6が優位というわけではないのだ。

父を連邦の高官に持つミライは、親同士の決めた許婚であるカムラン・ブルームがいた。ヤシマ家といえば、戦争前にはちよつと知られた名家である。そこらの令嬢程度ではスベースクルーザーの免許を持ちコロニーと地球の間を往復したりはできないのである。

一方のカムランは、今風に言えば東大を主席で出て大蔵官僚になったようなキャリアである。

戦争で引き裂かれた愛というよりは、ミライにとって厄介払いに近い存在だったのだろう。

タムラコック長たちと町に買い出しに出たアムロは、1話で宇宙に飛び出し死んだとばかり思っていた父の姿を発見する。父を追うアムロの見るコロニーの夜景に注目して欲しい。

どこで、どうやって拾われたのかはわからないが、軍用宇宙服とはいえ長期間漂流していたテムの頭脳は酸素欠乏症に陥っていた。真つ暗な宇宙を孤獨に漂流していれば、酸素があっても神経は壊れるような気もするのだが。

そして、アムロとララアである。水鳥の死に驚くアムロに「美しいものが嫌いな人がいて？」と謎の言葉かけののだが、神秘的を通り越してしまつた怪しさが漂っている。

サイド6最後の出会いは、アムロ・シャア・ラ





ラアである。ちなみに、この時は誕生日前なのでアムロは15歳。シャアに歳を聞かれ精一杯の背伸びをして16歳と応えるのがアムロらしい。

サイド6にラアを預けていたのもシャアらしい考えである。フラナガン機関もどうやらキシリアの直属機関だったらしい会話になっている。

シャアは、キシリア配下という事で、サイド6領域に入ってからWBに攻撃をしていない。宇宙空間での戦闘はドズルの領域なのでコンスコンが頑張るわけだが、覚醒を始めたアムロにかなうわけはなかった。そんなわけで、同じ港に敵味方の軍艦が停泊するといういかにも中立サイドという風景もみられたのである。

エピソード数が多くて見落としがちだが、シムスが操縦していたブラウ・プロも忘れてはならないだろう。コクピットの中を見ると、ビームを自在に撃てる小型砲台のような船であるが、このシステムが一人で動かせるようになったものが、MAとなるわけだ。オールレンジ攻撃と表現すると何となく凄そうだが、小型砲塔がワイヤー誘導されて四方八方から攻撃するだけのシステムである。なまじ手動のブラウ・プロでアムロと戦ったばかりにアムロに予備知識を与えてしまったのは敗因であろう。

アムロは宇宙に出てから助が湧いている。特にサイド6で廃人となった父と出会い、さらにシャアと出会った事で、常人の勘の良さの領域をはるかに凌ぐような戦闘をするようになる。

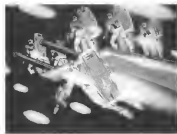
「番組後半になって、ニュータイプという言葉がやたらに出るようになった」と一部のファンから酷評されるわけだが、伏線はちゃんとあったのだから、気がつかなかっただけなのです。



MAブラウ・プロのプロトタイプ。シャリアブルが乗る以前の機数制限タイプの試験機。試験飛行中だったのとエンジン故障が原因でガンダムに敗れる

## 第35話

## ソロモン攻略戦



サイド6を脱出したWBは第三艦隊とコンタクトをとり、輸送艦コロンプスより補給を受ける。

ブライトは艦隊司令に挨拶に行くが、そこで出会った人物は、かつてルナツー司令官だったワッケイン少佐だった。ブライトは彼から、作戦の目的がソロモンであることを知らされる。

一方ソロモンでは、ミノフスキー粒子とダミーで索敵がままならず、ギレンよりの補給も試作のMA一機だけだったことでドズルは苛立っていた。その頃、シャアは、ララアを伴いサイド6を出港していた。

ついに地球連邦軍の先鋒隊はソロモンに攻撃をかけた。ドズルは妻ゼナと、愛娘ミネバを脱出カプセルに避難させる。ティアンム艦隊は、新兵器ソーラ・システム発射の準備を進めていた。太陽ビームの威力は大きく、ゲートに大穴が開きソロモンの戦力も低下する。ガンダムはソロモン内に侵入し、GM隊もそれに続く。

シャアは、キシリアの命令でソロモンへ援軍として向かった。危機を感じたドズルは、妻たちをソロモンから脱出させるのだった。

## 第36話

## 恐怖！機動ビグ・ザム

ミライは、いつしかスレッガーに好意をよせるようになっていた。戦闘中被弾し帰還したGファイターに、ミライの心は落ち着かない。そんなミライに、ブライトはスレッガーの様子を見にやらせた。無事なスレッガーを見て涙するミライに、スレッガーは彼女の心を受け入れたかのように母の形見という指輪を託して戦場に戻る。

一方、月の基地からはマ・クベの艦隊が、ソロモンへ援軍として向かっていた。

ガンダムに乘るアムロは、ソロモンの中で鉄屑のように転がるGMやボールの残骸を発見し、その強力な破壊の跡を追っていた。そのアムロの前に現れた巨大な影、これこそドズル自ら操縦する巨大MAビグ・ザムだった。圧倒的なビグ・ザムの戦力に、連邦軍艦艇が次々に破壊されて行く。

アムロとスレッガーは合体したGアーマーで、ビグ・ザムに突っ込み、突破口を開く。だが、Gアーマーのスレッガーはビグ・ザムに切り裂かれ戦死する。アムロのビームサーベルはビグ・ザムを落とし、執念で戦い続けたドズルも宇宙に散る。ここにソロモンは陥落した。





## 35話と36話のまとめ

かつてのサイド1空域には、ジオンの宇宙要塞ソロモンが浮いている。一週間戦争、ルウム戦役で制宙権を奪われた連邦軍の巻き返しが始まる。

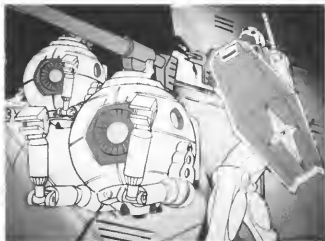
第三艦隊のワッケインと合流したWBは、ソロモン戦に加わるのだが、これくらい規模の大きな戦いではガンダム1機でどうなるものではない。

連邦軍の艦艇の甲板にはGMがびっしり立ち、ソロモン攻略を始める。さらにその正攻法の戦いの裏で、ミノフスキー粒子とサイド1の残骸の影に隠れて接近するティアンムの主力艦隊があった。宇宙空間に無数の小型ミラーを浮遊させ、巨大な凹面鏡を展開させていたのだ。

さしものドズルも、妻子を退避カプセルに避難させる激戦の中、ソロモンのゲートはソーラシステムに焼き払われる。両軍の後を考える余裕のない物量戦の中、ドズル自ら組み立てられたばかりのMAビッグ・ザムで出撃する。両軍の戦法はある意味同じである。ビーム攪乱幕によりビームを遮断しつつ、接近兵器で相手を叩くという形式である。このような戦いになると、何よりもMSの絶対数が物を言う。

ビッグ・ザムが強いといっても無限に動けるわけではない。冷たい言い方だが、スレッガーの死は連邦軍の艦艇数とMS数十機を生き延びさせた程度の物でしかなかったのだ。

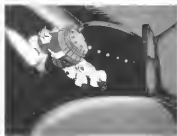
戦術レベルの戦いではなく戦略となると、最後に物を言うのは艦艇の数とMSの数である。この戦いは、工業力に勝る連邦軍の艦艇とMSの数の勝利だったのである。



連邦軍の主力MSジムと廉価版のボール。ボールは作業ボットの機動性を上げ、キャノンを取り付けただけのものだが、移動砲台と考えれば立派に戦力となるわけだ

第37話

テキサスの攻防



ソロモンは墜ち、WBには残存艦の掃討任務が与えられた。テキサスの暗礁空域を索敵するWB。牧畜と観光を目的とされていたテキサスコロニーは、夕暮れの状態のまま放置され内部は砂漠化が進んでいた。シャアは新MS・ゲルグクを受け取りにテキサスへ入港した。コロニー管理省の役人しか残っていないここは実験地として最適だ。

一方、マ・クベは自らの手でガンダムを叩くべく、専用MS・ギャンで出撃した。彼はガンダムをテキサス内部へと誘いこむ。そのテキサスでは、シャアがラアとフラナガン博士と共にゲルグクを受け取りに向かっていた。その時ラアは、何かが自分に近づきつつあるのを感じていた。

マ・クベがギャンで出たのを知ったシャアは、自分もゲルグクで援護に出ようとするが、マ・クベは、シャアの援護を拒む。マ・クベはあんな限りの力を出してガンダムと戦うが、ニュータイプの兆しを見せるアムロの敵ではなかった。

シャアはその戦いを傍観する。マ・クベが、ガンダムのビームサーベルに散ったその瞬間、アムロとラアの心は共鳴を始めていた。

第38話

再会、シャアとセイラ

アムロは、誰かが自分を見ているのを感じていた。シャアはラアをザンジバルへ戻らせる。

コロニーの残骸の中で、テラミンのチベとWBは互いを発見できずにいた。ガンダムのパイロットがニュータイプだと予測したシャアは、捜索方法に出るが、アムロはシャアの動きを読み、ゲルグクに手傷を負わせる。

しかし、ガンダムはアムロの反応速度に追従できなくなっていた。この戦いでパワーを消耗し動けなくなるガンダム。

ワッケインのマゼランが口火を切り、戦闘が始まる。WBはチベを撃破すると、アムロ捜索のためテキサスへ入る。バギーで探索するセイラは、兄キヤスバルと再会する。シャアは、地球へ脱出するくらい金塊を送るから、船を降りよう告げると妹の前から去っていった。ブライトは不審な通信が気になる。セイラはアムロを発見し、WBはシャアのザンジバルと交戦中のワッケインを援護に行くが、時すでに遅くマゼランの残骸が漂うのみであった。そしてセイラは、シャアの残した金塊を前に派手する。





## 37話と38話のまとめ

ソロモン陥落により、しばしの小康状態が続く  
中、WBには残存艦の掃討任務が与えられ、テキ  
サスの暗礁空域を索敵する。

シャアは新型重MSゲルググを受け取りにテキ  
サスに來た。さらにフラナガン博士とララの可  
能性を試験していた。ほとんど無人といえるコロ  
ニーならば、ララアが、その感受性をフルに発揮  
しても影響を受けないからである。ララアは心の  
目でテストターゲットの7割までを確認していた。  
ただ運悪く、マ・クベが専用MS・ギャンで出  
撃しガンダムを姑息な餌にかけている最中であつ  
た。人の憎しみは、鋭敏な心を持つ人間には突き  
刺さる。そして、その相手はアムロである。

「私と同じ人がいるのかしら」

「大佐が私の心を触った感じなんです」

ララの台詞を直訳するなら、アムロはララア  
と同種の心を持ち、ララアに対してはシャアと同  
じ感覚を表すのである。つまり発現状態こそ違つ  
ているが、三人の力は同種の物なのである。

シャアは、自分以上の潜在能力をララアに見て  
いるからこそ、パイロットになれると確信した。

「そうでなければ、孤児だったララアをフラナガ  
ン機関に預けたりしない。サイド6では寂しい思  
いをさせて悪かった」

シャアはかなり周到な準備をしていたようだ。

それはセイラとの再会であきらかになる。ジン  
バ・ラルに育られたシャアは、一種の帝王学を誤  
った方向で吸収していたらしい。ジオン再興を願  
うジンバの思想がシャアをかなり洗脳したようだ。



幼き日のシャアとセイラ。ジオン脱出後の暫くの期間は二人一緒に地球で暮らした。  
マス家の養子として身分を隠し、エドワウとセイラを名乗ったのは放映当時の常識



## 第39話

### ニュータイプ、シャリア・プル

今やソロモンは連邦の拠点として活動を始めていた。そんな時、諺うような声と共に連邦軍戦艦が爆発する事件が続発する。

ミライもソロモンの空域に何かの気配を感じていた。アムロには、その声が自分を呼んでいるように思えるのだった。

ギレン・ザビ総帥は、木星エネルギー船団の長シャリア・プルを謁見していた。フラナガン機関の調査で彼には、ニュータイプの素質が確認されていたのだ。ギレンは彼を空母ドロスでキシリアの下へ送った。そこには、ニュータイプ用のコントロール装置サイコミュを備えたブラウ・ブロが用意されていた。シャリア・プルはブラウ・ブロのテスト飛行に出るが、ガンダムが迎撃する。ニュータイプ同士の戦いは熾烈をきわめる。ブラウ・ブロのオールレンジ攻撃に、アムロはとまどいつつその動きを読み、それを撃破した。

シャリア・プルはギレンとキシリアの間を泳ぎきれない不幸な軍人だったのである。

だが、ガンダムもアムロの反射神経に操縦系がついていけず火花を散らしていた。

## 第40話

### エルメスのナンパ

拡大したアムロの能力に、ガンダムはついて行けなくなっていた。WBはソロモンの技術本部へ呼ばれ、電磁工学の新鋭モスクハン博士によりマグネットコーティングを施される。簡単に言うなら駆動部分に油をさすような改造であるが、ガンダムの反応速度は格段に向上した。

ジオンのコロニー、マハルでは住民の強制疎開が始まっていた。コロニーをソーラレイ・システムに転用する為である。シャアのザンジバルからはラアのエルメスとビットが発進した。シャアもゲルググで護衛に出る。初陣にもかかわらずエルメスは歴戦の勇者の操るがごとく乱舞し味方を驚かせるのだった。

連邦軍には星一号作戦が発動され、WBも遅れて発進した。ティアナム艦隊との合流地点で本隊が交戦しているのを発見したWBは戦闘体制を取る。運動性の増したガンダムにとって、シャアはすでに敵ではなかった。

小破したゲルググから、シャアはラアに攻撃続行を命ずるが、ラアは原因不明の頭痛に襲われていた。





## 39話と40話のまとめ

今でも、宇宙飛行士の多くは一度宇宙に飛び出し、そこから地球見ると宗教的概念を持つそうである。木星船団は宇宙世紀になっても、相当の忍耐力を必要とする業務であった。すなわち、地球圏を遠く離れ、孤独な宇宙の旅に耐える強靱な精神と肉体が不可欠だったのである。

ガンダム世界では、木星船団の多くが究極のスペースノイドという設定になっている。あれだけの孤独な旅に耐える常人を超越した部分があるわけだ。シャリア・ブルが不幸なのは、その洞察力を人間に使えなかった事にある。ニュータイプについては、総帥たるギレンにも報告されていたのだが、積極的に採用したのはキシリアである。

そのパワーバランスを見抜けず、戦闘職人として利用されてしまったのだ。彼にもう少し洞察力があれば権力争いに使われる事もなかったろう。ロボット物アニメとしては、初めてという画期的な演出はガンダムの改造である。ロボットがパワーアップされる例は多いが、操縦者の反応についていけなくなったのは最初ではないだろうか。ガンダム計画には幾つものサブプロジェクトが

あり、その中のひとつであるマグネットコーディネングにより駆動系を磁気で包み機械的摩擦をほぼ取り除いた技術である。その結果、ガンダムを自在に操縦ようになったアムロは、シャアを追い詰めるべくグググを小破させるまでになる。だが、アムロのその能力はますます増大し、MAエルメスで作戦を展開中のララアは、アムロの脳波と共振作用を起こし頭痛に襲われてしまうのだった。



ガンダムを開発する為に、連邦中の科学者が動員されていたようだ。多少マッドな人材を有効活用したのだろう。アムロのお陰で出番のあった代表格がこの人

第41話

光る宇宙



ギレンは着々と、ソーラレイ・システムの準備を進めていた。デギンは、講和条約を結ばんがため、ジオン本国から発進する。シヤアは修理の完了したゲルグで再びWBを叩きに出撃する。敵の動きを察知したWBも、カイ、ハヤト、セイラ、アムロを出撃させた。敵に近づくにつれ、アムロはラアラの心と共に鳴る。

ついにアムロとラアラの対峙する時が来た。二人は互いの存在を確認する。なぜ戦うのかと聞くアムロにラアラは答える、シヤアのために、私を助けてくれた人のためにと。あなたは何も守るべきものが無いのにと。ふたりの不思議な交感を愉快に感じるシヤアが割って入った。

ゲルググをエルメスが、ガンダムをGファイターが援護する。ゲルググがGファイターを攻撃した時、シヤアはアルテイシアと知りたじろいだ。

その隙にガンダムはシヤアを討つが、ビームサールベルが貫いたのは割って入ったエルメスのコクビツだった。ラアラは宇宙に散り、アムロは絶叫する。そしてジオン本国からは、悪魔の光が発射された。

第42話

宇宙要塞ア・バオア・クー

連邦軍主力艦隊に向けてソーラレイ・システムがゲルドルバ照準で発射された。それは、講和のためにレビル艦隊と接触していたデギン公王艦、グレートデギンもろともに連邦の主力艦隊の大半を消し去っていた。

敵艦隊と同一地点でグレートデギンの識別信号を確認したという報告を、キシリアは不審に思いながら、グワジンでア・バオア・クーに到着する。

一方連邦軍残存艦隊は、WBを基点に集結を計り、残存艦隊のみでア・バオア・クー攻撃に出る。ガンダムを攻撃する為にキシリアはシヤアを試作途中のサイコミュを搭載したMSジオングに乗せた。連邦対ジオンの激しい攻防の最中、ギレンの口から父の死の真相を知ったキシリアは、兄を射殺する。

「意外と、兄上も甘いようで」

その一瞬の指揮の乱れに乗じて、連邦軍の残存部隊は次々と要塞に突入した。その戦闘の中、ガンダムとジオングは一騎打ち状態になり死闘を続けていたが、サイコミュを満足に操れぬシヤアは、自分に激しい焦りを感じていた……



第43話

脱出

シヤアも、サイコミュに順応しはじめていた。

一度は見失ったガンダムを再び発見しジオンが、攻撃をしかけてきた。ガンダムも応戦するが、アムロは要塞の中の本当の敵が気になる。ジオンはホデイをやらせ、頭部を切り離してア・バオア・クー内へ逃亡する。

アムロはそれを追ったが、ガンダムも片手と首を失っている。自動操縦にセットされたガンダムは、同じく自動攻撃のジオンクの頭を落とし相打ちとなる。MSを捨て、アムロとシヤアは生身の銃撃戦を始める。

WBもア・バオア・クーに接岸して白兵戦態勢に入る。キシリアは、密かに脱出の準備を進めていた。セイラは、兄の気配を感じると、その方向へと要塞内を進み、剣を交わす兄とアムロの姿に驚く。爆発で散った三人はそれぞれの行動を開始する。シヤアはセイラに別れを告げると、脱出寸前のキシリアを討つ。ララアの意識に励まされたアムロは仲間を誘導し、破損したガンダムに辿り着きコアファイターで脱出する。守るべき人々の手がアムロを迎える。



宇宙世紀0080。この戦いのあと、地球連邦政府とジオン共和国の間で、終戦協定が結ばれた……

## 41話〜43話のまとめ



戦争は狂気を如実に表したラストバトルである。ジョン公国に残された指導者三人の思惑に接点はないに等しい。父デギンは、遅まきながら講和条約を結ばんとしているし、連邦の要であるレビル將軍はそれを受けるつもりだった。だがギレンは父の忠告も聞かず、最終兵器ソーラレイ・システムの発射準備を進め、有効な射程照準であるか否かは関係なく、父を消すためにそれを発射する。

ア・バオア・クー応援に駆けつけたキシリアは、父親殺しを名目に兄を討ち、権力を手中に収めようと画策する。アムロたち兵士の思惑など関係なしに戦争が進み、それが為に最も大切な人を自分の手にかかる悲劇。殺し合う道具ではないというラアの思念も無視して、互いのブライドを掛けて死闘を繰り広げるアムロとシヤア。

セイラの必死の呼びかけにも応じないシヤアであるが、ついに真理に到達する。

「ザビ家の人間は、やはり許せぬと判った。そのケリはつける」

シヤアの放ったバズーカは、脱出するキシリアの首を吹き飛ばし、ザンジバルごと焼き尽くす。

何もかも救いようのない戦場で、たったひとつの希望は、仲間を脱出させる事に自分の力を使うアムロの姿である。ニュータイプ能力は、人を殺すものではない。それはラアの意志。

全ての洞察力を駆使し、WBの仲間たちを避難させるアムロ。爆光の中に沈むWBから脱出したクルーはそのアムロの姿を探し求める。

「人が…そんなに便利に…なれるわけない…」

だが、次の世代を担う子供たちにはアムロの姿が見える。ア・バオア・クーの奥底からコアファイターのアムロを外界に導くカツ・レツ・キッカ。迎える仲間の手に飛び込むアムロの背後を、戦争の道具としてのコアファイターが遠ざかる…

「ごめんよ…まだ僕には帰れる処があるんだ……こんなに嬉しいことはない…判ってくれるよね…ラアには、いつでも会いに行けるから」

何ひとつとして生み出さない戦争の中にあって、魂を救われるようなアムロの台詞である。

自分の居場所が判らない視聴者の少年たちは、この物語を見て考えたはずである。未来はどうなるかわからない…でも自分の帰れる処を僕もつくらなければいけないんだと…

今も、機動戦士ガンダムが、心の中で輝き続けているのは、アムロが自分だったからである。

君は、生き延びることが出来るか……

ガンダム生誕20周年記念企画！  
未曾有のブームを生み出した不朽の名作が  
遂にLD-BOX化!!

## 機動戦士ガンダム

### メモリアルボックス Part-1



LD-BOX：BELL-1201／カラー／約530分／CLV（6枚組11面）

#### 【商品仕様】

ボックスイラストは、キャラクターデザイナー安彦良和の描き下し！  
インナージャケットのイラストは超豪華スタッフ（逢坂浩司、川元利浩、  
佐野浩敏、杉浦幸次）が担当！  
LD各面にはキャラクターをあしらったメモリアルレーベル仕様  
第1～22話までのオープニング・本編・エンディング・次回予告を全て収録

’98年8月1日発売 36,000円（税抜）

ガンダムシリーズ数々あれど、不思議な事にレンタルビデオショップに行っても『機動戦士ガンダム』だけは無い。無いのも道理で、今まで発売されていなかった幻の作品なのである。

再放送、再々放送でビデオ録画していても、よほど放送局に恵まれないと、予告編やEDが割愛されていたりするから完全版を持っている人は、ある程度限られそうである。

バンダイビジュアルから出るメモリアルボックス『機動戦士ガンダム』はマニア待望の完全版だ。若者にとっては伝説の作品ガンダムの解説本としてこの本はピッタリです。「放映当時の解釈」でガンダムワールドの森羅万象を解説してあるのですから。それでも、キャラクター・メカニック・用語がわかりにくいという人には、来月発売の『大事典編』をよろしく願います。

（ま）

リアルロボットの原点がすべて……



機動戦士ガンダムが放映されて、かれこれ20年も経つというのは、ちょっとした衝撃である。ついこの前見たような気がするくらい、頭の中では古びていない物語である。たしかにアニメーションの手法としては古臭い部分があるし、安彦さんが入院されていた期間の絵はアニメーションとしてはツライ。

だが、そういうマイナス要素を考慮しても、エポックメイキングな作品がガンダムである。まあ、放映されている頃の思い入れで200パーセントくらい美化モードになっているのは否定しない。この歳になって、臆面もなく『機動戦士ガンダムはいい!』と口に出せるのは素晴らしい事ではないかと思う。

で、読者に対する恒例のお詫びですが(笑) またまた告知日から一週と発売日を遅れさせてしまってます。最初はこの20年間で追加された資料を整理して、新旧対比させつつサンライズオフィシャル資料を補完してしまおうという企画だったのですが、ガンダムってのはフィルムを優先して考える作品ではなかったのかと思います。今考えると理屈に合わない事が色々ありますが、放映当時の我々が毎週楽しみに見ていた連続テレ

ビアニメーションとしての解説本ならば、それでいいのではないかと考えた次第です。

他所から出る本と食い違いがあったら、おちらが正しいくらいにお考え下さい。この本では20年前の解釈を優先して編集しています。それにしても、編集長が本一冊の全文章を書いた本ってのはこれくらいだと思いますよ。

文体がころころ変化するするのは、思い出すのにかかった時間の差です。20年前にトリップしないと思いつけない内容は、どうもその頃の文体になってます。しかし20年というのは長いですね。当時のセル画はトレース線が吹っ飛び使い物になりやしません。フィルムは退色しちまってるし、保存してあった設定書は黄ばんでぼろぼろという有り様。設定書だけは、サンライズ資料室にお願いして再コピーさせてもらいましたが、飯塚さんに泣き付くあたり、まったく当時の状況の再現です。

かなり苦しい作業ではありましたが楽しい編集でした。お読みになったご意見、ご感想をお知らせいただければ、今後の参考にさせていただきます。

現在作業中の『大事典編』は、8月発売です。そちらもよろしくご愛読下さい。(ま)

ラポートデラックス

# 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol. 1

## 歴史編

©制作エー・エム・シー・サンライズ

---

### STAFF

編集・執筆／小牧雅伸（アニメック編集部）  
編集／千手孝一 穂波優子 最上満衣子 賀屋聡子  
レイアウト／北の湖角子  
Special thanks／飯塚正夫&サンライズ資料室  
表紙イラスト／安彦良和

1998年8月20日 初版発行

編集人 小牧雅伸  
発行人 海野栄一  
発行 ラポート株式会社  
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-1  
TEL03(3354)3951 FAX03(3354)1366  
©RAPPORT K.K.1998  
印刷所 株式会社 美研  
凸版印刷株式会社

景無断転載 Printed in Japan  
定価は表紙に表示しております  
乱丁・落丁がありましたら、おとりがえします

ISBN4-89799-293-1

---



## 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.2

**大事典編**

1998年8月20日発売予定

A5判/カラー16頁・白黒192頁/定価：本体952円＋税

ガンダムのすべてがここに…

機動戦士ガンダム・一年戦争編を中心に最新作の第08MS小隊までを  
余すことなく網羅した、究極のガンダム大事典。

ガンダムの世界観をリアルに支えるメカ用語や多彩な登場人物を  
大胆に解説していく20年目のメモリアルブックです。

## 機動戦士ガンダム大事典 【一年戦争編】

**復刻版**

1998年7月下旬発売予定

B5判カラー98頁・白黒128頁

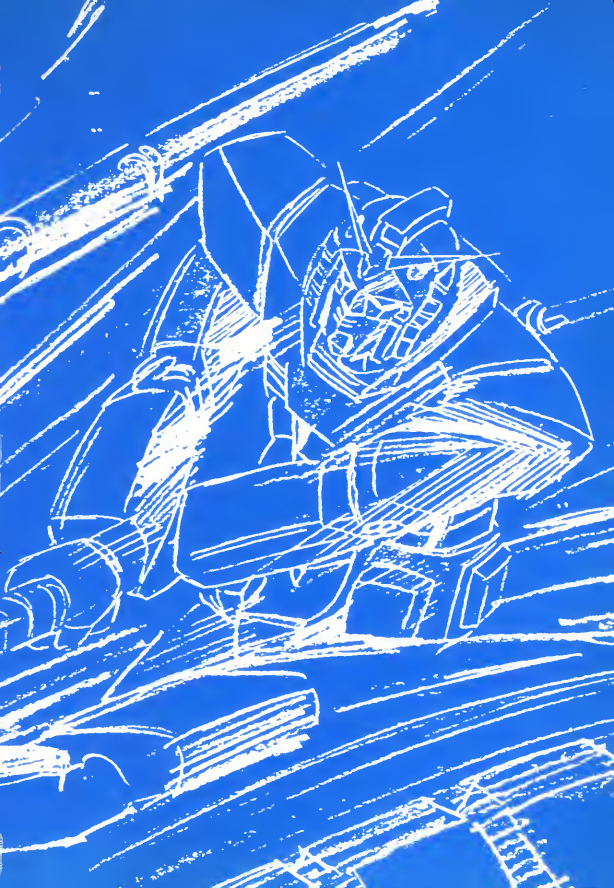
定価：本体1800円＋税

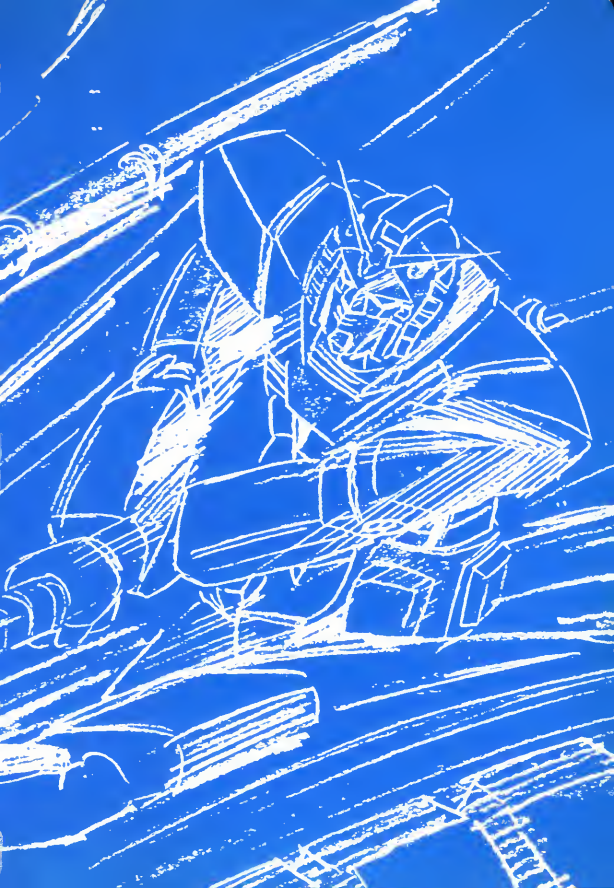
読者の皆様のご要望により文  
字解説中心の歴史編&大事典  
編の原型となった『一年戦争  
編』を完全復刻します。

全話カラーフィルム、イラスト  
満載の豪華永久保存版。









# 機動戦士ガンダム

## 宇宙世紀vol.1

歴史編



# MOBIL SUIT GUNDAM



ISBN4-89799-293-1

C9474 ¥952E

雑誌69160-60

**レポート**

定価：[本体952円] + 税



9784897992938



1929474009526

RD

RAPPORT  
DELUXE

NOV 1971

機動戦車

力

人

宇

宙

世紀

の

歴史

歴史編

21世紀

特別編集

集

1971